

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

[はじめに](#)

[バージョン 5.0 の新機能](#)

[セットアップと管理](#)

[Server Administrator のインストール](#)

[Server Administrator の使い方](#)

[Instrumentation Service\(計装サービス\)](#)

[ベースボード管理コントローラ\(BMC\)の操作](#)

[Remote Access Service](#)

[Storage Management Service\(ストレージ管理サービス\)](#)

[Server Administrator ログ](#)

[Diagnostic Service\(診断サービス\)](#)

[トラブルシューティング](#)

[用語集](#)



メモ: コンピュータの利用と操作に役立つ重要な情報を説明しています。



注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性あることを示し、その危険を回避する方法を説明しています。

このマニュアルの情報は予告なしに変更される場合があります。
© 2006 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可なしには、いかなる方法においても、このマニュアルの複写、転写を禁じます。

このマニュアルで使用されている商標: Dell, DELL ロゴ, PowerEdge, PowerVault, および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Microsoft, Windows, MS-DOS, および Windows NT は Microsoft Corporation の登録商標です。Windows Server は Microsoft Corporation の商標です。Novell および SUSE は Novell Inc. の登録商標です。Intel および Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Intel386 は Intel Corporation の商標です。Red Hat は Red Hat, Inc. の登録商標です。VESA は Video Electronics Standards Association の登録商標です。UNIX は アメリカ合衆国および他国の The Open Group の登録商標です。OS/2 は International Business Machines Corporation の登録商標です。VMware は VMware の登録商標です。ESX Server は VMware Inc. の商標です。

Server Administrator には、Apache Software Foundation(www.apache.org)によって開発されたソフトウェアが含まれています。Server Administrator は OverLIB JavaScript ライブラリを利用しています。このライブラリは www.bosrup.com から入手できます。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すために、その他の商標や社名が使用されていることがあります。これらの商標や会社名は Dell Inc. に所属するものではありません。

2006 年 2 月

[目次ページに戻る](#)

トラブルシューティング

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [対応 Red Hat® Enterprise Linux および SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム実行のシステムで警告処置を設定する](#)
- [サービス名を理解する](#)
- [Server Administrator インストールのエラーを修正する](#)

対応 Red Hat® Enterprise Linux および SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム実行のシステムで警告処置を設定する

イベントの警告処置を設定する場合、「サーバーで警告を表示」する処置を指定できます。この処置を実行するため、Server Administrator はコンソールにメッセージを書き込みます。Server Administrator で X Window System を実行している場合、デフォルトではそのメッセージが表示されません。X Window System の実行中に警告メッセージを表示するには、イベント発生前に `xconsole` を起動する必要があります。

イベントの警告処置を設定する場合、「メッセージをブロードキャスト」するように処置を指定できます。この処置を実行するために、Server Administrator はメッセージ権限が「はい」に設定された状態でログインしているユーザー全員にメッセージを送信する `wall` コマンドを実行します。Server Administrator で X Window System を実行している場合、デフォルトではそのメッセージが表示されません。X Window System の実行中にブロードキャストメッセージを表示するには、イベント発生前に `gnome-terminal` などのターミナルを起動する必要があります。

イベントの警告処置を設定する場合、「アプリケーションを実行」するように処置を設定できます。Server Administrator が実行できるアプリケーションには制限があります。正しく実行するために、次のガイドラインに従ってください。

- 1 Server Administrator では X Window System ベースのアプリケーションを正しく実行できないため、この種類のアプリケーションは指定しないでください。
- 1 Server Administrator はユーザーからの入力が必要とするアプリケーションを正しく実行できないため、ユーザーからの入力が必要とするアプリケーションを指定しないでください。
- 1 出力やエラーメッセージが見えるように、アプリケーション指定時に、`stdout` と `stderr` をファイルにリダイレクトしてください。
- 1 複数のアプリケーション(またはコマンド)で警告を実行する場合、そうするスクリプトを作成し、「実行するアプリケーション」ボックスに完全パスを入力してください。

例 1:

```
ps -ef >/tmp/psout.txt 2>&1
```

例 1 のコマンドは、`ps` のアプリケーションを実行し、`stdout` を `/tmp/psout.txt` ファイルにリダイレクトして、`stderr` を `stdout` と同じファイルにリダイレクトします。

例 2:

```
mail -s "Server Alert" admin </tmp/alertmsg.txt>/tmp/mailout.txt 2>&1
```

例 2 のコマンドはメールアプリケーションを実行して、`/tmp/alertmsg.txt` ファイルに含まれているメッセージを Red Hat Enterprise Linux ユーザーまたは SUSE LINUX Enterprise Server ユーザーまたはシステム管理者に「サーバー警告」という件名で送信します。イベントが発生する前に、ユーザーによってファイル `/tmp/alertmsg.txt` が作成される必要があります。さらに `stdout` と `stderr` は、エラーが起きた場合、ファイル `/tmp/mailout.txt` にリダイレクトされます。

BMC プラットフォームイベントのフィルタ警告メッセージ

使用可能なすべてのプラットフォームイベントフィルタ(PEF)メッセージと各イベントの説明を [表 12-1](#) に示します。

表 12-1 BMC PEF 警告イベント

イベント	説明
ファンブロープエラー	ファンの稼働速度が遅すぎるかまったく稼働していません。
電圧ブロープエラー	電圧が低すぎて適切な操作が行えません。
離散的電圧ブロープエラー	電圧が低すぎて適切な操作が行えません。
温度ブロープ警告	温度が高温、低温の限界に近づいています。
温度ブロープエラー	温度が高すぎるか低すぎて適切な操作が行えません。
シャーンイントルージョンが検出されました	システムシャーンが開かれました。
冗長性(PS またはファン)が低下しています。	ファンおよび / または電源装置の冗長性が少なくなりました。
冗長性(PS またはファン)が失われました。	システムのファンおよび / または電源装置の冗長性が残っていません。
プロセッサ警告	プロセッサがピークパフォーマンスまたは速度以下で実行されています。
プロセッサエラー	プロセッサが失敗しました。
PPS/VRM/DctoDC 警告	電源装置、電圧調整モジュールまたは DC ツー DC 変換機でエラー条件が保留になっています。
電源装置 / VRM/D2D エラー	電源装置、電圧調整モジュールまたは DC ツー DC 変換機が失敗しました。
ハードウェアログがいっぱいまたは空です。	ハードウェアログがいっぱいか空のため、システム管理者の注意が必要です。
自動システム回復	システムがハングしているか、応答しておらず、自動システム回復によって設定された処置を実行しています。

サービス名を理解する

次のサービスのサービス実行ファイルおよび表示名が変更されました。

表 12-2 サービス名


目的	サービス名	旧リリース	現在のリリース
Web Server			
	表示名	セキュリティ保護されたポートサーバー	DSM SA 接続サービス
	実行ファイルの名前	Omaaws[32 64]	dsm_om_connsvc[32 64]
			dsm_om_connsvc
スケジュールまたは通知			
	表示名	OM 一般サービス	DSM SA 共有サービス
	実行ファイルの名前	Omsad[32 64]	dsm_om_shrsvc[32 64]
			dsm_om_shrsvc

Server Administrator インストールのエラーを修正する

再インストールを強制し、Server Administrator のアンインストールを実行することによりインストールエラーを修正することができます。

再インストールを強制するには：

- 過去にインストールされた Server Administrator のバージョンを検索します。
- そのバージョンのインストールパッケージをデルのサポートウェブサイト、support.dell.com からダウンロードします。
- `srvadmin\windows\SystemManagement` ディレクトリから `SysMgmt.msi` を指定します。
- コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して、再インストールを強制します。

```
msiexec /i SysMgmt.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vamus
```
- カスタムセットアップ** を選択し、すでにインストールされてる機能をすべて選択します。どの機能がインストールされているが不明確な場合は、すべての機能を選択してインストールを実行します。
 **メモ:** Server Administrator をデフォルトでないディレクトリにインストールしている場合は、必ず**カスタムセットアップ**においてもこれを変更するようにしてください。
- アプリケーションがインストールされた時点で、プログラムの追加と削除機能を使って Server Administrator をアンインストールすることができます。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Diagnostic Service (診断サービス)

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド


- [概要](#)
- [Diagnostic Service でサポートされたデバイス](#)
- [Diagnostic Service 機能](#)
- [Diagnostic Service のアップグレード](#)
- [Diagnostic Service の設定](#)
- [再列举デバイス](#)
- [診断の実行](#)
- [診断のスケジュール設定](#)

概要

Server Administrator Diagnostic Service は、ご使用のシステムでローカルに、またはネットワーク上でリモートにアクセスできる診断プログラム、または **テストモジュール** のセットです。実行する診断テストは、Server Administrator によってシステム上に検出されるハードウェアを表す階層メニューから選択します。システムのさまざまな部分のテストを選択して、1 つのセッションで同時または連続して実行することができます。さらに、テスト結果は個別に選択した各テストまたはハードウェアコンポーネントごとに表示できます。


 **メモ:** Diagnostic Service を使用して診断テストを実行するには、Server Administrator で「システム管理者」特権が「パワーユーザー」特権を持っている必要があります。

Diagnostic Service は個々のシステムの問題を診断するように設計されています。問題が 1 つのシステムの NIC に存在しない限り、ネットワークレベルで発生する問題には対処しません。

 **メモ:** Diagnostic Service は、テスト中のシステムで実行されているその他のすべてのアプリケーションと同時に実行されます。これらの診断を実行すると、システムに余分な負荷がかかるため、システムと実行中のすべてのアプリケーションの性能に影響を与えます。迅速な対応を必要とするアプリケーションや、多くのシステムリソースを消費する重要なアプリケーションを実行している場合は、これらの診断を実行する前に十分注意を払ってください。不要なアプリケーションはすべて閉じて、システム使用のピーク時間外に診断を実行するようにしてください。

コマンドラインからの Diagnostic Service の実行方法については、『Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。

Diagnostic Service を使用する場合、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについての詳細が表示されます。Diagnostic Service のヘルプは、Server Administrator がシステム上に検出するデバイスグループに実行できるすべての診断テストで使用できます。

 **メモ:** **診断** タブは Server Administrator で使用できず、**Diagnostic Service** は、起動時に **正常性** ページにリストされていません。Diagnostic Service は、列挙(システムをスキャンして診断に使用できるデバイスを探すこと)を開始する前に、Server Administrator サービスが完全に開始されるのを待ちます。<F5>を押して更新すると、列挙が完了すると **診断** タブが表示されます。この処理は一部のシステムでは数分かかることがあります。

Diagnostic Service でサポートされたデバイス

PowerEdge Diagnostic Service は、以下の Dell 提供ハードウェアデバイスの診断を提供します。

- 1 Dell Remote Access Controller (DRAC)
- 1 RAID コントローラ
- 1 SAS コントローラ
- 1 SCSI コントローラ
- 1 USB コントローラ
- 1 相補形金属酸化膜半導体 (CMOS)
- 1 光ドライブ
- 1 ディスケットドライブ
- 1 ハードドライブ
- 1 メモリ
- 1 モデム
- 1 NIC
- 1 パラレルポート
- 1 PCI バス
- 1 シリアルポート
- 1 テープドライブ
- 1 テープオートローダ


 **メモ:** Server Administrator 診断がサポートしているハードウェアデバイスの全リストは、『Server Administrator 互換性ガイド』に掲載されています。

表 11-1 に、診断テストから報告された各種の結果とイベントを一覧で示します。

表 11-1 結果とイベント

結果	説明
パス	テストは正常に完了しました。これは、情報イベントに生じます。
失敗	重要なエラーが発生したためテストは失敗しました。これにより、エラーイベントが発生し、エラーメッセージが表示されます。
異常な状態	内部エラーが発生したか、またはリソースを利用できないため、テスト結果を判定できません。これにより、警告イベントが発生し、警告メッセージが表示されます。
中止	テストはユーザーにより中止されました。

Diagnostic Service 機能

「[Diagnostic Service でサポートされたデバイス](#)」の項で一覧表示したデバイスの診断テストのほかに、Diagnostic Service は次の機能を提供しています。

1 デバイスの列挙

この機能によって、システムのすべてのテスト可能なデバイスを再列挙できます。

この機能にアクセスするには、**診断タブ** をクリックしてから **再列挙** をクリックします。

1 デバイスおよびテスト選択

この機能によって、診断テストを実行するデバイスと実行するテストを選択できます。

この機能にアクセスするには、**診断タブ** をクリックしてから **設定** をクリックします。

1 診断スケジューラ

この機能によって、指定の時間と頻度で実行する診断テストを選択できます。

この機能の設定方法についての詳細は、「[診断のスケジュール設定](#)」を参照してください。

1 診断テストの確認

この機能によって、選択した診断テストを確認できます。

この機能にアクセスするには、**診断タブ** をクリックしてから **レビュー** をクリックします。

1 診断テストの状態

この機能によって、実行中の診断テストの状態を表示できます。

この機能にアクセスするには、**診断タブ** をクリックしてから **状態** をクリックします。

1 診断結果履歴

この機能を使うと、結果履歴ログファイルを表示できます。このログファイルには、これまでに実行された診断テスト結果の記録が含まれています。**診断アプリケーション設定** ウィンドウでこのログファイルの最大サイズを指定できます。

この機能にアクセスするには、**診断タブ** をクリックしてから **結果** をクリックします。

1 ハードウェア構成変更

この機能を使うと、システムまたはセキュリティ保護されたポートサーバーの再起動時から、または再列挙が実行されてから、テスト対象デバイスに対して行われた変更を表示できます。ハードドライブの追加、または削除などシステム設定に変更があれば、それを報告します。

この機能にアクセスするには、**診断タブ** をクリックしてから **ハードウェアの変更** をクリックします。


1 ハードウェア構成変更履歴

この機能を使うと、ハードウェア構成変更の履歴が含まれるログファイルを表示できます。

この機能にアクセスするには、**診断タブ** をクリックしてから **ハードウェアの変更** をクリックし、**ハードウェアの変更履歴** をクリックします。

Diagnostic Service のアップグレード


Diagnostic Service アップグレードは、Dell OpenManage™ Server Administrator のアップグレード中に自動的に行われます。

 **メモ:** Diagnostic Service は、Server Administrator 2.0 から Server Administrator 5.x またはそれ以降へアップグレードできます。しかし、Server Administrator 1.x から Server Administrator 2.x へはアップグレードできません。

Dell OpenManage Server Administrator アップグレードの手順についての詳細は、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

アップグレード中、以下の機能は保持されます。

- 1 診断アプリケーション設定
- 1 スケジュールされた診断タスク

 **メモ:** Diagnostic Service アップグレードが完了したら、取り外されたデバイスで実行するようスケジュールされたタスクは削除されます。

Diagnostic Service の設定

Diagnostic Service では、診断テストを実行するオプションを設定することができます。アプリケーション設定とテスト実行設定の両方でオプションを設定できます。

アプリケーション設定の設定

アプリケーションを設定するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで、グローバルナビゲーションバーの **プリファランス** をクリックし、**診断** タブをクリックします。

2. **診断アプリケーション設定** ウィンドウで、必要なオプションを設定します。

診断アプリケーション設定 ウィンドウでは、次のコントロールを使用できます。

- 1 **テスト警告メッセージを表示する** チェックボックスを選択すると、メモリテストなどリソースを多く使うテストを実行する前に警告メッセージが表示されます。
- 1 **診断警告画面を表示する** チェックボックスをオンにして、**診断警告画面** を表示します。
- 1 **RMI レジストリポート** で、RMI レジストリが接続を待ち受けるサーバーソケットポートを指定します。
- 1 **診断結果履歴の最大ファイルサイズ** で、結果履歴ファイルの最大ファイルサイズをメガバイト(MB)で指定します。ファイルがこの制限を超えると、Diagnostic Service は一番古いログから順番に、指定の制限になるまで古いログエントリを消去します。
- 1 **ハードウェア設定結果履歴の最大ファイルサイズ** で、ハードウェア設定変更履歴ファイルの最大ファイルサイズをメガバイト(MB)で指定します。ファイルがこの制限を超えると、Diagnostic Service は一番古いログから順番に、指定の制限になるまで古いログエントリを消去します。
- 1 **表示された完了テストの最大数** で、**状態** ウィンドウで表示された完了テストの最大数を指定します。
- 1 **メモリにある完了テストのタイムアウト** で、テスト結果をアプリケーションキャッシュに保存する最大時間数(分)を指定します。

3. **診断アプリケーション設定** ウィンドウのオプション設定を終えたら、**変更の適用** をクリックします。

テスト実行設定の構成


テスト実行の設定には、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで **診断** タブをクリックしてから、**設定** をクリックします。

2. **診断テスト実行の設定** ウィンドウで、必要なオプションを設定します。

診断テスト実行の設定 ウィンドウでは、次のコントロールを使用できます。

- 1 **最初のエラー発生でテストの実行を中止する** チェックボックスを選択して、エラー発生時にテストをすぐに中止します。
- 1 指定のテストに使用できる場合には、**クイックテスト** チェックボックスを選択し、速いアルゴリズムを使ってテストを実行します。クイックテスト モードを実行後にエラーが報告されなかったにもかかわらず、テストしたハードウェアに問題があると考えられる場合は、**クイックテスト** を選択解除して同じテストを実行してください。
- 1 **エラー発生で複数パステストの実行を中止する** チェックボックスを選択して、エラー発生時にテストが続いてパスするのを中止します。
- 1 次のいずれかのオプションを選択して、選択したテストのパスの数、またはランタイムを指定します。
 - **パスの数を有効にする** でテストの実行回数を指定します。**パスの数** フィールドに数を入力します。
 - **ランタイムを有効にする** で、テストを実行できる最高時間を分単位で指定します。**ランタイム** フィールドに時間を入力します。

 **メモ:** テストは最新のパスを完了するまで、指定のランタイム内で停止しません。実行するテスト用に最大のランタイム数が残っている場合に限り、テストは次のパスを開始します。


3. **診断テスト実行の設定** ウィンドウの設定が完了したら、**変更の適用** をクリックします。
-

再列挙デバイス

システムの再起動時、またはセキュリティで保護されたポートサーバーの再起動時には必ず、システムはテスト可能なデバイスをシステム上に列挙します。さらに、再列挙機能を使うと、列挙することができます。

デバイスを再列挙するには、次の手順を実行してください。

1. Server Administrator のメインウィンドウで、**診断** タブをクリックします。
2. **診断選択** ウィンドウで **再列挙** をクリックします。

 **メモ:** この処理は一部のシステムでは数分かかることがあります。

3. **列挙状態** をクリックして、列挙処理の進行状態を表示します。

診断最列挙の進行状況 ウィンドウが開きます。列挙作業の完了状況のパーセントがプログレスバーによって表示されます。


診断の実行

診断テストを実行するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator のメインウィンドウで、**診断** タブをクリックします。
2. **診断選択** ウィンドウで実行するテストを選択します。

診断選択 ウィンドウでは、次のコントロールを使用できます。

1. **使用できるデバイス** リストで、デバイスを選択し、そのデバイスに該当するテストを表示します。

実行できるデバイスとテストの情報を取得するには、情報()アイコンをクリックします。


1. **適応するすべてのテストを表示する** を選択して、システムに該当するすべてのテストを表示します。

選択されたデバイスのみに対応するテストを表示する を選択し、**使用できるデバイス** リストで選択したデバイスに該当するテストのみを表示します。

1. **使用できるテスト** リストで目的のテストを選択します。

3. **選択のレビュー** をクリックします。

4. **診断選択のレビュー** ウィンドウに、現在選択されている診断テストが表示されます。

1.  アイコンをクリックすると、テストが一覧から削除されます。

1. **変更** をクリックし、テスト設定を変更します。

診断テスト実行の設定 ウィンドウには、現在の設定が一覧表示されます。必要な変更を行い、**変更の適用** をクリックします。

変更を加えない場合には、**選択のレビューページに戻る** をクリックします。


1. **表示** をクリックして、テスト詳細を表示します。

診断レビュー選択の詳細 ウィンドウで、**レビュー画面に戻る** をクリックします。

1. **追加テストの選択** をクリックし、**診断選択** のウィンドウに移動し、追加テストを選択します。




5. 実行するテストを選択したら、**テストの実行** をクリックします。


テストは選択された順に実行待ちになります。


 **メモ:** 後でテストを実行するようにスケジュールする場合は、「[診断のスケジュール設定](#)」を参照してください。


6. **状態** をクリックして、テストの実行状態をモニタします。


診断状態 ウィンドウが開きます。**状態** の列のアイコンに、各テストの状態が表示されます。


進行中のアイコン()は、テストが実行中であることを示します。このテストをコマンドラインから実行した場合には、進行中のアイコンの横に CLI アイコン()があります。スケジュールされたテストの場合には、進行中のアイコンの横に、スケジューラアイコン()があります。

中止アイコン()は、テストが中止されたことを示します。

一時停止アイコン()は、テストが一時停止されたことを示します。**再開** をクリックして、このテストの実行を再開します。

OK アイコン()は、テストが正常に実行されたことを示します。

非重要アイコン()は、テストの実行中に非重要なエラーが発生したことを示します。

重要アイコン()は、テストが失敗したことを示します。


- 1 **中止** をクリックして、現在のテストを中止します。**すべて中止** をクリックして、キューされたすべてのテストを停止します。
- 1 **一時停止** をクリックして、テストの実行を一時停止します。テストの実行を再開する場合には、**再開** をクリックします。
- 1 **クリア操作完了** をクリックして、ウィンドウから完了テストを削除します。ただし、このボタンをクリックしても、次のテストはクリアされません。
 - 現在実行中のテスト
 - それらが完了済みかどうかに関わらず、CLI からすでに送信済みのテスト
- 1 **表示** をクリックして、テストの実行進行状況を表示します。


診断進行状況 ウィンドウが開きます。各テストの各パスの完了状況のパーセントがプログレスバーによって表示されます。

状態ページに戻る をクリックすると、**診断選択** のウィンドウに戻ります。
- 1 **結果の表示** をクリックして、テスト結果の詳細を表示します。**診断結果履歴 - 結果詳細** ウィンドウが開きます。


診断のスケジュール設定


すぐに診断テストを実行する代わりに、指定の日時に自動的に実行するようにテストをスケジュールすることもできます。

 **メモ:** 診断をスケジュール設定するときに入力する日時は、Server Administrator を実行中のシステムの日時に合わせて確認されます。

 **メモ:** 診断サービスを現在のリリースにアップグレードすると、Server Administrator 1.8 以前でスケジュールされたタスク、ハードウェアの変更履歴、結果履歴などは維持されません。

特定の日に診断を実行するようスケジュールを設定するか、以前にスケジュール設定されたテストを削除するには、次の手順を実行します。


1. スケジュールするテストを選択します。テストの選択については、「[診断の実行](#)」を参照してください。
2. **診断選択レビュー** ウィンドウで **スケジュール** をクリックします。
 - a. **タスク名** フィールドにタスク名を入力します。
 - b. **タスク詳細** フィールドにタスクの詳細を入力します。
 - c. **開始時刻** フィールドに時間を選択して、選択した診断を実行する時刻を指定します。
 - d.  (カレンダー) ボタンをクリックして、カレンダーのグラフィックから **開始日** を選択します。
 - e. テストの **頻度** を選択します。
 - 選択された診断テストを **開始日** の **開始時刻** に 1 度だけ実行する場合は、**1 度** をクリックします。
 - 選択された診断テストを **開始日** 以降の **開始時刻** に毎日実行する場合は、**毎日** をクリックします。
 - 選択された診断テストを、**開始日** の **開始時刻** に実行してから、**開始日** の **開始時刻** から 1 週間間隔で毎週行う場合は、**毎週** をクリックします。
 - 選択された診断テストを、**開始日** の **開始時刻** に実行してから、**開始日** の **開始時刻** から 1 ヶ月間隔で毎週行う場合は、**毎月** をクリックします。
 - f. **スケジュールされたタスクの表示** をクリックして、スケジュールされた診断タスクのリストを表示します。
3. **スケジュール** をクリックして、テストをスケジュールします。
4. すべてのアプリケーションテストをスケジュールまたは削除するまで、[手順 2](#) と [手順 3](#) を繰り返します。

 **メモ:** 複数のテープデバイスで同時に診断の実行をスケジュールしないでください。また、診断テストを SCSI 通信テストと同時に実行しないでください。

スケジュールされたテストのレビュー

スケジュールした診断テストをレビューして、変更を加えることができます。テストを追加、削除、またはスケジュールすることもできます。スケジュールされたテストを表示するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで **診断** タブをクリックしてから、**スケジュールされたタスク** をクリックします。

スケジュールされた診断タスク ウィンドウが開きます。これによって、最後のランタイムおよび次のランタイムなどのテストスケジュールの詳細が表示されます。
2. **すべてキャンセル** をクリックして、すべてのスケジュールされたタスクの実行をキャンセルします。
3. **更新** をクリックして、ウィンドウを更新し、スケジュールされたテストに関する最新情報を取得します。
4. 各テストの横にある  アイコンをクリックし、その特定の記録をリストから削除します。
5. **表示** をクリックして、デバイス、テスト、またはテスト設定に関する詳細情報を表示したり、テストのスケジュールを変更します。
6. **診断スケジュール** ウィンドウで、必要な変更を加えて **スケジュールの変更** をクリックします。

[目次ページに戻る](#)

用語集

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

システムドキュメントで使用される技術用語、略語、頭字語の定義を示します。

A

アンペア (ampere) の略語。

AC

交流電流 (Alternating Current) の略語。

AC 電源

主要 AC 入力に障害が起きたときに、スタンバイの AC 入力に切り替えることによって AC 電源冗長を提供する 2 つの AC 電源入力を持つスイッチ。

ACL

アクセス制御リストの略語。ACL ファイルは、Novell® ウェブサーバーに保管されているリソースに誰がアクセスできるかを定義するリストが入ったテキストファイルです。

ADB

割り当てデータベース (assign database) の略語。

AGP

アドバンスドグラフィックスポート (Advanced Graphics Port) の略語。

ASCII

情報交換用米国標準コード (American Standard Code for Information Interchange) の頭字語。ASCII 文字セットの文字だけを含むテキストファイル (通常、Microsoft® Windows® のメモ帳などのテキストエディタで作成) は、ASCII ファイルと呼ばれます。

ASIC

特定用途向け集積回路 (Application-Specific Integrated Circuit) の頭字語。

ASPI

高機能 SCSI プログラミングインタフェース (Advanced SCSI programming interface) の頭字語。

autoexec.bat ファイル

コンピュータを起動すると、`config.sys` ファイル内のコマンドが実行された後で、`autoexec.bat` ファイル内のコマンドが実行されます。起動ファイルには、コンピュータに接続されている各デバイスの特定を定義するコマンドが入っており、アクティブディレクトリ以外のディレクトリにあるプログラムを検索して実行します。

BGA

システム基盤への接続にピンではなく底面の基盤に並ぶ球状のハンダを使用する集積回路 (IC) パッケージ、ボールグリッドアレイ (Ball Grid Array) の略語。

BIOS

基本入出力システム (Basic Input/Output System) の頭字語。コンピュータの BIOS は、フラッシュメモリチップに格納された複数のプログラムからなります。BIOS は次の事項を制御します。

- 1 プロセッサと周辺デバイス（キーボード、ビデオアダプタなど）との間の通信。
- 1 各種の制御機能（システムメッセージなど）

BMC

ベースボード管理コントローラ（baseboard management controller）の略。IPMI 構造にインテリジェンスを提供するコントローラです。

bpi

インチあたりのビット数（bits per inch）の略語。

bps

秒あたりのビット数（bits per second）の略語。

BTU

英国熱量単位（British thermal unit）の略語。

C

摂氏（Celsius）の略語。

CA

証明機関（Certification authority）の略語。

CDRAM

キャッシュ DRAM の略語。三菱によって開発された、小さい SRAM キャッシュを含む高速 DRAM メモリチップ。

CD-ROM

コンパクトディスク読み取り専用メモリ（compact disc read-only memory）の略語。CD ドライブは光学技術を使用して、CD からデータを読み取ります。CD は読み取り専用ストレージ デバイスです。標準 CD ドライブで新しいデータを CD に書き込むことはできません。

CHAP

Challenge-Handshake Authentication Protocol の略語。PPP サーバーが使用している認証スキームで、接続時またはそれ以降に、接続元の一致を確認します。

CI/O

完全入出力（Comprehensive input/output）の略語。

CIM

DMTF からの管理情報について説明したモデル、Common Information Model の略語。CIM は実装に依存しないため、異なる管理アプリケーションでさまざまなソースから必要なデータを収集できます。CIM にはシステム、ネットワーク、アプリケーションおよびデバイスのスキーマが含まれ、新しいスキーマが追加されます。MIB データを SNMP エージェントから CIM データと交換するマッピング技術を提供します。

CIMOM

Common Information Model Object Manager の略語。

CLI

コマンドラインインタフェース (Command Line Interface) の略語。

cm

センチメートル。

CMOS

相補形金属酸化膜半導体 (Complementary metal-oxide semiconductor) の略語。 システムでは、CMOS メモリチップは NVRAM 記憶領域でよく使用されます。

COM n

コンピュータ上にある 1 ~ 4 番目のシリアルポートのデバイス名は、COM1、COM2、COM3、COM4 です。 COM1 と COM3 のデフォルト割り込みは IRQ4、COM2 と COM4 のデフォルト割り込みは IRQ3 です。 したがって、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときには、割り込みのコンフリクトが発生しないように注意する必要があります。

config.sys ファイル

config.sys ファイルは、システム起動時に (autoexec.bat ファイルでコマンドを実行する前に) 実行されます。 この起動ファイルには、インストールするデバイスや使用するドライバを指定するコマンドが含まれます。 このファイルには、オペレーティング システムのメモリ使用方法とファイル管理方法を決定するコマンドが含まれます。

ConsoleOne

Novell ConsoleOne は、Java ベースのグラフィカルユーティリティ基盤で、異なる場所やプラットフォームからのネットワークリソースを管理します。 ConsoleOne では、Novell およびすべての外部製品を一ヶ所で管理することができます。

COO

所有コスト (Cost of Ownership) の略語。

cpi

インチあたり文字 (characters per inch) の略語。

CPU

中央処理装置 (Central processing unit) の略語 「プロセッサ」も参照してください。

CRC

周期冗長検査コード (Cyclic redundancy code) の略語。 破損を検出するために、データのブロックから取り出し、保存、または転送される数値。 CRC を再計算して元来転送された値と比較することによって、転送エラーの種類が検出できます。

CSR

認証署名要求 (Certificate signing request) の略語。

DAT

デジタルオーディオテープ (Digital Audio Tape) の略語。

dB

デシベル (decibel) の略語。

dBA

補正デシベル (adjusted decibel) の略語。

DBS

Demand Based Switching の略語。DBS は、プロセッサの活用度が低いときに低電力状況に切り替えて電源管理を行うことです。システムの標準電力を節約しながら、アプリケーションのパフォーマンスは衰えません。

DC

直流電流 (Direct Current) の略語。

また、デュアルチャネル (Dual Channel) の略語でもあります。

DHCP

ダイナミックホスト設定プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol) の略語。このプロトコルは IP アドレスを LAN のコンピュータに動的に割り当てる手段を提供します。

DIMM

デュアルインラインメモリモジュール (Dual in-line memory module) の略語。DRAMチップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

DIN

ドイツ工業規格である Deutsche Industrie Norm の頭字語。DIN コネクタは、DIN によって定義された多くの標準に従うコネクタです。DIN コネクタは、パソコンで幅広く使用されています。たとえば、パソコンのキーボード コネクタは DIN コネクタです。

DIP

デュアルインラインパッケージ (dual in-line package) の略語。システム基板や拡張カードなどの回路基板には、回路基板を設定するための DIP スイッチが含まれている場合があります。DIP スイッチは常にオンとオフの切り替えスイッチです。

DKS

ダイナミックカーネルサポート (Dynamic kernel support) の略語。

DMA

ダイレクトメモリアクセス (direct memory access) の略語。DMA チャンネルを使うと、RAM とデバイス間の特定の種類のデータ転送を行ってプロセッサをバイパスできます。

DMTF

ハードウェアとソフトウェアのプロバイダを代表する協会、Distributed Management Task Force の略語。

dpi

ドットパーインチ (dots per inch) の略語。

DPMS

ディスプレイ電力管理信号 (Display Power Management Signaling) の略語。モニタの電力管理状態をアクティブにするために、ビデオコントローラが送信するハードウェア信号を定義する Video Electronics Standards Association (VESA®) によって作成された標準。モニタは、システムのビデオコントローラから適切な信号を受信した後で電力管理状態に入るよう設計されている場合、DPMS 準拠と呼ばれます。

DRAC 4

Dell™ Remote Access Card 4 の頭字語。

DRAC II

Dell OpenManage™ Remote Assistant Card II の頭字語。

DRAC III

Dell Remote Access Card III の頭字語。

DRAC III/XT

Dell Remote Access Card III/XT の頭字語。

DRAM

ダイナミックランダムアクセスメモリ (Dynamic random-access memory) の略語。 システムの RAM は通常、DRAM チップによって構成されています。 DRAM チップは無限に充電状態を保存できないため、システムは各 DRAM チップを継続的にリフレッシュします。

DTE

データ端末装置 (Data terminal equipment) の略語。 コンピュータシステムのように、ケーブルまたは通信回線を使ってデジタル形式でデータを送信できるデバイス。 DTE は、モデムのようなデータ通信機器 (DCE) デバイスを使って、ケーブルまたは通信回線に接続されます。

ECC

誤り検出訂正 (Error checking and correction) の略語。

ECP

拡張機能ポート (Extended Capabilities Port) の略語。

EDO

拡張データ出力ダイナミックランダムアクセスメモリ (Extended data output dynamic random access memory) の略語。 コンベンショナル DRAM より高速な DRAM です。 EDO RAM は、以前のブロックをプロセッサに送信すると同時に次のブロックのメモリを取得することができます。

EEPROM

電氣的消去可能な PROM (Electrically erasable programmable read-only memory) の略語。

EIDE

Enhanced Integrated Drive Electronics の略語。 EIDE デバイスは、従来の IDE 標準に、1 つ以上の次の拡張機能を提供します。

- 1 最大 16 MB / 秒のデータ転送レート。
- 1 CD やテーブドライブなど、ハードドライブ以外のドライブもサポート。
- 1 528 MB 以上の容量を持つハードドライブをサポート。
- 1 2 つのデバイスを接続したコントローラを最大 2 つまでサポート。

EISA

32 ビット拡張バスデザインである拡張業界標準アーキテクチャ (Extended Industry-Standard Architecture) の略語。 EISA システムの拡張カード コネクタは、8 ビットまたは 16 ビットの ISA 拡張カードとも互換性があります。

EISA 拡張カードをインストールするときに設定コンフリクトを回避するには、EISA コンフィグレーションユーティリティを使用する必要があります。 このユーティリティは、どの拡張スロットにカードを入れるか指定し、対応する EISA 設定ファイルからカードの必要システムリソース情報を取得します。

EMC

電磁環境適合性 (Electromagnetic Compatibility) の略語。

EMI

電磁妨害 (Electromagnetic Interference) の略語。

EMM

EMS メモリマネージャ (Expanded memory manager) の略語。 Intel 386™ 以降のプロセッサでシステムの拡張メモリをエミュレートする拡張メモリを使用するユーティリティ。

EMS

EMS メモリ仕様 (Expanded Memory Specification) の略語。

EMS メモリ

1 MB を超える RAM にアクセスする技術。 システムの EMS メモリを有効にするには、EMM を使用する必要があります。 EMS メモリを使用する (または必要とする) アプリケーション プログラムを実行している場合のみ、EMS メモリをサポートするようにシステムを設定する必要があります。

EPP

双方向データ転送を向上させる拡張パラレルポート (Enhanced Parallel Port) の略語。 ネットワークや SCSI アダプタなど、ノートブックコンピュータのパラレルポートに接続する多くのデバイスはこの EPP 標準を利用するように設計されています。

EPROM

消去可能 PROM (erasable programmable read-only memory) の略語。

ERA

埋め込みリモートアクセス (Embedded Remote Access) の略語。

ERA/MC

埋め込みリモートアクセスモジュラーコンピュータ (Embedded Remote Access Modular Computer) の略語。 [モジュラーシステム](#)を参照してください。

ERA/O

埋め込みリモートアクセスオプション (Embedded Remote Access Option) の略語。

ESD

静電気放電 (Electrostatic discharge) の略語。

ESM

埋め込みシステム管理 (Embedded systems management) の略語。

F

華氏。

FAT

ファイル割り当てテーブル (File allocation table) の略語。 FAT と FAT32 は次のように定義されるファイルシステムです。

- 1 **FAT** — MS-DOS、Windows 3.x、Windows 95、および Windows 98 で使用されるファイルシステム。 Windows NT® と Windows 2000 も FAT ファイルシステムを使用できます。 オペレーティング システムには、ファイル保管に使用されるディスク容量のさまざまな部分をトラッキングするテーブルが保持されます。
- 1 **FAT32** — FAT ファイルシステムから派生した形式。 FAT32 では FAT より小さいクラスサイズをサポートするため、FAT32 ドライブをより効率的に割り当てます。

FCC

連邦通信委員会 (Federal Communications Commission) の略語。

FEPRM

フラッシュ消去可能 PROM (Flash Erasable Programmable Read-Only Memory) の略語。 フラッシュ メモリは EEPROM に似た非揮発性ストレージ デバイスの一種ですが、消去がブロックまたはチップ全体単位で行われます。

FPBGA

高密度のゲートを持つプログラム可能ロジックチップ (PLD) である、フィールドプログラム可能ゲートアレイ (Field programmable gate array) の略語。

FRU

フィールド置換ユニット (Field replaceable unit) の略語。

ft

フィート。

FTP

ファイル転送プロトコル (File transfer protocol) の略語。

g

グラム。

G

重力。

GB

ギガバイト (Gigabyte) の略語。 1 ギガバイトは 1024 メガバイトまたは 1,073,741,824 バイトに相当します。

gcc

Gnu C コンパイラ (Gnu C Compiler) の略語。

GUI

グラフィカルユーザインタフェース (Graphical user interface) の略語。

h

16 進法 (Hexadecimal) の略語。基本の 16 進数システムは、システムの RAM やデバイスの I/O メモリのアドレスを識別するためにプログラミングでよく使用されます。たとえば、0~16 の 10 進数を 16 進数で表すと次のようになります。0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10。テキストでは 16 進数には h がつくことがよくあります。

HBA

ホストバスアダプタ (Host bus adapter) の略語。システムに常駐する PCI アダプタカードで、PCI バス形式から相互接続形式 (例: SCSI、ファイバ チャンネルなど) にデータコマンドを変換して、ハードドライブ、テープドライブ、CD ドライブまたはその他のストレージ デバイスと直接通信できます。

HMA

ハイメモリ領域 (high memory area) の略語。1 MB を超える拡張メモリの最初の 64 KB を指します。XMS に XMS に準拠するメモリマネージャは、コンベンショナルメモリの直接的な拡張領域として HMA を使用することができます。「XMM」も参照してください。

HPFS

Windows NT オペレーティングシステムの高性能ファイルシステム (High Performance File System) オプションの略語。

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコル (Hypertext Transfer Protocol) の略語。HTTP は、World Wide Web (WWW) で HTML 文書の変換に使用するクライアント-サーバー TCP/IP プロトコルです。

HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル、セキュリティ (HyperText Transmission Protocol, Secure) の略語。HTTPS は HTTP のセキュリティ強化版で、ウェブブラウザがセキュリティ保護されたトランザクションを処理するのに使用されます。HTTPS は、SSL が HTTP 下にある固有のプロトコルです。HTTP URL で SSL を持つものには "https://" を、SSL のない HTTP URL には引き続き "http://" を使用する必要があります。

Hz

ヘルツ (Hertz) の略語。

I/O

入出力 (input/output) の略語。キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O 作業はコンピュータ計算作業とは別に考えられます。たとえばプログラムが文書をプリンタに送信すると、プリンタは出力作業を行います。一方、プログラムが用語を並べ替える作業はコンピュータ計算作業と考えられます。

ICES

カナダ規格、Interference Causing Equipment Standard の略語。

ICMP

Internet Control Message Protocol の略語。ICMP は TCP/IP プロトコルで、エラーメッセージと制御メッセージの送信に使用されます。

ICU

ISA コンフィグレーションユーティリティの略語。

ID

身分証明 (Identification) の略語。

IDE

Integrated Drive Electronics の略語。IDE は、ハードドライブや CD で主に使用されているコンピュータシステムインタフェースです。

IHV

独立ハードウェアベンダ (Independent hardware vendor) の略語。 IHV はしばしば、製造するコンポーネント用に独自の MIB を開発します。

IP アドレス

インターネットプロトコルアドレス (Internet protocol address) の略語。 TCP/IPを参照してください。

IPMI

Intel アーキテクチャに基づいた企業用コンピュータの周辺機器管理の業界標準であるインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (Intelligent Platform Management Interface) の略語です。 IPMI の主な特徴は、インベントリ、モニタ、ログおよび回復制御機能が、メインのプロセッサ、BIOS、およびオペレーティングシステムと関係なく提供されていることです。

IPX

インターネットワークパケット交換 (Internetwork packet exchange) の略語。

IRQ

割り込み信号 (Interrupt request) の略語 周辺デバイスによってデータ送受信される信号は、IRQ 回線を通じてプロセッサに送られます。 各周辺接続には IRQ 番号が割り当てられます。たとえば、システムの最初のシリアルポート (COM1) はデフォルトで IRQ4 に割り当てられます。 2 つのデバイスで同じ IRQ 割り当てを共有することはできませんが、両方のデバイスを同時に実行することはできません。

ISA

業界標準アーキテクチャ (Industry-Standard Architecture) の略語。 16 ビット拡張バスのデザイン。 ISA システムの拡張カード コネクタは、8 ビットの ISA 拡張カードとも互換性があります。

ISV

独立ソフトウェアベンダ (Independent software vendor) の略語。

ITE

情報技術機器 (Information technology equipment) の略語。

Java

Sun Microsystems によって開発されたクロスプラットフォームのプログラミング言語。

JSSE

Java Secure Socket Extension の略語。

K

キロ。1000 の単位。

KB

キロバイト (kilobyte) の略語。1 KB は1024 バイトに相当します。

KB/sec

秒あたりのキロバイト (kilobytes per second) の略語。

Kbit (s)

キロビット (kilobit) の略語。1 Kbit は 1024 ビットに相当します。

Kbit (s) /sec

秒あたりのキロビット (kilobits per second) の略語。

kg

キログラム。1 kg は 1000 グラムに相当します。

kHz

キロヘルツ (kilohertz)。1 kHz は 1000 ヘルツに相当します。

LAN

ローカルエリアネットワーク (local area network) の略語。LAN システムは、LAN 専用回線によってすべての機器をつなぐため、通常、同じ建物か近くのいくつかの建物間に限られています。

lb

ポンドの略語。

LCC

リーディッドまたはリードレスチップキャリア (Leaded or leadless chip carrier) の略語。

LED

発光ダイオード (light-emitting diode) の略語。電流が流れると発光する電子デバイス。

LIF

Low insertion force の略語。システムの中には、LIF ソケットとコネクタを使用して、プロセッサ チップなどのデバイスを、デバイスになるべく負担をかけないようにして設置または取り外すものがあります。

LPT n

システムの 1 番目から 3 番目のパラレルプリンタポートのデバイス名は、LPT1、LPT2、および LPT3 です。

LRA

ローカルレスポンスエージェント (local response agent) の略語。

m

メートル。

mA

ミリアンペア。

mAh

ミリアンペア時 (milliampere-hour) の略語。

Mb

メガビット (megabit) の略語。

MB

メガバイト (megabyte) の略語。1 メガバイトは 1,048,576 バイトです。ただし、ハードディスクドライブの容量を表すときには、1 MB = 1,000,000 バイトを意味する場合があります。

MB/sec

1秒あたりのメガバイト数 (megabyte (s) per second) の略語。

Mbps

1秒あたりのメガビット数 (megabits per second) の略語。

MBR

マスタブートレコード (master boot record) の略語。

MCA

マルチプロセッシング用に設計されたマイクロチャネルアーキテクチャ (Micro Channel Architecture) の略。MCA は新しい周辺デバイスを取り付けるときに発生する可能性のあるコンフリクトをなくします。MCA は EISA または XT バス アーキテクチャとは互換性がないため、古いカードと一緒に使用することはできません。

MHz

メガヘルツ (megahertz)。

MIB

管理情報ベース (management information base) の略語。MIB を使用して、SNMP 管理デバイスに状態 / コマンドの詳細を送受信します。

MIDI

musical instrument digital interface の略語。

mm

ミリメートル。

MOF

Managed Object Format の頭字語。これは ASCII ファイルで、CIM スキーマの正式な定義が含まれます。

MPEG

Motion Picture Experts Group の頭字語。MPEG はデジタルビデオファイルのフォーマットです。

ms

ミリ秒 (millisecond) の略語。

MS-DOS

Microsoft Disk Operating System の略語。

MTBF

平均故障間隔 (mean time between failures) の略語。

mV

ミリボルト (millivolt) の略語。

NDIS

Network Driver Interface Specification の略語。

NIC

network interface controller の頭字語。

NIF

network interface function の頭字語。この用語は NIC と同義です。

NMI

マスク不可能割り込み (nonmaskable interrupt) の略語。デバイスは NMI を送信して、ハードウェアエラー (パリティエラーなど) をプロセッサに知らせます。

ns

ナノ秒 (nanosecond) の略語。1 ナノ秒は、10 億分の 1 秒です。

NTFS

Windows NT オペレーティングシステムの NT ファイルシステム (NT File System) オプションの略語。NTFS は、Windows NT オペレーティングシステム内で使用するように特別に設計された高度なファイルシステムです。ファイルシステムの回復、大きなストレージメディア、および長いファイル名をサポートしています。また、ユーザー定義アトリビュートとシステム定義アトリビュートを使ってすべてのファイルをオブジェクトとして処理することにより、オブジェクト指向のアプリケーションもサポートしています。FAT と FAT32 も参照してください。

NTLM

Windows NT LAN Manager の略語。NTLM は、Windows NT オペレーティングシステムのセキュリティプロトコルです。

NuBus

Apple Macintosh パーソナルコンピュータで使用する専用拡張バス。

NVRAM

不揮発性ランダムアクセスメモリ (nonvolatile random-access memory) の略語。NVRAM は、コンピュータの電源を切っても情報が保持されるメモリです。NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保存に使用されます。

OID

object identifier の略語。 オブジェクトを一意に識別する、実装固有の整数またはポインタ。

OTP

一回限りプログラム可能 (one-time programmable) の略語。

PAM

Pluggable Authentication Modules の略語。 PAM を使うと、システム管理者は認証プログラムをコンパイルし直さずに、認証ポリシーを設定することができます。

PC カード

クレジットカードサイズの取り外し可能なモジュールで、PCMCIA によって標準化されたノートブックコンピュータで使用します。 PC カードは、「PCMCIA カード。」とも呼ばれます。 PC カードは、ノートブックコンピュータにモデム、ネットワーク アダプタ、サウンドカード、ラジオトランシーバ、固体ディスクおよびハードディスクを取り付けるのに使用される 16 ビットデバイスです。 PC カードはカード サービス ソフトウェアによって自動的に設定される「プラグ アンド プレイ」デバイスです。

PCI

周辺機器相互接続 (Peripheral Component Interconnect) の略語。 PCI は、Intel Corporation が開発した 32 ビット、または 64 ビットのローカルバス規格です。

PCMCIA

Personal Computer Memory Card International Association の略語。 ノートブックコンピュータに接続できるモデムや外付けハードドライブなどのデバイスの規格を作成した国際通商協会。

PERC

PowerEdge 拡張 RAID コントローラの頭字語。

PGA

pin grid array の略語。 プロセッサチップの取り外しが可能なプロセッサソケット。

PIC

プログラム可能割り込み信号コントローラ (programmable interrupt controller) の頭字語。

PIP

周辺交換プログラム (peripheral interchange program) の頭字語。

PKCS #7

公開鍵暗号標準 (Public Key Cryptography Standard) #7 の略語。 PKCS #7 は、認証チェーンなどの署名データをカプセル化した、RSA Data Security, Inc. の標準です。

PKIS

Novell Public Key Infrastructure Services の略語。

PLCC

プラスチックリーデッドチップキャリア (plastic leaded chip carrier) の略語。

PME

電力管理イベント (Power Management Event) の略語。PME は、PCI デバイスがウェイク イベントを判断できるようにする周辺機器相互接続上のピンです。

POST

電源投入時自己診断 (power-on self-test) の頭字語。コンピュータの電源を入れたと、オペレーティングシステムがロードされる前に、POST によってさまざまなシステムコンポーネント (RAM、ディスクドライブ、キーボードなど) がテストされます。

ppm

1 分あたりのページ数 (pages per minute) の略語。

PPP

Point-to-Point Protocol の略語。

PQFP

plastic quad flat pack の略語。プロセッサチップが固定されて取り外しできないプロセッサソケット。

PS

電源装置 (power supply) の略語。

PS/2

Personal System/2 の略語。

PXE

Preboot eXecution Environment の略語。

QFP

quad flat pack の略語。

RAC

Remote Access Controller の略語。

RAID

Redundant array of independent drives の略語。

RAM

ランダムアクセスメモリ (random-access memory) の頭字語。プログラムの命令やデータの保存に使用される主要な一時記憶領域。RAM 内部の各領域は、メモリアドレスと呼ばれる数値によって識別されます。コンピュータの電源を切ると、RAM に格納されたすべての情報が失われます。

RAMDAC

ランダムアクセスメモリデジタルアナログコンバータ (random-access memory digital-to-analog converter) の頭字語。

RAW

未処理。この用語は、I/O デバイスに未解釈で渡されるデータを指します。逆にクックド (cooked) というと、I/O デバイスに渡される前に処理されたデータを指します。しばしば、専用のフォ

ーマットに保存されていない非圧縮テキストを指すこともあります。この用語は、端末へのデータ出力のクックドモードとローモードをサポートする UNIX から来ています。

RBAC

Role-based access control の略語。

RDRAM

Rambus DRAM の頭字語。Rambus, Inc. のダイナミック RAM チップ テクノロジ、ダイレクト RDRAM がコンピュータで使用されています。ダイレクト RDRAM チップは RIMM モジュールにあります。これは DIMM に似ていますが、ピン設定が異なります。チップをデュアル チャンネルで作成して、転送レートを 2 倍の 3.2 GB/sec にすることができます。

readme ファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属しているテキストファイル。そのソフトウェアまたはハードウェアに関する補足情報やマニュアルのアップデートが入っています。通常、readme ファイルには、インストール情報、新製品の拡張機能、マニュアルに記載されていない訂正事項、確認されている問題点など、その製品を使用する際に必要な情報が入っています。

RFI

無線周波数干渉 (radio frequency interference) の略語。

RGB

赤 / 緑 / 青 (red/green/blue) の略語。

RIMM

Rambus In-line Memory Module の略語。Rambus の DIMM モジュールに相当します。

RMI

Remote Method Invocation の略。Java プログラミング言語ライブラリの一部。これで、1 つのシステムで実行中の Java プログラムが、別のシステムで実行中の他の Java プログラムのオブジェクトとメソッドにアクセスできます。

ROM

読み取り専用メモリ (read-only memory) の頭字語。コンピュータのプログラムの中には、ROM コードで実行しなければならないものがあります。RAM とは違って、コンピュータの電源を切っても、ROM チップの内容は保持されます。ROM コードの例として、コンピュータのブートルーチンと POST を起動するプログラムなどが挙げられます。

rpm

1分あたりの回転数 (revolutions per minute) の略語。

RPM

Red Hat® Package Manager の略語。

RTC

リアルタイムクロック (real-time clock) の略語。RTC はコンピュータに内蔵されたバッテリー方式のクロック回路で、コンピュータの電源を切っても日付と時刻の情報が保持されます。

SAN

storage area network の頭字語。

SAS

セキュア認証サービス (Secure Authentication Services) またはシリアル付き SCSI (Serial-attached SCSI) の頭字語。セキュリティプロトコルまたは認証について言及している場合、SAS はセキュア認証サービスを意味します。細径ケーブルでのデジタルデータ転送にシリアル (1 回につき 1 ビット) 方法を使用するコンピュータ周辺機器について言及している場合、SAS は、シリアル付き SCSI を意味します。

SCA

single connector attachment の略語。

SCSI

小型コンピュータシステムインタフェース (small computer system interface) の頭字語。SCSI は、標準ポートよりもデータ伝送速度が速い I/O バスインタフェースです。1 つの SCSI インタフェースに最大 7 個 (新しい SCSI タイプによっては 15 個) のデバイスを接続できます。

SDMS

SCSI デバイス管理システム (SCSI device management system) の略語。

sec

秒 (second) の略語。

SEC

単一エッジコネクタカートリッジ (single-edge connector cartridge) の略語。

SEL

システムイベントログ (system event log) の頭字語。

SGRAM

synchronous graphics RAM の頭字語。

SIMD

Single Instruction Multiple Data の略語。

SIMM

single in-line memory module の頭字語。DRAM チップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

SIP

single in-line package の頭字語。接続ピンが一方から突き出た電子コンポーネントのハウジングの一種。SIP は、シングルインライ ピンパッケージ (Single In-line Pin Package-SIPP) とも呼ばれます。

SKU

stock keeping unit の頭字語。

SMART

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology の頭字語。ハードディスクドライブにエラーや障害があった場合に、システム BIOS が報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。この技術を利用するには、SMART 準拠のハードディスクドライブおよびシステム BIOS のサポートが必要です。

SMBIOS

system management BIOS の頭字語。

SMD

surface mount device の略語。

SMTP

Simple Mail Transfer Protocol の略語。

SNMP

Simple Network Management Protocol の略語。一般的なネットワーク管理 / モニタプロトコルである SNMP は、元来の TCP/IP プロトコル スイートの一部です。SNMP は、ネットワークサーバーやルータなど異なるネットワークデバイスについての重要な情報を管理アプリケーションに送る形式を提供します。

SODIMM

small outline-DIMM の頭字語。TSOP チップパッケージの使用により、薄型プロファイルを持つ DIMM モジュール。SODIMM は一般にノートブックコンピュータで使用されます。

SOIC

Small Outline IC の略語。SOIC は小型でプラスチックの長方形の面実装チップパッケージで、外側に伸びたガルウイング型のピンを使用します。

SOJ

small outline package J-lead の略語。小型でプラスチックの長方形の面実装チップパッケージで、2 つの長い側面に J 字型のピンが付いています。

SRAM

静的ランダムアクセスメモリ (static random-access memory) の略語。SRAM チップは定期的なリフレッシュを必要としないため、DRAM チップよりかなり高速です。

SSL

secure socket layer の略語。

SVGA

super video graphics array の略語。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度のカラー表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニターが必要です。同様に、プログラムが表示可能な表示色数は、モニターの性能、ビデオドライバ、およびビデオメモリの量によって決まります。

system.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、system.ini ファイルが参照されて、Windows の操作環境のさまざまなオプションが設定されます。system.ini ファイルにはおもに、Windows にインストールされているビデオ、マウス、キーボードの各ドライバが記録されています。

コントロールパネルまたは Windows セットアッププログラムを実行すると、system.ini ファイルのオプションを自動的に変更できます。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手作業で system.ini ファイルのオプションの変更や追加を行う必要があります。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略語。実行中の Windows と UNIX など、異なるシステムを含むコンピュータ ネットワークで情報を転送するシステム。

TFTP

Trivial File Transfer Protocol の略語。 TFTP は TCP/IP FTP プロトコルのバージョンの 1 つで、ディレクトリ機能もパスワード機能もありません。

tpi

1 インチあたりのトラック数 (tracks per inch) の略語。

TQFP

thin quad flat pack の略語。

TSOP

thin small outline package の略語。 超薄型でプラスチックの長方形の面実装型チップパッケージで、2 つの短い側面にガルウィング型のピンが付いています。

TSR

メモリ常駐 (terminate-and-stay-resident) の略語。 TSR プログラムは「バックグラウンド」で実行されます。ほとんどの TSR プログラムには特定の複合キー (「ホットキー」ともいう) が組み込まれており、別のプログラムを実行している間に TSR プログラムのインタフェースを起動することができます。 TSR プログラムを使い終わったら、元のアプリケーションプログラムに戻り、TSR プログラムをメモリに常駐させて後で再使用することができます。 TSR プログラムは、メモリ コンフリクトを引き起こす場合があります。トラブルシューティングを行うときは、TSR プログラムを起動しない状態でコンピュータをリブートして、このようなメモリコンフリクトの可能性を除外してください。

UART

Universal asynchronous receiver transmitter の頭字語。シリアルポートを構成する電子回路。

UDP

User datagram protocol の略語。

UL

Underwriters Laboratories の略語。

UMB

上位メモリブロック (upper memory block) の略語。

unicode

固定幅の 16 ビットの世界共通文字コードで、Unicode Consortium によって開発され、管理されています。

UPS

無停電電源装置 (Uninterruptible power supply) の略語。 停電が発生するとコンピュータに自動的に電力を供給するバッテリー内蔵の電源装置のことです。

URL

Uniform Resource Locator (以前の名称は Universal Resource Locator) の略語。

USB

Universal Serial Bus の略語。 USB コネクタは、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカなど、USB 準拠の複数のデバイスに対応しています。 また、USB デバイスはシステムの実行中に取り付けたり取り外したりすることができます。

UTP

unshielded twisted pair（シールドなしツイストペア）の略語。

UUID

Universal Unique Identification の略語。

V

ボルトの略語。

VAC

ボルト交流（volt（s） alternating current）の略語。

varbind

オブジェクト識別子（OID）の割り当てに使用されるアルゴリズム。 varbind は、企業を一意に識別する 10 進数接頭辞に到達する規則を提供するとともに、その企業の MIB で定義されるオブジェクトの一意 ID を指定する数式も提供します。

VCCI

Voluntary Control Council for Interference の略語。

VDC

ボルト直流（volts direct current）の略語。

VESA

ビデオ電子規格協会（Video Electronics Standards Association）の頭字語。

VGA

video graphics array の略語。 VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度のカラー表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。 特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニターが必要です。 また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニターやビデオドライバの機能と、ビデオアダプタに搭載されたビデオメモリの容量に応じて異なります。

VGA 対応コネクタ

VGA ビデオアダプタが内蔵された一部のシステム上では、VGA 対応コネクタを使用すると、ビデオアクセラレータなどの拡張アダプタをコンピュータに追加することができます。 VGA 対応コネクタは、VGA バススルーコネクタとも呼ばれます。

VLSI

超大規模集積回路（very-large-scale integration）の略語。

VLVESA

very low voltage enterprise system architecture の頭字語。

vpp

ピーク時電圧（peak-point voltage）の略語。

VRAM

ビデオランダムアクセスメモリ (video random-access memory) の略語。ビデオアダプタの中には、VRAM チップ (または VRAM と DRAM の組み合わせ) を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。VRAM はデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時に行うことができます。

VRM

電圧調整モジュール (Voltage Regulator Module) の略語。

W

ワット (watt) の略語。

Wakeup on LAN

ネットワークによってクライアントステーションの電源をオンにできる機能。リモート ウェイクアップを使うと、就労日が終わってからユーザーのマシン上でソフトウェアのアップグレードやその他の管理タスクを実行することができます。また、リモート ユーザーがオフになっているマシンにアクセスすることもできます。Intel ではリモート ウェイクアップを「Wake-on-LAN」と呼びます。

WH

watt-hour (s) (1 時間当たりのワット数) の略語。

win.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、win.ini ファイルが参照されて、Windows の操作環境のさまざまなオプションが設定されます。win.ini ファイルにはおもに、Windows にインストールされているプリンタとフォントが記録されています。また、win.ini ファイルには、ハードディスクドライブにインストールされた Windows アプリケーションプログラムのオプション設定を記載したセクションがあります。コントロールパネルまたは Windows セットアッププログラムを実行すると、win.ini ファイルのオプションを変更できます。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手作業で win.ini ファイルのオプションの変更や追加を行う必要があります。

Windows 95

Windows 95は MS-DOS を必要としない、最新の高度なオペレーティングシステムです。パフォーマンスと使いやすさが向上し、ワークグループ機能が拡張されています。また、ファイル管理と参照が簡単になりました。

Windows NT

サーバーとワークステーションのための高度なオペレーティングシステムです。科学技術や財務アプリケーションの実行に向いています。

WMI

Windows Management Instrumentation の略語。WMI は CIM オブジェクトマネージャサービスを提供します。

X Window System

Red Hat Enterprise Linux 環境で使用されるグラフィカルユーザーインターフェース。

X.509 証明書

X.509 証明書は公開暗号鍵を ID またはその他の主体の属性に結合します。主体は人々、アプリケーションコード (署名アプレットなど) または一意に識別されたその他のエンティティ (セキュリティ保護されたポートサーバーまたはウェブサーバー) である可能性があります。

XMM

拡張メモリマネージャ (eXtended Memory Manager) の略語。XMM は、アプリケーションプログラムやオペレーティングシステムで、XMS に準拠する拡張メモリを使用できるようにするユーティリティです。

XMS

拡張メモリ仕様（eXtended Memory Specification）の略語。

ZIF

ゼロ圧力（zero insertion force）の頭字語。一部のコンピュータでは、ZIF ソケットや ZIF コネクタを使用して、デバイス（プロセッサチップなど）の取り付けや取り外しを行うときにデバイスに圧力がかからないようにします。

ZIP

Imega の .5 インチのリムーバブルディスクドライブ。従来は取り外し可能な 100-MB カートリッジを提供していました。ドライブは、ディスクをカタログ化してセキュリティのためにファイルをロックするソフトウェアとバンドルされています。250 MB バージョンの Zip ドライブも 100 MB の Zip カートリッジに読み書きします。

アクセス

変数値に対してユーザーが行うことのできる動作 例として、読み取り専用や読み書きなどがあります。

アダプタカード

コンピュータのシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カード アダプタカードは、拡張バスと周辺デバイス間のインタフェースを提供することによって、コンピュータに特殊な機能を追加します。アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSI アダプタなどが挙げられます。

アトリビュート

属性またはプロパティのこと。管理可能なコンポーネントに関する特定な情報を含みます。アトリビュートを組み合わせて、グループにすることができます。アトリビュートが読み込み / 書き込みとして定義されていれば、管理アプリケーションで定義することができます。

インタレース

画面の代替走査線をアップデートすることによりビデオ解像度を向上させる技術。インタレースを行うと画面のちらつきが出るため、ほとんどのユーザーはインタレース処理をしないビデオアダプタ解像度を使用します。

ウイルス

システムに損害を与えるように設計された自己起動型プログラム。ウイルスプログラムは、ハードディスクドライブに格納されたファイルを破壊したり、システムやネットワークのメモリが一杯になるまで自己増殖したりすることが知られています。一般的に、ウイルスプログラムは「感染した」ディスクから自分自身をハードディスクドライブにコピーすることによって、数多くのシステムに感染していきます。ウイルスからシステムを保護するために、次のような対策を講じてください。

- 1 コンピュータのハードディスクドライブに対して定期的にウイルス検査ユーティリティを実行します。
- 1 ディスケット（市販のソフトウェアも含みます）を使用する前に、そのディスクに対して必ずウイルス検査ユーティリティを実行します。

ウェブサーバー

HTTP プロトコルを使って、ウェブページをウェブブラウザで表示可能にするアプリケーション。

オンラインアクセスサービス

インターネット、電子メール、掲示板、チャットルームおよびファイルライブラリなどへのアクセスを提供するサービス。

カーソル

ブロック、アンダースコア、ポインタなど、次のキーボードまたはマウス動作が起きる場所を表すマーク。

書き込み防止

読み取り専用ファイルは、書き込み防止されていると言われます。3.5 インチのディスクを書き込み防止するには、ディスクの書き込み防止タブをスライドさせて開くか、セットアップユーティリティで書き込み禁止機能を設定します。

拡張カードコネクタ

拡張カードを接続するための、システムのシステム基板またはライザボードのコネクタ。

拡張バス

システムには、ネットワークカードや内部モデムなど、周辺デバイスのコントローラと通信できる拡張バスが含まれています。

拡張メモリ

1 MB を超える RAM。Windows オペレーティング システムなど、これを使用するほとんどのソフトウェアでは、拡張メモリが XMM の制御下にある必要があります。

仮想メモリ

ハードディスクドライブを使用して、アドレッシング可能な RAM を増加させる技法。たとえば、16 MB の RAM を装備したコンピュータのハードディスクドライブ上で 16 MB の仮想メモリをセットアップした場合、オペレーティングシステムでは、32 MB の物理 RAM が存在する場合と同様の方法でシステムメモリが管理されます。

管理下システム

管理下システムは Server Administrator を使ってモニタされ管理されるシステムです。Server Administrator を実行中のシステムは、対応するウェブブラウザを使ってローカル、またはリモートから管理できます。“リモート管理システム”を参照してください。

管理タグコード

通常はシステム管理者によって、セキュリティやトラッキング目的でコンピュータごとに割り当てられるコード。

機能

オブジェクトが実行できる動作、または管理オブジェクトで実行できる動作を示します。たとえば、カードがホットプラグ対応の場合、システム電源がオンの状態でカードを取り替えることができます。

キャッシュ

データのコピーまたはすぐにデータを取得するための手順を保管しておく記憶領域。たとえば、システムの BIOS は、ROM コードを高速 RAM にキャッシュする場合があります。またはディスク キャッシュユーティリティで RAM を保存して、システムのディスクドライブからアクセス頻度の高い情報をそこに保管することができます。プログラムがキャッシュにあるデータをディスクドライブに要求すると、ディスクキャッシュユーティリティはディスクドライブより速く RAM からデータを取得することができます。

グラフィックコプロセッサ

コプロセッサを参照してください。

グラフィックモード

(x 水平ピクセル) x (y 垂直ピクセル) x (z 色) で定義されるビデオモード。

形式

ファイルを保存するためにハードドライブまたはディスクセットを用意すること。無条件の形式では、ディスクに保存されているすべてのデータが削除されます。

コプロセッサ

システムのプロセッサから特定の処理タスクを開放するチップ。たとえば数値演算コプロセッサは、数値処理を担当します。グラフィックコプロセッサはビデオレンダリングを処理します。たとえば、Intel® Pentium® プロセッサには、数値演算コプロセッサが組み込まれています。

コントローラ

プロセッサとメモリ間、またはディスクドライブやキーボードなど、プロセッサと周辺デバイス間のデータ転送を管理するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードドライブアクセスインジケータ、および電源インジケータなど、インジケータとコントロールを含むシステムの一部。

コンベンショナルメモリ

RAM の最初の 640 KB の部分。コンベンショナルメモリはすべてのシステムにあります。特別に設計されていない限り、MS-DOS® プログラムはコンベンショナルメモリで実行されるように制限されています。

サーバーモジュール

ローカルシステムとして機能するモジュラーシステム部品。システムとして機能するには、サーバーモジュールは、電源装置、ファン、システム管理モジュール、および最低 1 つのネットワークスイッチモジュールを含んだシャーシに挿入されます。電源装置、ファン、システム管理モジュール、およびネットワークスイッチモジュールは、シャーシにあるサーバーモジュールの共有リソースです。[モジュラーシステム](#)を参照してください。

サービスタグナンバー

弊社カスタマーサポートまたはテクニカルサポートにお問い合わせになる際に、コンピュータを識別するバーコードラベル。

しきい値

温度、電圧、電流およびファン速度などをモニタするセンサーを備えたシステム。センサーのしきい値は、センサーが通常、非重要、重要または危険状態で移動しているかを決定する範囲（最小値と最大値）を指定します。Server Administrator 対応のしきい値は次のとおりです。

- 1 致命的しきい値上限
- 1 重要しきい値上限
- 1 非重要しきい値上限
- 1 標準
- 1 非重要しきい値下限
- 1 重要しきい値下限
- 1 致命的しきい値下限

システムディスクット

ブート用ディスクットの同義語。

システムメモリ

RAM の同義語。

システム基板

コンピュータの主要な回路ボードであるシステム基板には、次に示すような、ほとんどの集積コンポーネントが搭載されています。

- 1 プロセッサ
- 1 RAM
- 1 標準的な周辺機器（キーボードなど）のコントローラ
- 1 さまざまな ROM チップ

システム基板は、マザーボードまたは論理ボードと呼ばれることもあります。

システム設定情報

コンピュータに対して、取り付けられているハードウェアの種類とコンピュータの動作環境の構成を指示するデータ。メモリ内に保存されます。

シャドウイング

通常、コンピュータのシステムとビデオの BIOS コードは、ROM チップに格納されます。シャドウイングとは、ブートルーチンの実行中に（640 KB 以降の）上位メモリ領域の高速 RAM チップに

BIOS コードをコピーして性能を向上させる技法を指します。

ジャンパ

ジャンパは 2 本以上のピンがある、回路基板上の小さなブロックです。ワイヤの付いたプラスチックのプラグをピンにかぶせます。ワイヤはピンを接続し、回路を作成します。ジャンパはプリント回路基板の回路を変更する、簡単に両方向の方法を提供します。

周辺デバイス

プリンタ、ディスクドライブまたはキーボードなど、コンピュータに接続されている内部または外部デバイス。

上位メモリ領域

640 KB ~ 1 MB の間に位置する 384 KB の RAM。システムが Intel 386 以降のプロセッサを搭載している場合、メモリマネージャと呼ばれるユーティリティが上位メモリ領域に UMB を作成し、ここにデバイスドライバやメモリ常駐プログラムをロードできます。

状況

1 つ以上の条件を持つオブジェクトの状況を指します。たとえば、オブジェクトは「準備中」状況である場合があります。

状態

オブジェクトの健康状態や機能状態を指します。たとえば、プローブが許容温度内の場合には、温度プローブは正常状態です。ユーザーが設定した制限温度をこえた値がプローブによって読み取られると、重要状態が報告されます。

シリアルポート

一般的には、モデムやマウスをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。通常、コンピュータのシリアルポートは、9 ピンのコネクタで識別できます。

シンタックス

コンピュータによって正しく認識されるように、コマンドや命令を入力する方法を指示する規則。変数のシンタックスはそのデータタイプを示します。

スイッチ

コンポーネントのシステム基板のスイッチは、コンピュータシステムでのさまざまな回路機能を制御します。これらのスイッチは DIP スイッチとして知られています。通常、DIP スイッチは 2 つ以上のスイッチがパッケージ化されており、プラスチックのケースに入っています。システム基板では、スライドスイッチとロッカースイッチが一般に使用されています。スイッチの名前は、設定（オン/オフ）の変更方法に基づいています。

数値演算コプロセッサ

コプロセッサを参照してください。

スキーマ

特定環境における管理オブジェクトを説明したクラス定義の集まり。CIM スキーマは各管理環境に共通した管理オブジェクトを表すのに使用するクラス定義の集まりです。CIM が共通情報モデル（Common Information Model）と呼ばれるのはこのためです。

セキュリティ保護されたポートサーバー

HTTPS プロトコルを使って、ウェブページをウェブブラウザで表示可能にするアプリケーション。 [ウェブサーバー](#)を参照してください。

設定

設定は、コンポーネントに特定の値が検出されたときにどうするかを決定する、管理可能オブジェクトヘルプの条件です。たとえばユーザーは、温度プローブの上限しきい値を摂氏 75 度に設定できます。プローブがその温度に達すると、ユーザーが介入できるように管理システムに警告が送られます。設定の中には、値に達するとシステムのシャットダウンやシステム損傷を防ぐその他の反応を引き起こすものがあります。

セットアップユーティリティ

コンピュータのハードウェアを構成し、パスワード保護機能や省電力設定などを設定することでコンピュータの動作をカスタマイズするための BIOS プログラム。 セットアップユーティリティのオプションの中には、コンピュータをリブートしないと（自動的にリブートする場合もあります）ハードウェア設定の変更が有効にならないものがあります。 セットアップ ユーティリティは NVRAM に保存されるため、設定は明示的に変更しない限り有効に維持されます。

外付けキャッシュメモリ

RAM キャッシュで、SRAM チップを使用するもの。 SRAM チップは DRAM チップの数倍の速さで動作するため、マイクロプロセッサは RAM より外付けキャッシュ メモリからの方がデータと手順を速く取得できます。

ターミネータ

一部のデバイス（SCSI ケーブルの終端に接続されるデバイスなど）では、過剰な電流の吸収や発散を行うための終端処理が必要です。 このようなデバイスを 2 つ以上連結する場合は、ジャンパまたはスイッチの設定を変更するか、デバイスの設定ソフトウェアで設定を変更することで、ターミネータを有効または無効にする必要があります。

タイムアウト

省電力機能が起動されるまでのシステムのアイドル時間。

チップ

システムでプロセッサおよびメモリとして使用するために設計された超小型電子回路。 小さいチップは、何万ものトランジスタを収納できます。 1/16 平方インチで厚みが 1/30 の小さいアルミニウムのチップのように見えるため、「チップ」と呼ばれています。 1/2 インチ以上の大きいチップには、数百万のトランジスタを収納できます。 回路を収納しているのは、実際にはチップの 1 インチの最初の 1000 分の 1 の部分です。 残りは基底部分です。

ディスプレイアダプタ

ビデオアダプタを参照してください。

ディレクトリ

ディレクトリは、関連ファイルを階層的な「反転ツリー」構造でディスク上にまとめます。 各ディスクには「ルート」ディレクトリがあります。たとえば C:\> プロンプトは通常、ハードドライブ C のルートディレクトリにいることを示します。 ルートディレクトリから分かれた追加ディレクトリをサブディレクトリと言います。 サブディレクトリには、そこから分かれる追加のディレクトリを含めることができます。

テーブル

SNMP MIB では、テーブルは管理オブジェクトを構成する変数について説明した 2D の配列です。

テキストエディタ

ASCII 文字だけを含むテキストファイルを編集するためのアプリケーションプログラム。 たとえば、Windows のメモ帳などはテキストエディタです。 ワードプロセッサの中には、テキストファイルの読み取りと書き込みができるものもありますが、大部分のプログラムはバイナリ文字を含む固有のファイル形式を使用しています。

テキストモード

X 列 × Y 行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムまたは他のプログラムが、プリンタなどの周辺デバイスと正しく相互作用できるようにするプログラム。 ネットワークドライバなどのデバイスドライバは、config.sys ファイル（デバイス= ステートメント）またはメモリ常驻プログラム（通常は autoexec.bat ファイル）からロードする必要があります。 ビデオドライバなど他のドライバは、対象のプログラムを起動したときにロードする必要があります。

電源装置

壁コンセントの AC 電流をシステム回路に必要な DC 電流に変換する電気システム。 パーソナル コンピュータの電源装置は通常、いくつもの電圧を生成します。

電力装置

システムシャーシ内の電源装置。

ドライブタイプ番号

システムは特定のハードドライブの数を認識できます。各システムにはドライブタイプ番号が割り当てられ、NVRAM に保存されます。システムのセットアップユーティリティに指定されるハードドライブは、システムにインストールされている実際のドライブと一致する必要があります。セットアップユーティリティでは、NVRAM に保存されていないドライブタイプのテーブルに含まれていないドライブの物理パラメータ（論理シリンダ、論理ヘッド、シリンダ番号およびバックごとの論理セクタ）を指定できます。

内蔵プロセッサキャッシュ

プロセッサに組み込まれた命令とデータのキャッシュ。Intel Pentium プロセッサには 16 KB の内部キャッシュがあり、8 KB の読み取り専用命令キャッシュと、8 KB の読み書きデータキャッシュに設定されています。

名前

オブジェクトまたは変数の名前は、SNMP Management Information Base (MIB) ファイル、または CIM Management Object File (MOF) で識別されると同じ文字列です。

ノンインタレース

画面上の水平線を逐次リフレッシュして、画面のちらつきを抑える技法。

パーティション

fdisk コマンドを使用すると、パーティションと呼ばれる複数の物理セクションにハードディスクドライブを分割できます。各パーティションには、複数の論理ドライブを格納できます。ハードディスクドライブをパーティションに分割した場合は、format コマンドを使用して個々の論理ドライブをフォーマットする必要があります。

バイト

8個の連続した情報ビット（コンピュータで使用される基本データ単位）。

バイナリ

0 と 1 を使って情報を表す2進法。コンピュータは、2進法による数字の順序と計算に基づいて処理を実行します。

バス

バスはコンピュータのコンポーネント間の情報経路を形成します。たとえばコンピュータに装備されている拡張バスは、プロセッサが、コンピュータに接続されたさまざまな周辺機器用のコントローラと通信する経路を提供します。また、アドレスバスとデータバスは、プロセッサとRAMとの間の通信に使用されます。

バックアップ

プログラムやデータファイルのコピー。安全対策として、コンピュータのハードディスクドライブは定期的にバックアップしてください。また、コンピュータの設定を変更するにあたっては、重要な起動ファイルをオペレーティングシステムからバックアップしてください。

パラメータ

プログラムに対して指定する値またはオプション。パラメータは、スイッチまたは引数と呼ばれることもあります。

パラレルポート

一般的には、パラレルプリンタをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。通常、コンピュータのパラレルポートは、25 穴コネクタで識別できます。

ヒートシンク

熱を消散させるための金属釘または金属リブが付いた金属板。ほとんどのプロセッサは、このヒートシンクを装備しています。

ビーブコード

コンピュータのスピーカから聞こえるビーブ音のパターンによる診断メッセージ。たとえば、1回鳴った後にもう1回鳴ってから連続して3回鳴った場合、ビーブコードは1-1-3です。

ピクセル

ビデオ画面上の単一の点。ピクセルを行と列に配列して画像が表示されます。640 x 480 というビデオ解像度は、横方向に 640 個のピクセル、縦方向に 480 個のピクセルが並んだ行列として表されます。

ビット

コンピュータによって解釈される情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニター（ディスプレイ）と連携してコンピュータのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタは、特定のモニターが提供する機能よりも多い機能または少ない機能をサポートします。通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムをさまざまなビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。

弊社の一部のコンピュータでは、システム基板上にビデオアダプタが組み込まれています。また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できます。

通常、ビデオアダプタには、システム基板上の RAM とは別個のメモリが割り当てられます。同時に表示できるカラーの数は、ビデオメモリの容量とアダプタのビデオドライバに応じて異なります。高速のグラフィック描画を実現するために、ビデオアダプタには独自のコプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオドライバ

特定の数のカラーを希望の解像度で、グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを表示するためのプログラム。一部のソフトウェアパッケージには「汎用的な」ビデオドライバが組み込まれています。ビデオアダプタに適合する追加のビデオドライバが必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

ほとんどの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、コンピュータの RAM とは別にメモリチップが内蔵されています。プログラムで同時に表示できるカラーの数はおもに、インストールされたビデオメモリの容量によって決まります（他の要因としては、ビデオドライバやモニターの機能があります）。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタでは複数のテキスト / グラフィック表示モードがサポートされます。文字ベースのソフトウェアは、「x 列 x y 行の文字」で定義されるテキストモードで表示されます。グラフィックベースのソフトウェアは、「x 個の横ピクセル x y 個の縦ピクセル x z 種類のカラー」で定義されるグラフィックモードで表示されます。

ビデオ解像度

ビデオ解像度（800 x 600 など）は、「横方向のピクセル数 x 縦方向のピクセル数」で表されます。特定の解像度でプログラムを表示するためには、適切なビデオドライバをインストールすること、およびモニターでその解像度がサポートされることが必要です。

ファームウェア

読み取り専用メモリ（ROM）に書き込まれたソフトウェア（プログラムまたはデータ）。ファームウェアはデバイスの起動や操作を行うことができます。各コントローラにはコントローラの機能提供に役立つファームウェアが含まれています。

ファイバ チャンネル

1 つの接続技術で高速 I/O およびネットワーク機能を実現したデータ転送インタフェース技術。ファイバ チャンネル標準では、ファイバチャンネルポイントツーポイント、ファイバチャンネルファブリック（汎用スイッチトポロジ）、およびファイバチャンネル調停ループ（FC_AL）などを含むいくつかのトポロジをサポートしています。

ブートルーチン

コンピュータを起動すると、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードが行われます。オペレーティングシステムが正常に応答する場合は、<Ctrl><Alt>キーを押してコンピュータを再起動できます（ウォームブートともいいます）。オペレーティングシステムが応答しない場合は、リセットボタンを押すか、コンピュータの電源を一度切ってから入れ直すことによって、コンピュータを再起動（コールドブート）しなければなりません。

ブート可能ディスク

ディスクからシステムを起動することができます。 ブート可能ディスクを作成するには、ディスクドライブにディスクを挿入してから、コマンドラインのプロンプトで `sys a:` とタイプして、<Enter> キーを押します。 ハードドライブから起動できない場合、このブート可能ディスクを使用します。

複合キー

複数のキーを同時に押すコマンド。 たとえば、<Ctrl><Alt> キーを一緒に押すと、システムを再起動できます。

物理メモリアレイ

物理メモリアレイは、システムの全物理メモリ配列です。 物理メモリアレイの変数には、最大サイズ、マザーボード上の合計メモリスロット数、および使用中の合計スロット数などがあります。

プラグアンドプレイ

ハードウェアデバイスをパーソナルコンピュータに追加しやすくするための業界標準仕様。 プラグアンドプレイによって、自動インストールと設定、既存ハードウェアとの互換性、およびモバイルコンピューティング環境のダイナミックサポートが提供されます。

フラッシュ BIOS

ROM ではなく、フラッシュメモリに保存された BIOS。 ROM BIOS が新しいチップと交換しなければならないのに対し、フラッシュ BIOS チップはアップデートすることができます。

フラッシュ メモリ

システムにインストールされたままでディスクのユーティリティからプログラミングし直すことができる EEPROM チップ。 ほとんどの EEPROM チップは特別なプログラミング機器を使わなければ書き込み直すことはできません。

プログラムディスクセット

オペレーティングシステムまたはアプリケーションプログラムを完全にインストールできるディスクのセット。 プログラムを再設定するときには、通常、プログラムディスクセットが必要になります。

プロセッサ

コンピュータ内にある主要コンピュータ計算チップで、演算および論理機能の解釈と実行を制御します。 1 つのプロセッサに書き込まれたソフトウェアは、別のプロセッサで実行するためには改訂する必要があります。 CPU はプロセッサの同義語です。

プロテクトモード

80286 以降のプロセッサによってサポートされる動作モード。 プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 1 16 MB (80286 プロセッサの場合) ~ 4 GB (Intel 386 以降のプロセッサの場合) のメモリアドレススペース
- 1 マルチタスク
- 1 仮想メモリ (ハードディスクドライブを使用して、アドレッシング可能なメモリを増加させる技法)

32ビットの Windows NT、OS/2®、および UNIX® オペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。 ただし、MS-DOS から起動できる一部のプログラム (Windows など) は、コンピュータをプロテクトモードに移行することができます。

プロバイダ

プロバイダは管理オブジェクトと通信してさまざまなソースからデータとイベント通知にアクセスする CIM スキーマの拡張機能です。 プロバイダはこの情報を CIM オブジェクト マネージャに転送して統合と解釈を行います。

変数

管理オブジェクトの一部。 たとえば温度プローブには、機能、正常性または状態、および正しい温度プローブを見つけるのに役立つ特定の指標などの変数があります。

ボーレート

データ伝送速度の尺度。 たとえば、モデムはコンピュータの COM (シリアル) ポートを通じて、1 つ以上の特定のボーレートでデータを伝送するように設計されています。

ホストアダプタ

ホストアダプタはシステムのバスと周辺デバイスのコントローラ間の通信を行います。（ハードドライブコントローラサブシステムには統合ホストアダプタ回路が含まれます）。SCSI 拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタを設置または接続する必要があります。

ホットプラグ

システム移動中に冗長部分を削除して置換する機能。「ホットスベア」とも呼ばれます。

マウス

画面上でのカーソルの動きを制御するポインティングデバイス。マウス対応のソフトウェアを使用すると、画面に表示されたオブジェクトを指してマウスボタンをクリックすることにより、特定のコマンドを起動できます。

マップされた物理メモリアレイ

マップされた物理メモリアレイ（physical memory array mapped）は、物理メモリの分割方法を示します。

たとえば、マップされた 1 つの領域を 640 KB に、別の領域を 1 MB ~ 127 MB にすることができます。

マルチスキャンモニター

いくつかのビデオ規格をサポートするモニター。マルチスキャンモニターはさまざまなビデオアダプタの周波数範囲に合わせて調整できます。

メモリ

システムには、複数のタイプのメモリ（RAM、ROM、およびビデオメモリなど）を搭載できます。通常、メモリという用語は RAM と同じ意味で使用されます。たとえば、「16 MB のメモリを搭載したコンピュータ」というような無修飾の文は、「16 MB の RAM を搭載したコンピュータ」を意味します。

メモリアドレス

コンピュータの RAM 内部にある特定の位置。通常、メモリアドレスは 16 進数で表されます。

メモリマネージャ

コンベンショナルメモリ以外のメモリ（EMS メモリや EMS メモリなど）の実装を管理するユーティリティ。

メモリモジュール

DRAM チップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

モジュラーシステム

複数のサーバーモジュールを含んだシステム。各サーバーモジュールはローカルシステムとして機能します。システムとして機能するには、サーバーモジュールは、電源装置、ファン、システム管理モジュール、および最低 1 つのネットワークスイッチモジュールを含んだシャーシに挿入されます。電源装置、ファン、システム管理モジュール、およびネットワークスイッチモジュールは、シャーシにあるサーバーモジュールの共有リソースです。[サーバーモジュール](#)を参照してください。

モデム

コンピュータが電話回線を使って他のコンピュータと通信するための機器。

ユーティリティ

システム資源（メモリ、ディスクドライブ、プリンタなど）を管理するためのプログラム。

ユーティリティパーティション

ハードドライブ上のブート可能なパーティションで、ハードウェアとソフトウェアにユーティリティと診断を提供します。有効にすると、パーティションが起動して、パーティションのユーティリティに実行

可能環境を提供します。

読み取り専用ファイル

編集や削除が禁止されているファイル。次のいずれかの条件が満たされる場合、ファイルは読み取り専用になります。

- 1 ファイルの読み取り専用属性が設定されている。
- 1 物理的に書き込みが禁止されているディスク内、または書き込みが禁止されているドライブ内にファイルが存在する。
- 1 システム管理者がユーザーに読み取り権限だけを付与したネットワークディレクトリ内にファイルが存在する。

リアルモード

80286以降のプロセッサによってサポートされる動作モード。リアルモードは、8086プロセッサのアーキテクチャをシミュレートする動作モードです。

リフレッシュレート

モニター画面上のビデオ画像を、モニターが再描画する速度。画面の水平線が再充電される周期（単位は Hz）。モニターのリフレッシュレートは、垂直周波数とも呼ばれます。リフレッシュレートが高いほど、人間の目にはちらつきが感じられなくなります。このような高いリフレッシュレートはノンインタレースとも呼ばれます。

リモート管理システム

リモート管理システムは対応するウェブブラウザを使って、リモートから管理システム上の ServerAdministrator ホームページにアクセスするシステムです。「管理下システム」を参照してください。

冷却ユニット

システムシャーシにあるファンまたはその他の冷却デバイス。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つシステムでは、ビデオアダプタ回路など特定の周辺デバイスを、従来の拡張バスを使ったときより高速に実行されるように設計することができます。ローカルバスのデザインの中には、システムのプロセッサと同じ速度、同じ幅のデータバスで周辺機器を実行できるものがあります。

[目次ページに戻る](#)

Server Administrator のインストール

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [はじめに](#)
- [インストール要件](#)
- [インストール手順](#)


概要

Server Administrator は複数の方法でインストールできます。『Dell™ Installation and Server Management CD』には、Server Administrator やその他のシステム管理用ソフトウェアコンポーネントを管理システムにインストール、アップグレード、アンインストールするためのセットアッププログラムが収録されています。『Dell System Managementコンソール CD』には、システム管理用ソフトウェアコンポーネントを管理ステーションにインストール、アップグレード、アンインストールするためのセットアッププログラムが収録されています。さらにネットワークを介して Server Administrator を複数のシステムに無人インストールすることもできます。Dell OpenManage™ 製品はオペレーティングシステムにネイティブのプロセスを使用してインストールされるようになります。設定ウィザードに従って Server Administrator セットアップします。詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

Dell Installation and Server Management CD

『Dell Installation and Server Management CD』には、Server Administrator やその他のシステム管理用ソフトウェアコンポーネントを管理システムにインストール、アップグレード、アンインストールするためのセットアッププログラムが収録されています。さらにネットワークを介して Server Administrator を複数のシステムに無人インストールすることもできます。

『Dell Installation and Server Management CD』のセットアッププログラムを使用すると、対応オペレーティングシステムを実行しているシステムに Server Administrator をインストールし、アップグレードすることができます。対応のMicrosoft® Windows®, Red Hat® Enterprise Linux、および SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、『Dell Installation and Server Management CD』またはオペレーティングシステムから Server Administrator をアンインストールできます。詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** Dell PowerEdge 4600 で Server Administrator をインストールまたはアンインストールする場合、変更を有効にするためにシステムを再起動する必要があります。


無人サイレントインストール

『Dell Installation and Server Management CD』を使用すると、対応のMicrosoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムで Administrator の無人インストールとアンインストールを実行できます。さらに、対応のMicrosoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、コマンドラインから Server Administrator をインストールまたはアンインストールすることもできます。

Server Administrator のアップグレード

Dell OpenManage ソフトウェアを使用してバージョン 4.3 またはそれ以降からバージョン 5.0 へのアップグレードが可能です。アップグレード前にまず Server Administrator の旧バージョンをアンインストールし、その後で『Dell Installation and Server Management CD』を使って最新バージョンをインストールしなければなりません。

 **メモ:** Service Pack のアップグレードは Dell OpenManage 5.0 ではサポートされていません。

 **メモ:** Dell OpenManage のバージョンが 4.3 以前である場合、バージョン 4.3 にアップグレードしてから Dell OpenManage 5.0 をインストールします。詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage のバージョン 4.x (x は >=3 の場合) から 5.0 へのアップデートを行うには、**setup.exe** を使用するか、次を入力します。

```
msiexec /i SysMgmt.msi /qn  
(新規インストールまたはメジャーなアップグレードの場合。例えば Dell OpenManage のバージョン 4.3 からバージョン 5.0 へのアップグレード等。)
```


Dell OpenManage のバージョン 4.3 から バージョン 4.4 へのアップグレードなどマイナーなアップグレードについては、次を入力します。

```
msiexec /i SysMgmt.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vomus /qn
```

MSI エンジンのアップグレード

Dell OpenManage ソフトウェアを使用して、インタラクティブなインストールを実行中に MSI エンジンをアップグレードすることが可能です。サイレントインストールでは、インストールスクリプトに適切なコマンドを追加しなければなりません。

MSI エンジンのアップグレード(必要に応じて)および Systems Management Software のインストール / アップグレードには展開スクリプトで次のコマンドを使用します。

 **メモ:** Dell OpenManage Systems Management および Management Station インストーラには MSI 3.1 以降が必要とされます。Windows Server 2003(Service Pack なし)、Windows 2000 Server、または Windows XP オペレーティングシステムを実行するシステムを使用している場合、MSI エンジンをアップデートしてください。Windows Server 2003 SP1 または Windows Server 2003 x64 オペレーティングシステムを実行するシステムを使用している場合、MSI エンジンのアップデートは不要です。

```
:retry  
start /wait msiexec /i SysMgmt.msi /qn  
if %errorlevel% == 1613 (
```



```
REM UPGRADE THE WINDOWS INSTALLER ENGINE
start /wait WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe /quiet /norestart
goto retry
)
if %errorlevel% == 1638 (
REM THIS IS A MINOR UPGRADE
start /wait msixexec /i SysMgmt.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vomus/qn
)
)
```

各対応オペレーティングシステムに Server Administrator をインストールする方法と、インストール、アップグレード、アンインストールの詳しい手順については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

はじめに

- 1 「[セットアップと管理](#)」を読み、該当する指示に従ってください。
- 1 「インストール要件」を読み、ご使用のシステムが最小要件を満たしているか確認してください。
- 1 対応の各オペレーティングシステムで Server Administrator をインストール、アップグレード、アンインストールする詳しい手順については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』をお読みください。
- 1 『Server Administrator 互換性ガイド』をお読みください。このマニュアルには、対応の Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム環境のさまざまなハードウェアプラットフォーム（またはシステム）に Server Administrator をインストールして操作する際に役立つ互換性情報が含まれています。
- 1 『Dell Installation and Server Management CD』に収録されている Dell OpenManage Install readme ファイルをお読みください。このファイルには、新機能のほか既知の不具合に関する最新情報が含まれています。
- 1 『Dell Installation and Server Management CD』に収録されている Server Administrator readme ファイルをお読みください。このファイルには、ソフトウェア、ファームウェア、およびドライババージョンなどの最新情報と、既知の問題についての情報が記載されています。
- 1 ご使用のオペレーティングシステムのインストール手順をお読みください。


インストール要件

以下の項では Server Administrator の一般要件について説明します。オペレーティングシステムに固有のインストール必要条件是、インストール手順の一部として記載されています。


対応オペレーティングシステム

Server Administrator では次の各オペレーティングシステムをサポートしています。

- 1 Microsoft Windows 2000 Server シリーズ (Intel x86) (Windows 2000 Server SP4 およびそれ以降、また Windows 2000 Advanced Server SP4 およびそれ以降を含む)
- 1 Microsoft Windows Server 2003 シリーズ (Intel x86) (Web, Standard, および Enterprise editions 用の SP1 を含む) および Microsoft Windows Small Business Server [SBS] 2003 SP1
- 1 Microsoft Windows Server 2003 シリーズ (Intel EM64T) (Web, Standard, および Enterprise editions 用の SP1 を含む) および Microsoft Windows Small Business Server [SBS] 2003 SP1
- 1 Microsoft Windows Server™ 2003 シリーズ (R2 用) (Standard および Enterprise editions を含む)
- 1 Microsoft Windows Server™ 2003 (Intel EM64T) R2 (Standard および Enterprise editions を含む)
- 1 Microsoft Windows Storage Server 2003 R2 (Express, Standard, Workgroup, および Enterprise editions を含む)
- 1 Red Hat Enterprise Linux AS, ES, および WS、(バージョン 3) (Intel x86) アップデート 6
- 1 Red Hat Enterprise Linux AS, ES, および WS、(バージョン 3) (Intel EM64T) アップデート 6
- 1 Red Hat Enterprise Linux AS, ES, および WS、(バージョン 4) (Intel x86)
- 1 Red Hat Enterprise Linux AS, ES, および WS、(バージョン 4) (Intel EM64T)

 **メモ:** Red Hat がリリースしたアップデートカーネルと Red Hat Enterprise Linux の新しいバージョンをサポートするには、ダイナミックカーネルサポートを使用する必要があるかもしれません (この機能の詳細については、『インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。)

- 1 SUSE® LINUX Enterprise Server (バージョン 9) (Intel EM64T 用 SP3)

 **メモ:** 各対応オペレーティングシステムでサポートされている Server Administrator の最新リストについては、『Dell Installation and Server Management CD』の Server Administrator Readme ファイルが『製品マニュアル CD』の『互換性ガイド』を参照してください。

システム要件

管理する各システムに Server Administrator をインストールする必要があります。その後、対応ウェブブラウザを使って、Server Administrator を実行している各システムをローカルまたはリモートに管理することができます。

『Dell Installation and Server Management CD』の必要条件チェッカー (setup.exe) がお使いのシステムを自動的に分析して、システム要件が満たされているかどうか判別します。詳しい情報は、『[Windows での必要条件チェッカー](#)』を参照してください。

管理下システム要件

- 1 「[対応オペレーティングシステム](#)」の 1 つ。
- 1 128 MB の RAM
- 1 ハードドライブに 256 MB の空き容量
- 1 管理者権限
- 1 モニタシステム上に TCP/IP 接続とリモートシステム管理を促進するためのリモートシステム
- 1 「[対応ウェブブラウザ](#)」の 1 つ。
- 1 「[対応システム管理プロトコル標準](#)」の 1 つ。
- 1 マウス、キーボードおよびモニター(システムをローカル管理するため) モニターには最低 800 x 600 の画面解像度が必要です。推奨画面解像度設定は 1024 x 768 です。
- 1 Server Administrator Remote Access Serviceを使用するには、管理システムにDell Remote Access Controller(DRAC)をインストールする必要があります。ソフトウェアおよびハードウェア要件については、該当する『Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』の「[Remote Access Service](#)」および「[その他の文書](#)」を参照してください。
- 1  **メモ:** DRAC ソフトウェアは、管理システムが DRAC のインストール要件をすべて満たしている場合に、『Dell Installation and Server Management CD』からシステム管理ソフトウェアをインストールするときに **簡易セットアップ** と **カスタムセットアップ** のインストールオプションの一部としてインストールされます。ソフトウェアおよびハードウェア要件については、該当する『Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』の「[Remote Access Service](#)」および「[その他の文書](#)」を参照してください。
- 1 Storage Management Service は、**簡易セットアップ**を使用することによりデフォルトで対応の Windows オペレーティングシステムにインストールされます。
- 1  **メモ:** Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server システムでは、Red Hat Package Manager(RPM)を通じてインストールするか、あるいは選択するオプションに基づき適切な RPM をインストールするメニュー誘導型スクリプトの `srvadmin-install.sh` スクリプトを使用してインストールすることができます。

リモート管理のシステム要件

- 1 Server Administrator ホームページからリモートでシステムを管理する「[対応ウェブブラウザ](#)」の 1 つ。
- 1 管理下システム上に TCP/IP 接続とリモートシステム管理を促進するためのリモートシステム。
- 1 800 x 600 の画面解像度 推奨画面解像度設定は 1024 x 768 です。


対応ウェブブラウザ

Server Administrator ホームページからローカルでシステムを管理するには、対応ウェブブラウザが必要です。対応ブラウザは次のとおりです。

- 1 Internet Explorer 6.0 SP1 および SP2(Windows のみ)
- 1 Mozilla Firefox 1.0.7(SUSE LINUX Enterprise Server および Red Hat Enterprise Linux)
- 1 Mozilla 1.7.8、1.7.10 および 1.7.11(SUSE LINUX Enterprise Server および Red Hat Enterprise Linux)

対応システム管理プロトコル標準

Server Administrator をインストールする前に、対応システム管理プロトコル標準が管理下システムにインストールされている必要があります。Microsoft Windows オペレーティングシステムの場合、Server Administrator でサポートしているシステム管理標準は、Common Information Model/Windows Management Instrumentation(CIM/WMI)と簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)です。Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムの場合、Server Administrator は SNMP システム管理標準をサポートしています。

 **メモ:** 管理下システムに対応システム管理プロトコル標準をインストールする方法についての詳細は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

[表 4-1](#) は、各対応オペレーティングシステムで使用できるシステム管理標準の使用可能状況を示しています。

表 4-1. オペレーティングシステム別システム管理プロトコルの使用可能状況

オペレーティングシステム	SNMP	CIM/WMI
対応 Microsoft Windows オペレーティングシステム	オペレーティングシステムのインストールメディアから使用できます。	常にインストールされています。
対応 Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステム	オペレーティングシステムと一緒に提供される SNMP パッケージをインストールする必要があります。	使用できません。
SUSE@ LINUX Enterprise Server	オペレーティングシステムと一緒に提供される SNMP パッケージをインストールする必要があります。	使用できません。

Windows の必要条件チェッカー

`setup.exe` は『Dell Installation and Server Management CD』の Windows ディレクトリ内にある必要条件チェッカープログラムで、実際のインストールを起動しなくてもソフトウェアコンポ

一ネットの必要条件を調べる機能を備えています。このプログラムはステータスウィンドウを表示して、特定のソフトウェアコンポーネントが動作するのに必要なシステムハードウェアに関する情報が提供されます。

必要条件の確認作業は、`runprereqcheck.exe /s` を使ってサイレントに実行できます。

インストール手順

各対応オペレーティングシステムに Server Administrator をインストールする方法と、インストール、アップグレード、アンインストールの詳細手順については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティ ユーザーズガイド』を参照してください。

Citrix を使った Server Administrator のインストール

Citrix を使って Server Administrator をインストールする場合は、次の順番でインストールを実行する必要があります。

1. 『Dell Dell Installation and Server Management CD』を使用してオペレーティングシステムをインストールします。

 **メモ:** Citrix ソフトウェアをインストールするまでは、Server Administrator やその他のシステム管理ソフトウェアをインストールしないでください。

2. Citrix ソフトウェアをインストールします。Citrix ソフトウェアのインストールと設定の詳細については、Citrix のマニュアルを参照してください。
3. 『Dell Dell Installation and Server Management CD』を使用して Server Administrator をインストールします。

すべてのアプリケーション(Server Administrator を含む)は、Citrix をインストールした後でインストールした場合に正しく機能します。Citrix はインストール時に、ハードドライブ文字のすべてを再マップします。

例えば、ドライブ C: に Server Administrator をインストールして、その後 Citrix をインストールすると、ドライブ文字が C: から、M: になります。そのため、Server Administrator をインストールした後で Citrix をインストールした場合、Server Administrator が正しく機能しなくなります。次を入力することにより Server Administrator を修正できます。
`msiexec.exe /Ea SysMgmt.msi`

Storage Management Service をインストールする前の注意事項

Storage Management には Server Administrator が内蔵されています。Dell OpenManage Storage Management は Array Manager の代用となるものです。

Storage Management Service 2.0 をインストールする場合、既存の Storage Management Service はアンインストールされます。

Storage Management Service インストール時の PERC コンソールと FAST 互換性問題

FAST または PERC コンソールをインストール済みのシステムに Storage Management をインストールする設定はサポートされていません。特に、FAST をインストール済みのシステムで Storage Management Service を使用すると、実行時に Storage Management Service または FAST 機能が無効になります。したがって、Storage Management Service をインストールするときは、その前に FAST および PERC コンソールをアンインストールすることをお勧めします。

Dell OpenManage Storage Management は、FAST および PERC コンソールが提供するすべてのストレージ管理機能を置き換えます。また、Storage Management Service には、FAST および PERC コンソールでは提供されていない機能もあります。

Storage Management Service インストール時の Linux ユーティリティの互換性

Dell またはその他ベンダーが提供する RAID Storage Management ユーティリティを持つ Linux システムに Storage Management Service をインストールすることはお勧めできません。これらのユーティリティは、Storage Management Service のインストール前にアンインストールしておく必要があります。Storage Management Service は、これらのユーティリティが提供するストレージ管理機能を置き換えます。Dell またはその他ベンダーからは、以下のような Linux ユーティリティを提供しています。

- 1 LinFlash
- 1 DellMgr
- 1 DellMON
- 1 LiNLlib
- 1 MegaMgr
- 1 MegaMON

Linux の必要ドライバおよびファームウェアと Storage Management Service

Linux システムの場合、Storage Management のインストールでは、システム内のドライバやファームウェアが Storage Management のインストールと使用に必要なレベルかどうかを確認することができません。Linux にインストールすると、ドライバやファームウェアのバージョンが必要なレベルを満たすかどうかに関わらず、インストールを完了できます。ただし、ドライバやファームウェアのバージョンが必要なレベルを満たしていないと、Storage Management が提供する機能の一部にアクセスできない場合があります。Storage Management Service の実行時は、バージョンの古いファームウェアが使用されていないかどうかアプリケーションログファイルで確認してください。対応コントローラのファームウェアとドライバのバージョンの全リストは、Storage Management の `Readme(readme_sm.txt)` に記載されています。

Filesystem Hierarchy Standard v2.3 のサポート

File Hierarchy System(FHS)は、Linux Standard Base のより広い定義のコンポーネントです。このリリースでは Server Administrator によりファイルの移動がサポートされています。

標準的なインストールでは、すべてのファイルは次の場所に配置されます: /opt/dell/srvadmin。

影響を受ける対応ディレクトリは次の通りです。

- 1 配置される共有可能(静的)なファイル: /opt/dell/srvadmin
- 1 ホスト特定ファイル(ユーザー修正可能): /etc/opt/dell/srvadmin and /etc/opt//srvadmin
- 1 動的(ログ)ファイル: /var/tmp/dell/srvadmin, /var/tmp//srvadmin, and /var/log/dell/srvadmin /var/log//srvadmin

詳細については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Instrumentation Service(計装サービス)

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [システムの管理](#)
- [システムツリーオブジェクトの管理](#)
- [Server Administrator ホームページシステムツリーオブジェクト](#)
- [プリファランスの管理: ホームページの設定オプション](#)

概要

Server Administrator Instrumentation Service(計装サービス)は、システムの正常性をモニタし、業界標準システム管理エージェントによって収集された故障と性能についての詳細情報への迅速なアクセスを提供します。報告機能と表示機能を使うと、システムを構成する各シャーシの全般的な正常性の状態を把握することができます。サブシステム レベルでは、電圧、温度、電流、ファン回転数/分、およびシステムの主要点におけるメモリ機能についての情報を表示できます。システムの各関連所有コスト(COO)のアカウント詳細は概要ビューで参照できます。BIOS、ファームウェア、オペレーティングシステム、およびインストールされているすべての Systems Management Software のバージョン情報も簡単に取得できます。

さらに、システム管理者はInstrumentation Service(計装サービス)を使用して次の重要タスクを実行することができます。

- 1 特定の重要コンポーネントの最大値と最小値を指定します。この値はしきい値と呼ばれ、そのコンポーネントの危険イベント発生範囲を決定します(故障最大値と最小値は、システム メーカーによって指定されます)。
- 1 危険イベントまたは故障イベントが発生したときのシステムの応答方法を指定します。ユーザーは危険および故障イベントの通知を受けたときにシステムが取る対応を設定できます。また、24時間監視を行っているユーザーは、イベント発生に対して何も処置を取らずに責任者の裁量に任せるよう選択することができます。
- 1 システム名、システムのプライマリユーザー電話番号、減価償却方法、システムがリリースか所有かなど、システムにユーザー指定できる値をすべて作成します。

❏ **メモ:** Microsoft® Windows Server™ 2003 を実行している管理下システムとネットワーク管理ステーションで SNMP パケットを受け入れるには、SNMP サービスを設定する必要があります。詳細については、「[Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムの SNMP Agent の設定](#)」を参照してください。

システムの管理

Server Administrator ホームページには、デフォルトでシステムツリービューの **システム** オブジェクトが表示されます。**システム** オブジェクトのデフォルトでは、**プロパティ** タブの **正常性** コンポーネントが開かれます。

図 6-1. Server Administrator ホームページの例



❏ **メモ:** Server Administrator ホームページの各ウィンドウでは、状況に応じたオンラインヘルプを使用できます。グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中のウィンドウについて詳しい情報が掲載されたヘルプウィンドウが開きます。オンラインヘルプは、Server Administrator サービスのさまざまな要素を実行するのに必要な特定の操作について説明す

るように設計されています。Server Administrator が検出するシステムのソフトウェアとハードウェアのグループとユーザー特権レベルに従って、表示可能なすべてのウィンドウにオンラインヘルプが用意されています。

メモ: システムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、アクションタブ、アクションタブサブカテゴリまたはデータ領域機能の多くは、ユーザー権限だけでログインしたユーザーには提供されていません。設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、アクションタブ、およびデータ領域機能を表示するには、「システム管理者」または「パワーユーザー」特権が必要です。さらに、「システム管理者」特権でログインしたユーザーのみが、**シャットダウン** タブに含まれているシャットダウン機能などの重要なシステム機能にアクセスできます。

プリファランス ホームページのデフォルトウィンドウは、**プリファランス** タブにある **アクセス設定** です。

プリファランス ホームページから、「ユーザー」と「パワーユーザー」の特権を持つユーザーへのアクセスを制限したり、SNMP パスワードを設定したり、ユーザーとセキュリティ保護されたポートサーバーのプリファランスを設定できます。

システムツリーオブジェクトの管理

Server Administrator のシステムツリーには、管理システムとユーザーのアクセス特権で Server Administrator が検出するソフトウェアとハードウェアのグループに基づいて、表示可能なシステムオブジェクトがすべて表示されます。システムコンポーネントはコンポーネントの種類別に分類されています。メインオブジェクトである**システム**を展開したときに、表示されるシステムコンポーネントのメインカテゴリには **メインシステムシャーシ**、**ソフトウェア**、**ストレージ** があります。

Storage Management Service がインストールされている場合、システムに接続しているコントローラとストレージにもとづき、ストレージ ツリーオブジェクトが展開されて、次のオブジェクトを表示されます。

- 1 コントローラ
- 1 バッテリ
- 1 コネクタ
- 1 エンクロージャまたはバックプレーン
- 1 アレイディスク
- 1 EMM
- 1 ファン
- 1 電源装置
- 1 温度
- 1 仮想ディスク
- 1 ファームウェア / ドライババージョン

Server Administrator ホームページシステムツリーオブジェクト

メモ: システムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、アクションタブ、アクションタブサブカテゴリまたはデータ領域機能の多くは、ユーザー権限だけでログインしたユーザーには提供されていません。設定可能なシステムツリーオブジェクト、システムコンポーネント、アクションタブ、およびデータ領域機能を表示するには、「システム管理者」または「パワーユーザー」特権が必要です。さらに、「システム管理者」特権でログインしたユーザーのみが、**シャットダウン** タブに含まれているシャットダウン機能などの重要なシステム機能にアクセスできます。

システム

システム オブジェクトには、3 つのメインシステムコンポーネントグループ、「**メインシステムシャーシ**」、「**ソフトウェア**」、「**ストレージ**」があります。Server Administrator ホームページには、デフォルトでシステムツリービューの **システム** オブジェクトが表示されます。ほとんどの管理機能は、**システム** オブジェクト処置ウィンドウから管理できます。**システム** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**、**シャットダウン**、**ログ**、**警告管理**、および**診断** タブが表示されます。

メモ: アップデート機能は Server Administrator のバージョン 2.0 以前のリリースでサポートされています。Dell サーバーアップデートユーティリティと Dell アップデートパッケージは、support.dell.com からダウンロードできます。これらは Microsoft Windows®、Red Hat® Enterprise Linux、および SUSE® LINUX Enterprise Server でサポートされていません。

メモ: Dell サーバーアップデートユーティリティまたは Dell アップデートパッケージは、アップデートするシステムから始動する必要があります。

プロパティ



サブタブ: **正常性** | **概要** | **資産情報** | **自動回復**

プロパティ タブでは以下のことができます。

- 1 **メインシステムシャーシ** オブジェクトのハードウェアとソフトウェアコンポーネント、付属ストレージコンポーネントおよび監視されているシステムの Diagnostic Service の現在の正常性に対する警告状態を表示します。

メモ: Diagnostic Service は、起動時に **システム** オブジェクトの**正常性** ページには表示されません。Diagnostic Service は、列挙(システムをスキャンして診断に使用できるデバイスを探すこと)を開始する前に、Server Administrator サービスが完全に開始されるのを待ちます。<F5>を押して更新すると、列挙が完了すると **Diagnostic Service** が表示されます。この処理は一部のシステムでは数分かかることがあります。




- 1 モニタされているシステムのすべてのコンポーネントの詳細な概要情報を表示します。
- 1 モニタされているシステムの資産情報を表示および設定します。
- 1 モニタ中のシステムの自動システム回復(ウォッチドッグタイマー)処置の表示と設定を行います。

-  **メモ:** 応答していないシステムをウォッチドッグが識別している場合は、設定したタイムアウト時間 (n 秒) に従って自動システム回復処置が実行されない可能性があります。処置の実行時間は $n-h+1 \sim n+1$ 秒で、n は設定したタイムアウト時間、h はハートビート間隔です。ハートビート間隔の値は $n \leq 30$ の場合は 7 秒、 $n > 30$ の場合は 15 秒です。
-  **メモ:** システム DRAM Bank_1 で修復できないメモリエVENTが発生した場合に、ウォッチドッグタイマー機能の動作を保証できません。修復できないメモリエVENTがこの場所で発生すると、この領域の BIOS コードレジデントが破損する場合があります。ウォッチドッグ機能は BIOS への呼び出しを使ってシャットダウンまたは再起動の動作を実行するので、この機能は正常に作動しません。この問題が起こった場合は、手動でシステムを再起動する必要があります。

シャットダウン

サブタブ: リモートシャットダウン | サーマルシャットダウン | Web Server シャットダウン

シャットダウン タブでは次のことができます。

- オペレーティングシステムのシャットダウンとリモートシャットダウンのオプションを設定します。
- 温度センサーが警告またはエラー値を返したときにシステムをシャットダウンするサーマルシャットダウンの重大度レベルを設定します。
 -  **メモ:** サーマルシャットダウンは、センサーによって報告された温度が温度しきい値を超えた場合にのみ発生します。サーマルシャットダウンは、センサーによって報告された温度が温度しきい値を超えない場合はサーマルシャットダウンは起こりません。
- Server Administrator のセキュリティ保護されたポートサーバー (Web Server) をシャットダウンします。
 -  **メモ:** セキュリティ保護されたポートサーバーがシャットダウンされても、CLI を使用して Server Administrator を使用することができます。CLI 機能では、セキュリティ保護されたポートサーバーが実行されている必要はありません。
 -  **メモ:** セキュリティ保護されたポートサーバーは、再起動後に自動的に起動されるので、システムが起動するたびにセキュリティ保護されたポートサーバーをシャットダウンする必要がありません。

ログ


サブタブ: ハードウェア | 警告 | POST | コマンド

- ログ タブでは以下のことができます。
 - システムのハードウェアコンポーネントに関連したすべてのイベント一覧の組み込みシステム管理 (ESM) ログまたはシステムイベントログ (SEL) を表示できます。ログが 80% の容量に達すると、ログ名の隣の状態インジケータアイコンが緑のチェックマーク (✓) から、感嘆符の入った黄色い三角形 (!) に変化します。Dell™ PowerEdge™ x8xx および x9xx では、ログファイルの容量が 100% に到達すると、ログ名の隣にある状態インジケータアイコンは、赤の X (✗) に変わります。
 -  **メモ:** 容量が 80% に達したら、ハードウェアログをクリアすることをお勧めします。ログの容量が 100% に達してしまうと、最新のイベントはログから破棄されます。
 - センサーやその他のモニタパラメータの変更に対する応答として、Server Administrator Instrumentation Service が生成したすべてのイベント一覧の警告ログを表示します。
 -  **メモ:** 各警告イベント ID の説明、重大レベルおよび原因などの完全な説明は、『Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。
 - システム起動時に記録された POST コードのリストと対応する説明が入った POST ログを表示します。
 - Server Administrator ホームページまたはコマンドラインインタフェースから実行した各コマンド一覧が入ったコマンドログを表示します。
-  **メモ:** ログの表示、印刷、保存および電子メールについての完全な説明は、『Server Administrator ログ』を参照してください。

警告管理

サブタブ: 警告処置 | プラットフォームイベント | SNMPトラップ

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 現在の警告処置設定の表示と、システムコンポーネントセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置を設定します。
- 現在のプラットフォームイベントフィルタ設定の表示と、システムコンポーネントセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行するプラットフォームイベントフィルタ処置を設定します。また、送信先の設定オプションを使用して、プラットフォームイベントの警告を送信する送信先を選択します。
- 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、計装されたシステムコンポーネントの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。
 -  **メモ:** すべての潜在的なシステムコンポーネントのセンサーに対する警告処置は、システム上になくても 警告処置 ウィンドウに一覧表示されます。システム上にないシステムコンポーネントセンサーに対して警告処置を設定しても、効果はありません。


診断


サブタブ: 選択 | レビュー | 状態 | 結果 | ハードウェアの変更 | 設定 | スケジュールされたタスク

診断 タブでは以下のことができます。

- システムにインストールされているコンポーネントで使用できる診断テストを表示して、実行を選択します。
- 選択したテストをレビューします。
- 実行中のテストの状態を表示します。
- 実行された診断テストの結果を表示します。
- 現在のハードウェア構成に変更があればそれを表示します (ハードウェア構成の相違)。
- 診断テストとログファイルの設定を変更します。

- 1 スケジュールされたテストのリストを表示し、変更を加えます。

 **メモ:** **診断** タブは、起動時には Server Administrator で使用できません。Diagnostic Service は、列挙(システムをスキャンして診断に使用できるデバイスを探すこと)を開始する前に、Server Administrator サービスが完全に開始されるのを待ちます。<F5>を押して更新すると、列挙が完了すると **診断** タブが表示されます。この処理は一部のシステムでは数分かかることがあります。

 **メモ:** Server Administrator Diagnostic Service の完全な使い方については、「[Diagnostic Service\(診断サービス\)](#)」を参照してください。

メイン システム シャーシ

メインシステムシャーシ オブジェクトをクリックすると、システムの主要なハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントを管理できます。システムには、1 つのメインシステムシャーシが含まれることもあれば、複数のシャーシが含まれることもあります。メインシステムシャーシには、システムに不可欠なコンポーネントが格納されています。**メインシステムシャーシ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **診断** タブが表示されます。


プロパティ

サブタブ: [正常性](#) | [情報](#) | [FRU](#) | [フロントパネル](#)


プロパティ タブでは以下のことができます。

- 1 ハードウェアコンポーネントおよびセンサーの正常性および状態を表示します。一覧表示されている各コンポーネントには、その名前の横に [システムコンポーネント状態インジケータ](#) アイコンがあります。緑のチェックマーク(✔)は、コンポーネントが健康(正常)であることを示します。感嘆符が入った黄色の三角形(⚠)は、コンポーネントは危険(重要ではない)状態で、速やかな対応が必要なことを示します。赤い X マーク(✖)は、コンポーネントが危険(故障)状態にあり、早急に対応が必要なことを示します。ブランクスペース()は、コンポーネントの正常性が不明であることを示します。使用できるモニタコンポーネントには次のようなものがあります。

- 1 [AC スイッチ](#)
- 1 [バッテリー](#)(PowerEdge 1900、1950、1955、2900、2950 システムのみで使用可能)
- 1 [BIOS](#)
- 1 [電流](#)
- 1 [ファン](#)
- 1 [ファームウェア](#)
- 1 [ハードウェアログ](#)
- 1 [イントルージョン](#)
- 1 [メモリ](#)
- 1 [ネットワーク](#)
- 1 [ポート](#)
- 1 [電源装置](#)
- 1 [プロセッサ](#)
- 1 [リモートアクセス](#)
- 1 [スロット](#)
- 1 [温度](#)
- 1 [電圧](#)

 **メモ:** AC スイッチおよび電流は、限られたシステムのみで表示されます。

- 1 メインシステムシャーシの属性についての情報を表示します。
- 1 システムにインストールされているフィールド置換ユニット(FRU)についての詳細情報を表示します。メモ: 電子親プロセス識別子(PPID)をもつ FRU のみリストに表示されます。
- 1 電源ボタンおよびシステムに存在する場合は NMI (非マスク割り込み) ボタンと呼ばれる、管理下システムのフロントパネルボタンを有効または無効にします。

 **メモ:** Diagnostic Service は、起動時に **メインシステムシャーシ** オブジェクトの **正常性** ページには表示されません。Diagnostic Service は、列挙(システムをスキャンして診断に使用できるデバイスを探すこと)を開始する前に、Server Administrator サービスが完全に開始されるのを待ちます。<F5>を押して更新すると、列挙が完了すると Diagnostic Service が表示されます。この処理は一部のシステムでは数分かかることがあります。


診断

サブタブ: [選択](#) | [レビュー](#) | [状態](#) | [結果](#) | [ハードウェアの変更](#) | [設定](#) | [スケジュールされたタスク](#)

診断 タブでは以下のことができます。

- 1 システムにインストールされているコンポーネントで使用できる診断テストを表示して、実行を選択します。
- 1 選択したテストをレビューします。
- 1 実行中のテストの状態を表示します。
- 1 実行された診断テストの結果を表示します。
- 1 現在のハードウェア構成に変更があればそれを表示します(ハードウェア構成の相違)。
- 1 診断テストとログファイルの設定を変更します。

- 1 スケジュールされたテストのリストを表示し、変更を加えます。

 **メモ:** Server Administrator Diagnostic Service の完全な使い方については、「[Diagnostic Service\(診断サービス\)](#)」を参照してください。

AC スイッチ

AC スイッチ オブジェクトをクリックすると、システムの AC フェールオーバースイッチの主要機能を表示できます。**AC スイッチ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、AC スイッチの冗長性と AC 電源供給ラインについて情報を表示できます。

バッテリー

バッテリー オブジェクトをクリックすると、システムにインストールされているバッテリーの情報を表示できます。システムの電源がオフのときも、バッテリーは時間および日付を維持します。バッテリーは、システムが効率的に再起動できるよう、システムの BIOS 設定構成を保存します。**バッテリー** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムバッテリーについての現在の読み取り値および状態を表示できます。

警告管理

警告管理 タブでは、バッテリー警告または重要 / エラーイベントが発生した時に有効にする警告を設定できます。

BIOS

BIOS オブジェクトをクリックすると、システムの BIOS の主要機能を管理できます。システムの BIOS には、フラッシュメモリチップセットに保存されて、プロセッサと周辺機器(キーボードやビデオアダプタ)間の通信と、システムメッセージなどその他の機能を制御するプログラムが含まれています。**BIOS** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **設定** タブが表示されます。

プロパティ


サブタブ: 情報

プロパティ タブでは BIOS 情報を表示できます。

セットアップ


サブタブ: BIOS


セットアップ タブでは各 BIOS セットアップオブジェクトの状態を設定できます。

 **メモ:** **セットアップ** タブで起動順序を **デバイスリスト** に設定すると、起動順序は ディスケット、IDE CD ドライブ、ハードドライブ、オプションの ROM(デバイスを使用できる場合)となります。

シリアルポート、デュアルネットワークインタフェースコントローラカード、起動順序、ユーザーのアクセスが可能な USB ポート、CPU 仮想化テクノロジー、CPU ハイパースレディング、AC 電源回復モード、内蔵 SATA コントローラ、コンソールリダイレクト、コンソールリダイレクト Failsafe ポーレート等の多数の BIOS 設定機能の状態を変更できます。

特定のシステム構成ではその他の設定アイテムが表示される場合もありますが、BIOS 設定オプションによっては、Dell OpenManage ではアクセス不能な F2 BIOS 設定画面に表示されるものがあります。

 **メモ:** システムの BIOS 設定タブは、システムでサポートされる BIOS 機能のみを表示します。

 **注意:** Server Administrator 内の NIC 設定情報 **BIOS** 設定が内蔵型の NIC では不正確な場合があります。**BIOS** 設定画面で NIC を有効または無効にすると、予想外の結果が生じる可能性があります。内蔵型の NIC では実際の **システムセットアップ** 画面(システムの起動中に <F2> を押してアクセス)からすべての設定を実行することをお勧めします。

電流


電流 オブジェクトをクリックすると、システムの電圧レベルを管理できます。Server Administrator は、モニタシステムのさまざまなシャーンの場所の重要コンポーネントを通じて電圧を監視します。**温度** オブジェクトウィンドウは、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 電流プローブ

プロパティ タブでは以下のことができます。

- 1 システムの電流プローブの電流の読み取り値と状態を表示します。
- 1 電流プローブ警告しきい値を設定します。
- 1 電流プローブで警告またはエラー値が返された場合に警告アクションを設定します。

 **メモ:** ブロープしきい値を割り当てるとき、入力した最小値または最大値が割り当て可能な値に自動的に四捨五入される場合があります。

警告管理

サブタブ: SNMPトラップ | 警告処置

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、電源が警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMPトラップ警告しきい値を表示し、電圧センサーのしきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

ファン


ファン オブジェクトをクリックすると、システムファンを管理できます。Server Administrator は rpm の測定によって各システムファンの状態を監視します。ファンブロープは、Server Administrator Instrumentation Service(計装サービス)に rpm を報告します。デバイスツリーから **ファン** を選択すると、Server Administrator ホームページの右側ペインのデータ領域に詳細が表示されます。**ファン** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: ファンブロープ | ファンコントロール

プロパティ タブでは以下のことができます。

- 1 システムのファンブロープの電流読み取り値を表示して、ファンブロープ警告しきい値の最大値と最小値を設定します。

 **メモ:** 一部のファンブロープフィールドは、システムで使用されているファームウェアの種類が BMC か ESM によって異なります。一部のしきい値は BMC ベースのシステムでは編集できません。

- 1 ファンコントロールオプションを選択します。

警告管理

サブタブ: SNMPトラップ | 警告処置

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、ファンが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMPトラップ警告しきい値を表示し、ファンの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

ファームウェア

ファームウェア をクリックすると、システムファームウェアを管理できます。ファームウェアは、ROM に書き込まれたプログラムまたはデータから構成されています。ファームウェアはデバイスの起動や操作を実行できます。各コントローラには、コントローラの機能の提供を助けるファームウェアが入っています。**ファームウェア** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、システムのファームウェア情報を表示できます。

イントルージョン

イントルージョン オブジェクトをクリックすると、システムのシャーシントルージョンの状態を管理できます。Server Administrator では、システムの重大コンポーネントへの不正アクセスを防ぐセキュリティ対策としてシャーシントルージョンの状態をモニタします。シャーシントルージョンは、誰かがシステムのシャーシを開いているか、開いたことを示します。**イントルージョン** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: イントルージョン

プロパティ タブでシャーシントルージョンの状態を表示できます。

警告管理

サブタブ: SNMPトラップ | 警告処置

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、イントルージョンセンサーが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMPトラップ警告しきい値を表示し、イントルージョンセンサーの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。


メモリ

メモリ オブジェクトをクリックすると、システムのメモリデバイスを管理できます。Server Administrator では、モニタ中のシステムに存在する各メモリモジュールのメモリデバイス状態をモニタします。メモリデバイスの事前故障センサーは、ECC メモリ修正数のカウントによってメモリモジュールをモニタします。また、システムでサポートされていれば、メモリ冗長性情報もモニタします。**メモリ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**、**警告管理**、および **診断** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: **メモリ**

プロパティ タブでは、メモリのアトリビュート、メモリデバイスの詳細、およびメモリデバイスの状態を表示できます。

 **メモ:** スベアバンクメモリが有効になっているシステムが「冗長性喪失」状態に入った場合、どのメモリモジュールが原因が明らかでない場合があります。交換する DIMM を特定できない場合は、ESM システムログの「検出されたスベアメモリバンクに切り替え」というエントリを参照し、エラーが発生したメモリモジュールを見つけてください。

警告管理

サブタブ: **SNMPトラップ | 警告処置**

警告管理 タブでは以下のことができます。


- 1 現在の警告処置設定の表示と、メモリモジュールが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、メモリモジュールのレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

診断

サブタブ: **選択 | レビュー | 状態 | 結果 | ハードウェアの変更 | 設定 | スケジュールされたタスク**

診断 タブでは以下のことができます。

- 1 システムにインストールされているコンポーネントで利用できる診断テストを表示して、実行を選択します。
- 1 選択したテストをレビューします。
- 1 実行中のテストの状態を表示します。
- 1 実行された診断テストの結果を表示します。
- 1 現在のハードウェア構成に変更があればそれを表示します（ハードウェア構成の相違）。
- 1 診断テストとログファイルの設定を変更します。
- 1 スケジュールされたテストのリストを表示し、変更を加えます。

 **メモ:** Server Administrator Diagnostic Service の完全な使い方については、「[Diagnostic Service\(診断サービス\)](#)」を参照してください。

ネットワーク

ネットワーク オブジェクトをクリックすると、システムの NIC を管理できます。Server Administrator は、システムに存在する各 NIC の状態をモニタして、リモート接続が続いていることを確認します。**ネットワーク** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**タブと **診断** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: **情報**


プロパティ タブでは、システムにインストールされている NIC についての情報を表示できます。

診断

サブタブ: **選択 | レビュー | 状態 | 結果 | ハードウェアの変更 | 設定 | スケジュールされたタスク**

診断 タブでは以下のことができます。

- 1 システムにインストールされているコンポーネントで利用できる診断テストを表示して、実行を選択します。
- 1 選択したテストをレビューします。
- 1 実行中のテストの状態を表示します。
- 1 実行された診断テストの結果を表示します。
- 1 現在のハードウェア構成に変更があればそれを表示します（ハードウェア構成の相違）。
- 1 診断テストとログファイルの設定を変更します。
- 1 スケジュールされたテストのリストを表示し、変更を加えます。

 **メモ:** Server Administrator Diagnostic Service の完全な使い方については、「[Diagnostic Service\(診断サービス\)](#)」を参照してください。

ポート

ポート オブジェクトをクリックすると、システムの外部ポートを管理できます。Server Administrator は、システムに存在する各外部ポートの状態をモニタします。**ポート** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**タブと **診断** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報


プロパティタブでは、システムの外部ポート情報を表示できます。

診断

サブタブ: 選択 | レビュー | 状態 | 結果 | ハードウェアの変更 | 設定 | スケジュールされたタスク

診断タブでは以下のことができます。

- 1 システムにインストールされているコンポーネントで使用できる診断テストを表示して、実行を選択します。
- 1 選択したテストをレビューします。
- 1 実行中のテストの状態を表示します。
- 1 実行された診断テストの結果を表示します。
- 1 現在のハードウェア構成に変更があればそれを表示します(ハードウェア構成の相違)。
- 1 診断テストとログファイルの設定を変更します。
- 1 スケジュールされたテストのリストを表示し、変更を加えます。

 **メモ:** Server Administrator Diagnostic Service の完全な使い方については、「[Diagnostic Service\(診断サービス\)](#)」を参照してください。

電源装置

電源装置 オブジェクトをクリックすると、電源装置を管理できます。Server Administrator は、冗長性を含めた電源装置の状態をモニタして、システムに存在する各電源装置が正しく機能しているか確認します。**電源装置** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**タブと**警告管理**タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 要素

プロパティタブでは以下のことができます。

- 1 電源装置の冗長性アトリビュートについての情報を表示します。
- 1 個別の電源装置要素の状態をチェックします。

警告管理

サブタブ: SNMPトラップ | 警告処置

警告管理タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、電源が警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置を設定します。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、電源装置の警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

プロセッサ

プロセッサ オブジェクトをクリックすると、システムのプロセッサを管理できます。プロセッサはシステム内にある主要計算チップで、演算関数と論理関数の解釈と実行を制御します。**プロセッサ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**タブと**警告管理**タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティタブでは、システムのプロセッサについての情報を表示して、詳細キャッシュ情報にアクセスできます。

警告管理

サブタブ: SNMPトラップ | 警告処置

警告管理タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、プロセッサが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、プロセッサの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

リモートアクセス

リモートアクセス オブジェクトをクリックすることにより、ベースボード管理コントローラ(BMC)機能およびリモートアクセスコントローラ機能を管理できます。Dell Remote Access Controller (DRAC)カードがインストールされている場合、DRAC がシステムのリモートアクセス機能を管理します。DRAC がインストールされていない場合は、リモートアクセスに対し BMC が設定されます。

BMC を選択することにより、BMC の一般情報などの BMC 機能を管理できます。また、LAN 上の BMC 設定、BMC のシリアルポート、シリアルポートのターミナルモード設定、シリアルオーバー LAN 接続の BMC、BMC ユーザーなども管理できます。

 **メモ:** Server Administrator 以外のアプリケーションを使用して Server Administrator を実行中に BMC を設定すると、Server Administrator によって表示される BMC 設定データが BMC と非同期になることがあります。Server Administrator を実行中は Server Administrator を使用して BMC を設定されることをお勧めします。

DRAC を選択するにより、システムのリモートシステム管理機能にアクセスできます。Server Administrator DRAC は、動作不能システムへのアクセス、システムがダウンしているときの警告通知、システム再起動などの機能などを提供します。

リモートアクセス オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**、**設定**、**ユーザー** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、一般的な BMC または DRAC 情報を表示できます。**デフォルトにリセット** をクリックすると、すべてのアトリビュートがシステムのデフォルト値にリセットされます。

設定

サブタブ: LAN | シリアルポート | シリアルオーバー LAN

BMC を設定する場合、**設定** タブで、LAN 上の BMC、BMC のシリアルポート、およびシリアルオーバー LAN 接続の BMC を設定できます。

DRAC を設定する場合、**設定** タブで、

- 1 ネットワークのプロパティを設定します。
- 1 SNMP トラップを設定します。
- 1 デマンドダイヤルアウトエントリを設定します。
- 1 ダイヤルインユーザーを設定します。
- 1 リモート起動パラメータなどのリモートのプロパティを設定します。
- 1 モデムのプロパティを設定します。

ユーザー

サブタブ: リモートアクセスユーザー

ユーザー タブでリモートアクセスユーザー設定を変更できます。Remote Access Service ユーザーについての情報を追加、設定、表示できます。

スロット

スロット オブジェクトをクリックすると、拡張カードなど、プリント回路基板を使用するシステム基板のコネクタまたはソケットを管理できます。**スロット**オブジェクト処置ウィンドウには**プロパティ**タブがあります。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、各スロットと取り付けられたアダプタについての情報を表示できます。


温度

温度 オブジェクトをクリックすると、システム温度を管理して、内部コンポーネントへの熱損傷を防ぐことができます。Server Administrator は、システムのシャーシのさまざまな場所で温度をモニタリングして、シャーシ内部の温度が高くなりすぎないようにします。**温度** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ**タブと**警告管理**タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 温度プローブ

プロパティ タブで、システムの温度プローブの現在の読み取りと状況を表示したり、温度プローブ警告しきい値の最大および最小値を設定することができます。


 **メモ:** 一部の温度プローブフィールドは、システムで使用されているファームウェアの種類が BMC か ESM かによって異なります。一部のしきい値は BMC ベースのシステムでは編集できません。プローブしきい値を割り当てるとき、入力した最小値または最大値が割り当て可能な値に自動的に四捨五入される場合があります。

警告管理

サブタブ: SNMP トラップ | 警告処置

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、温度プローブが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、温度プローブの警告しきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

 **メモ:** ユーザーは外部シャーシの最小温度プローブしきい値と最大温度プローブしきい値を整数でのみ設定できます。ユーザーが最小温度プローブしきい値または最大温度プローブしきい値を小数点が含まれる値に設定すると、小数点の前の整数だけがしきい値設定として保存されます。

電圧

電圧 オブジェクトをクリックすると、システムの電圧レベルを管理できます。Server Administrator は、モニタシステムのさまざまなシャーン位置で重要コンポーネントの電圧をモニタします。**電圧** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **警告管理** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 電圧ブローブ

プロパティ タブでシステムの電圧ブローブの現在の読み取り値と状態を表示したり、電圧ブローブ警告しきい値の最大および最小値を設定することができます。



メモ: 一部の電圧ブローブフィールドは、システムで使用されているファームウェアの種類が BMC か ESM かによって異なります。一部のしきい値は BMC ベースのシステムでは編集できません。

警告管理

サブタブ: SNMP トラップ | 警告処置

警告管理 タブでは以下のことができます。

- 1 現在の警告処置設定の表示と、システム電圧センサーが警告値またはエラー値を返したときに実行する警告処置の設定を行います。
- 1 現在の SNMP トラップ警告しきい値を表示し、電圧センサーのしきい値のレベルを設定します。選択した重大度レベルのイベントをシステムで生成された場合に、選択したトラップがトリガされます。

ソフトウェア

ソフトウェア オブジェクトをクリックすると、オペレーティングシステムやシステム管理ソフトウェアなど、管理システムの重要なソフトウェアコンポーネントの詳しいバージョン情報が表示できます。**ソフトウェア** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 概要

プロパティ タブでは、モニタシステムのオペレーティングシステムとシステム管理ソフトウェアの概要を表示できます。

オペレーティング システム

オペレーティングシステム オブジェクトをクリックすると、オペレーティングシステムの基本情報を表示できます。**オペレーティングシステム** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 情報

プロパティ タブでは、オペレーティングシステムの情報を表示できます。

ストレージ

Server Administrator は、Storage Management Service を提供します。

Storage Management Service はストレージデバイスの設定機能を提供します。ほとんどの場合、Storage Management Service は 簡易セットアップを使用してインストールします。Storage Management は Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムでのみ使用可能です。

Storage Management Service がインストールされている場合、**ストレージ** オブジェクトをクリックすると、接続している各種のアレイストレージデバイス、ボリューム、システムディスクなどの状態および設定が表示されます。

Storage Management Service では、**ストレージ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブと **診断** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 正常性

プロパティ タブでは、アレイサブシステム、オペレーティングシステムディスク、ボリュームなど、接続しているストレージコンポーネントやセンサーの正常性や状態を表示できます。



メモ: Diagnostic Service は、起動時に **ストレージ** オブジェクトの **正常性** ページには表示されません。Diagnostic Service は、列挙(システムをスキャンして診断に使用できるデバイスを探すこと)を開始する前に、Server Administrator サービスが完全に開始されるのを待ちます。<F5>を押して更新すると、列挙が完了すると Diagnostic Service が表示されません。この処理は一部のシステムでは数分かかることがあります。


診断

サブタブ: 選択 | レビュー | 状態 | 結果 | ハードウェアの変更 | 設定 | スケジュールされたタスク

診断 タブでは以下のことができます。

- 1 システムにインストールされているコンポーネントで使用できる診断テストを表示して、実行を選択します。
- 1 選択したテストをレビューします。
- 1 実行中のテストの状態を表示します。
- 1 実行された診断テストの結果を表示します。

- 1 現在のハードウェア構成に変更があればそれを表示します(ハードウェア構成の相違)。
- 1 診断テストとログファイルの設定を変更します。
- 1 スケジュールされたテストのリストを表示し、変更を加えます。

 **メモ:** Server Administrator Diagnostic Service の完全な使い方については、「[Diagnostic Service\(診断サービス\)](#)」を参照してください。

ボリューム

ボリューム オブジェクトをクリックすると、システム上のボリュームの情報を表示できます。ボリュームはフォーマットされている場合もあり、ファイルシステムやドライブ文字がある場合もあります。**ボリューム** 処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: ボリューム

プロパティ タブでは、ボリュームについての現在の状態と詳細を表示できます。

Storage Management Service

Storage Management Service の場合は、**ストレージ** オブジェクトをクリックすると、システムに接続している対応コントローラの状態と設定を表示できます。コントローラオブジェクトが展開され、コントローラに接続しているストレージデバイスが表示されます。

ストレージ オブジェクトを展開すると、次のような下位レベルオブジェクトが表示されます。これはシステムに接続しているコントローラとストレージによって異なります。

- 1 コントローラ
- 1 バッテリ
- 1 コネクタ
- 1 エンクロージャまたはバックプレーン
- 1 アレイディスク
- 1 EMM
- 1 ファン
- 1 電源装置
- 1 温度
- 1 仮想ディスク
- 1 ファームウェア / ドライババージョン

ストレージ オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プロパティ** タブが表示されます。

プロパティ

サブタブ: 正常性

プロパティ タブの **正常性** ウィンドウでは、接続しているストレージコンポーネントの現在の正常性や状態を表示できます。このウィンドウには、下位レベルのすべてのオブジェクトの状態が表示されます。

全ストレージコンポーネントの状態をすばやく参照するには、**ストレージ** オブジェクトを選択し、**プロパティ** タブの **正常性** ウィンドウを表示します。**正常性** ウィンドウで必要なストレージコンポーネントをクリックすると、そのコンポーネントの正常性や状態の詳細情報を表示できます。

サブタブ: 情報 / 設定

プロパティ タブの **情報 / 設定** ウィンドウでは、システムに接続しているコントローラのプロパティを表示できます。グローバルタスクを実行して、すべてのコントローラに適用することもできます。

コントローラ

コントローラ オブジェクトをクリックすると、コントローラおよびコントローラに接続している各種コンポーネントに関する情報を表示できます。コントローラに接続しているコンポーネントには、バッテリー、仮想ディスクなどがあります。**コントローラ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**正常性** タブと **情報 / 設定** タブが表示されます。

正常性

正常性 タブには、コントローラに接続しているバッテリー、仮想ディスクなどのストレージコンポーネントに関する状態を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

情報 / 設定

情報 / 設定 タブでは、コントローラおよびコントローラに接続しているコンポーネントのプロパティ情報を表示できます。このタブでコントローラタスクを実行することもできます。

コネクタ

コネクタ オブジェクトをクリックすると、コネクタおよびコネクタに接続しているエンクロージャやバックプレーンに関する情報を表示できます。**コネクタ** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**正常性** と **設定 / 情報** タブが表示されます。

正常性

正常性 タブでは、コネクタおよびコネクタに接続しているエンクロージャやバックプレーンに関する現在の状態を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、コネクタおよびコネクタに接続しているエンクロージャやバックプレーンに関するプロパティ情報を表示できます。このタブでコネクタタスクを実行することもできます。

エンクロージャまたはバックプレーン

エンクロージャ または **バックプレーン** オブジェクトをクリックすると、エンクロージャやバックプレーンに接続しているアレイドスク、温度プローブなどのコンポーネントに関する情報を表示できます。**エンクロージャ** または **バックプレーン** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**正常性** と **設定 / 情報** タブが表示されます。

正常性

正常性 タブでは、エンクロージャやバックプレーンに接続しているアレイドスクなどのコンポーネントの現在の状態を表示できます。たとえば、エンクロージャのファン、電源装置、温度プローブなどの状態がこのタブに表示されます。バックプレーンに接続しているアレイドスクの状態もここに表示されます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、アレイドスク、温度プローブ、EMM(エンクロージャ管理モジュール)など、エンクロージャまたはバックプレーンに接続しているコンポーネントのプロパティ情報を表示できます。エンクロージャの場合、このタブでエンクロージャのタスクを実行することもできます。

アレイドスク

アレイドスク オブジェクトをクリックすると、エンクロージャまたはバックプレーンに接続しているアレイドスクに関する情報を表示できます。**アレイドスク** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**設定 / 情報** タブが表示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、エンクロージャまたはバックプレーンに接続しているアレイドスクの現在状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、容量、使用済みおよび空きディスク容量などの情報が含まれます。このタブでアレイドスクのタスクを実行することもできます。

EMM

EMM オブジェクトをクリックすると、EMM(エンクロージャ管理モジュール)に関する情報を表示できます。EMM オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**設定 / 情報** タブが表示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、EMM の現在の状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、パーツナンバー、ファームウェアバージョン、および SCSI 率などが含まれます。

ファン

ファン オブジェクトをクリックすると、エンクロージャファンに関する情報を表示できます。**ファン** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**設定 / 情報** タブが表示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、ファンの現在状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、ファンの名前、状況、パーツナンバー、およびスピードなどが含まれます。

電源装置

電源装置 オブジェクトをクリックすると、エンクロージャ電源装置に関する情報を表示できます。**電源装置** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**設定 / 情報** タブが表示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、エンクロージャ電源装置の現在の状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、パーツナンバーなどが含まれます。

温度

温度 オブジェクトをクリックすると、エンクロージャ温度プローブに関する情報を表示できます。**温度** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**設定 / 情報** タブが表示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、エンクロージャ温度プローブの現在の状態とプロパティ情報を表示できます。この状態は「[ストレージコンポーネントの重大度](#)」で説明したアイコンで示されます。

プロパティ情報には、名前、状況、読み取り値(現在の温度)などがあります。このタブには、温度プローブの **警告** および **エラーしきい値** に設定される最小値と最大値も表示されます。

仮想ディスク

仮想ディスク オブジェクトをクリックすると、コントローラに設定された仮想ディスクに関する情報を表示できます。仮想ディスク オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、設定 / 情報 タブが表示されます。

設定 / 情報

設定 / 情報 タブでは、コントローラに設定された仮想ディスクのプロパティ情報を表示できます。プロパティ情報には、名前、状況、レイアウト(RAID レベル)などが含まれます。読み取り、書き込み、およびキャッシュポリシー、ストライプサイズも表示されます。このタブで仮想ディスクのタスクを実行することもできます。

ファームウェア / ドライババージョン

ファームウェア / ドライババージョンオブジェクトをクリックすることにより、現在コントローラにインストールされているドライバおよびファームウェアのバージョン情報を表示することができます。ファームウェアおよびドライバのプロパティはコントローラのモデルにより異なります。

ファームウェアおよびドライバのプロパティには次のアイテムが含まれます。

- 1 ファームウェアバージョン
- 1 最少限必要とされるファームウェアバージョン
- 1 ドライババージョン
- 1 最少限必要とされるドライババージョン

ストレージコンポーネントの重大度

コンポーネントの状態は重大度によってレベル付けされます。重大度の各レベルに応じて対処法が変わります。たとえば、**警告** または **重要** / **エラー** 状態の場合は、データ損失を回避するために即座に修正措置をとる必要があります。

コンポーネントが **警告** または **重要** 状態になる理由を示すイベントを探すには、警告ログの情報が役立ちます。トラブルシューティングの詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。





 **メモ:** 表示される状態は、ブラウザがそのページを初めて表示したときの状態を反映しています。状態が変化していることが予想され、表示情報をアップデートする場合は、処置ウィンドウの右上隅にある **更新** ボタンをクリックしてください。ストレージ設定変更は、コントローラの **再スキャン** を実行したときのみ検知可能な場合があるため、必要なコントローラの **情報** / **設定** タブをクリックしてから、**再スキャン** をクリックしてください。

表 6-1 は、さまざまな重要度レベルと、それに対応するコンポーネントの状態を示しています。

表 6-1 重大度レベルとコンポーネントの状態

重大度レベル	コンポーネントの状態
	正常 / OK. コンポーネントは予想どおりに動作しています。
	警告 / 非重要. プローブまたは他のモニターデバイスが許容レベルを超えるコンポーネントの読み取り値を検知しました。コンポーネントがまだ機能していても、エラーが発生する可能性があります。または、コンポーネントが不安定な状態で機能している可能性もあります。データ損失の可能性があります。
	重要 / 障害 / エラー. コンポーネントでエラーが発生したか発生する恐れがあります。このコンポーネントは即座に処置を要し、交換が必要な場合もあります。データ損失が発生した可能性もあります。

プリファランスの管理: ホームページの設定オプション

プリファランスホームページの左ウィンドウ枠(システムツリーが Server Administrator ホームページで表示されている)には、システムツリーウィンドウの使用可能な設定オプションがすべて表示されます。表示されるオプションは、管理システムにインストールされているシステム管理ソフトウェアによって異なります。

使用できるプリファランスホームページの設定オプションについては、[図 6-2](#) を参照してください。

図 6-2 プリファランスホームページ設定オプションの管理

-  一般設定
-  Server Administrator

一般設定

一般設定 オブジェクトをクリックすると、選択した Server Administrator 機能のユーザーとセキュアポートサーバー (Web Server) の環境を設定できます。**温度** オブジェクトウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**ユーザー** タブと **Web Server** タブが表示されます。

ユーザー

サブタブ: プロパティ

ユーザー タブでは、ホームページの外観や **電子メール** ボタン用のデフォルト電子メールアドレスなどのユーザー設定を設定できます。

Web Server

サブタブ: プロパティ | X.509 証明書

プロパティ タブでは以下のことができます。

- 1 セキュリティ保護されたポートサーバーのプリファランスを設定します。サーバー設定の設定方法については、「[セキュアポートサーバーとセキュリティのセットアップ](#)」を参照してください。
- 1 新しい X.509 証明書を作成したり、既存の X.509 証明書を再利用したり、認証機関 (CA) からルート認証や認証チェーンをインポートして X.509 証明書を管理します。証明書管理の詳細については、「[X.509 証明書の管理](#)」を参照してください。

Server Administrator

Server Administrator オブジェクトをクリックすると、ユーザー特権とパワーユーザー特権のあるユーザーのアクセスを有効または無効にして、SNMP root パスワードを設定できます。**Server Administrator** オブジェクト処置ウィンドウには、ユーザーのグループ特権に従って、**プリファランス**および**診断** タブが表示されます。

プリファランス

サブタブ: アクセス設定 | SNMP 設定

診断 タブでは以下のことができます。

- 1 ユーザー特権またはパワーユーザー特権を持つユーザーのアクセスを有効または無効にします。
- 1 SNMP root パスワードを設定します。

診断

サブタブ: 設定

診断 タブでは、診断テストを実行する際のオプションを設定できます。アプリケーション設定とテスト実行設定の両方でオプションを設定できます。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)


はじめに

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [統合機能](#)
- [その他の文書](#)
- [テクニカルサポートのご利用について](#)

概要

Server Administrator は、包括的な 1 対 1 のシステム管理ソリューションを、内蔵されているウェブブラウザベースのグラフィカルユーザーインターフェース(GUI)から、またはオペレーティングシステム経由でのコマンドラインインターフェース(CLI)からの 2 つの方法で提供します。Server Administrator は、システム管理者がネットワーク上のシステムをローカルおよびリモートで管理できるように設計されています。Server Administrator は包括的な 1 対 1 のシステム管理を提供することにより、システム管理者が全ネットワーク管理に集中できるようにします。

 **メモ:** Server Administrator に合わせて、システムはスタンドアロンシステム、別のシャーシにある接続されたネットワークストレージを持つシステム、またはシャーシで 1 つまたは複数のサーバーモジュールで構成されるモジュラーシステムであることができます。

Server Administrator は次の情報を提供します。

- 1 正常に動作しているシステムと問題があるシステム
- 1 リモート回復操作が必要なシステム


 **メモ:** リモート回復するには、Dell Remote Access Controller カードがインストールされていなければなりません。


統合機能

Server Administrator は包括的な統合管理サービスを提供することによって、使いやすいローカルおよびリモート管理を実現します。Server Administrator は管理されているシステムに常駐し、Server Administrator ホームページからローカルおよびリモートにアクセスできます。リモートモニタシステムには、ダイヤルイン、LAN、またはワイヤレス接続を使ってアクセスできます。Server Administrator では、ロールベースアクセス制御(RBAC)、認証、および業界標準 SSL 暗号化を使って安全な管理接続を実現します。

インストール

いくつかの方法を使用して、Server Administrator をインストールできます。『Dell™ PowerEdge™ Installation and Server Management CD』には、Server Administrator やその他のシステム管理ソフトウェアコンポーネントを管理システムにインストール、アップグレード、アンインストールするためのセットアッププログラムが収録されています。『Dell System Management Console CD』には、Management Station Software コンポーネントを管理ステーションにインストール、アップグレード、アンインストールするためのセットアッププログラムが収録されています。また、ネットワークを介して Server Administrator を複数のシステムに無人インストールすることもできます。

 **メモ:** モジュラーシステムがある場合、シャーシでインストールされている各サーバーモジュールに Server Administrator をインストールする必要があります。

 **メモ:** 無人インストール / アンインストールの詳細については、『Dell OpenManage™ インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

個々のシステムコンポーネントをアップデートするには、コンポーネント専用の Dell アップデートパッケージを使用してください。『Dell Server Update Utility Application CD』を使用すると、完全なバージョンレポートを表示して、システム全体をアップデートすることができます。Server Update Utility は、アップデートを見つけてサーバーに適用する CD-ROM ベースのアプリケーションです。このユーティリティは support.dell.com からダウンロードできます。

『Server Update Utility ユーザーズガイド』では、Dell PowerEdge サーバーをアップデートしたり、リポジトリに一覧になっているサーバーに適用可能なアップデートを表示できるサーバーアップデートユーティリティ(SUU)の入手方法と使用方法に関する情報を参照してください。


Server Administrator ホームページ

Server Administrator ホームページは、管理下システムから、または LAN、ダイヤルアップサービス、またはワイヤレスネットワークを使用したリモートホストから、セットアップと使用が簡単なウェブブラウザベースのシステム管理タスクを提供します。Server Administrator のセキュリティ保護されたポートサーバーを Managed System にインストールおよび設定すると、ウェブブラウザおよび接続対応の任意のシステムからリモート管理機能を実行できます。さらに Server Administrator ホームページは、状況に応じた完全オンラインヘルプを提供します。

Instrumentation Service

Instrumentation Service は、業界標準システム管理エージェントによって収集された故障と性能についての詳細情報への迅速なアクセスを提供して、シャットダウン、起動、およびセキュリティなどモニタシステムのリモート管理を実現します。

Remote Access Service

 **メモ:** Remote Access Service はモジュラーシステムでは使用できません。モジュラシステムの Dell Embedded Remote Access / モジュラシャーシコントローラ(ERA/MC)に直接接続する必要があります。詳細については、『Dell Embedded Remote Access/MC ユーザーズガイド』を参照してください。

Remote Access Service は、DRAC ソリューションを備えたシステムに総合的なリモートシステム管理ソリューションを提供します。Remote Access Service は、動作不能のシステムへのリモートアクセスを提供するため、迅速なシステム起動と実行を実現できます。Remote Access Service は、システムがダウンしたときに警告を通知し、システムをリモードで再起動できるようにします。さらに、Remote Access Service はシステムクラッシュの原因をログに記録し、最新のクラッシュ画面を保存します。

Storage Management Service

Storage Management Service は、統合グラフィカル表示でストレージ管理情報を提供します。


Server Administrator の Storage Management Service:

- 1 モニタされるシステムに接続されたローカルおよびリモートのストレージについて、そのステータスを表示できます。
- 1 SCSI、SATA、ATA、および SAS をサポートしています。ファイバチャネルはサポートしていません。
- 1 対応するすべての RAID および RAID 以外のコントローラとエンクロージャについて、コントローラ BIOS ユーティリティを使用せず、単一のグラフィカルインタフェースまたはコマンドラインインタフェースから、コントローラおよびエンクロージャ機能を実行することができます。
- 1 データ冗長性の設定、ホットスワップ割り当て、または障害発生ドライブの再構成を行うことでデータをプロテクトします。
- 1 ストレージ設定機能を提供します。


対応 Windows オペレーティングシステムでは、簡易セットアップを使用して Storage Management をインストールします。

Red Hat Enterprise Linux および SUSE® LINUX Enterprise Server システムでは、Package Manager(RPM)を通じてインストールするか、あるいは選択されるオプションに基づき適切な RPM をインストールするメニュー誘導型スクリプト、`srvadmin-install.sh` スクリプトを使用することができます。


Storage Management の詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」および『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。オンラインヘルプの起動方法については、「[オンラインヘルプの表示](#)」を参照してください。

 **メモ:** Storage Management のインストールを行うことにより、システムに存在する Array Manager Managed System(サーバーソフトウェア)およびコンソール(クライアントソフトウェア)の古いインストールが置換されます。Array Manager コンソールのみがシステムにインストールされている場合、Storage Management をインストールしても Array Manager コンソールは置換されません。

 **注意:** 現在、Dell OpenManage Array Manager はサポートされていません。(Dell OpenManage バージョン 4.3 以降がインストールされている)Array Manager インストール済みのシステムをアップグレードする場合、Array Manager はアップグレードプロセス中に削除されます。代わりに Storage Management を使用できます。

 **メモ:** Dell OpenManage Array Manager コンソール(Management Station 用)は、(Array Manager コンソールインストール済みの)古い Dell OpenManage Management Station Software が検知される場合のみ、Windows において使用可能です。これはアップグレード用にも使用可能です。

Diagnostic Service

 **メモ:** Diagnostic Service はモジュラーシステムでは使用できません。

Diagnostic Service は、システム上でローカルに、またはネットワークに接続しているシステム上でリモートに実行される診断プログラムのセットです。Diagnostic Service は、個別のシステムの問題を診断し、テスト中のシステムで実行されているその他のすべてのアプリケーションで同時に実行されるように設計されています。

ログ

Server Administrator には、システム、モニタハードウェアイベント、POST イベントおよびシステム警告などに発行されたコマンドのログが表示されます。ログはホームページで表示したり、レポートとして印刷または保存したり、指定のサービス担当者に電子メール送信できます。

その他の文書

このユーザーズガイドのほか、以下のガイドをデルサポートウェブサイト(www.dell.com)または『Documentation CD』からご利用いただけます。

- 1 『Dell OpenManage™ インストールとセキュリティ ユーザーズガイド』では、インストール方法に関する包括的な情報と、サポートしている各オペレーティングシステム別に Server Administrator のインストール、アップグレード、およびアンインストールの詳しい手順を説明しています。
- 1 『Dell OpenManage ソフトウェアイックインストールガイド』では、管理ステーション(コンソール)および管理下システムにインストールできるアプリケーションの概要と、対応オペレーティングシステムを実行しているコンソールおよび Managed System アプリケーションのインストール手順について説明しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator 互換性ガイド』では、対応の Microsoft Windows、Red Hat® Enterprise Linux、SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムを実行している各種ハードウェアプラットフォーム(またはシステム)での Server Administrator のインストールと操作に関する互換性情報を提供しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator SNMP リファレンスガイド』は、管理ネットワーク管理プロトコル(SNMP)管理情報ベース(MIB)について文書化したものです。SNMP MIB はシステム管理エージェントの機能を行うよう標準 MIB を拡張する変数を定義します。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator CIM リファレンスガイド』は、標準管理オブジェクト形式(MOF)ファイルの拡張機能である Common Information Model(CIM)プロバイダについて文書化したものです。CIM プロバイダ MOF は、管理オブジェクトの対応クラスについて説明しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator メッセージリファレンスガイド』は、Server Administrator ホームページの警告ログまたはオペレーティングシステムのイベントビューアに表示されるメッセージ一覧を掲載しています。このガイドは Server Administrator が発行する各警告メッセージのテキスト、重大度、および原因について説明しています。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』では、システム状態を表示し、レポートを作成し、さまざまなコンポーネントパラメータを設定して重要なしきい値を設定する、CLI コマンドなどの Server Administrator の完全コマンドラインインタフェースについて文書化しています。

- 1 『Dell OpenManage ベースボード管理コントローラユーティリティユーザーズガイド』は Server Administrator を使ったシステムの BMC 設定および管理についての追加情報を提供します。
- 1 『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』は、システムに接続しているローカルおよびリモートのストレージを設定、管理するための包括的なリファレンスガイドです。この文書は『Dell インストールとサーバー管理 CD』からは HTML 形式と PDF 形式で、Storage Management コンソールからはオンラインヘルプとして利用できます。
- 1 『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』では、DRAC III、DRAC III/XT および ERA/O コントローラのインストールと設定方法、ERA コントローラの設定方法、および RAC を使用した作動不能のシステムへのアクセス方法について完全情報を提供します。
- 1 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』では、racadm コマンドラインユーティリティの使い方を提供します。
- 1 『Dell Remote Access Controller 4 ユーザーズガイド』では、DRAC 4 コントローラのインストールと設定方法、および DRAC 4 を使用した作動不能システムへのアクセス方法に関する完全情報を提供します。
- 1 『Dell Remote Access Controller 5 ユーザーズガイド』では、DRAC 5 コントローラのインストールと設定方法、および DRAC 5 を使用した作動不能システムへのアクセス方法に関する完全情報を提供します。
- 1 『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』では、モジュール式システムとその共有リソースをネットワークを介してリモートから管理、モニタするための ERA/MC の設定と使用法を説明しています。
- 1 Dell PowerEdge 1900 システム — 『システム設定ガイド』では、PowerEdge 1900 システムの設定概要を提供しています。
- 1 Dell PowerEdge 1950 システム — 『システム設定ガイド』では、PowerEdge 1950 システムの設定概要を提供しています。
- 1 Dell PowerEdge 1955 システム — 『システム設定ガイド』では、PowerEdge 1955 システムの設定概要を提供しています。
- 1 Dell PowerEdge 2900 システム — 『システム設定ガイド』では、PowerEdge 2900 システムの設定概要を提供しています。
- 1 Dell PowerEdge 2950 システム — 『システム設定ガイド』では、PowerEdge 2950 システムの設定概要を提供しています。
- 1 『Dell OpenManage リモートインストールユーザーズガイド』では、イメージベースのテクノロジーを活用し、ネットワークを介した無人の同時配備と設定のソリューションに関する情報を提供しています。
- 1 『Dell アップデートパッケージユーザーズガイド』では、システムアップデートの対策として、Dell アップデートパッケージの入手方法と使用方法に関する情報を掲載しています。
- 1 『サーバーアップデートユーティリティユーザーズガイド』では、Dell PowerEdge サーバーをアップデートしたり、リポジトリに一覧になっているサーバーに適用可能なアップデートを表示できるサーバーアップデートユーティリティ(SUU)の入手方法と使用方法に関する情報を掲載しています。

『Dell Installation and Server Management CD』には、Server Administrator の readme ファイルのほか、CD に収録されているほとんどのアプリケーションの readme ファイルが含まれています。

テクニカルサポートのご利用について

このガイドに記載された手順がよくわからない場合や、お使いの製品が予想通りに実行されない場合は、ヘルプツールを使用してください。ヘルプツールの詳細については、システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』の「困ったときは」を参照してください。

さらに、Dell エンタープライズのトレーニングと検定もご利用いただけます。詳細については、www.dell.com/training を参照してください。このサービスが提供されていない地域もあります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Server Administrator ログ

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [統合機能](#)
- [Server Administrator ログ](#)

概要

Server Administrator を使用すると、ハードウェア、警告、POST、コマンドなどのログを表示して管理できます。すべてのユーザーが Server Administrator ホームページまたはコマンドラインインタフェースからログにアクセスして、レポートを印刷できます。ログをクリアするには管理者権限でログインし、ログを指定のサービス連絡先に電子メールで送信するには管理者権限かパワーユーザー特権でログインする必要があります。

ログ表示やコマンドラインからのレポートの作成方法についての情報は、『Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。

Server Administrator ログを表示する場合、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについての詳細を表示できます。Server Administrator ログヘルプは、ユーザー特権レベルと、Server Administrator が Managed System 上に検出する特定のハードウェアおよびソフトウェア群に応じてアクセスできるすべてのウィンドウでご利用いただけます。

統合機能

列見出しをクリックすると、列ごとに並べ替えられるか、列の並べ替えの方向が変わります。さらに、各ログ ウィンドウには、システム管理とサポートに使用できるいくつかのタスクボタンがあります。

ログウィンドウタスクボタン

- 1 ログのコピーをデフォルトのプリンタに印刷するには、**印刷** をクリックします。
- 1 (各データフィールドをカスタマイズ可能な区切り文字で区切った値を持つ) ログデータが含まれたテキストファイルを指定の場所に保存するには、**エクスポート** をクリックします。
- 1 ログのコンテンツを添付を含む電子メールメッセージを作成するには、**電子メール** をクリックします。
- 1 ログからすべてのイベントを消去するには、**ログのクリア** をクリックします。
- 1 ログのコンテンツを .zip ファイルに保存するには、**名前を付けて保存** をクリックします。
- 1 アクションウィンドウデータ領域にログのコンテンツを再度ロードするには、**更新** をクリックします。

タスクボタンの使用方法についての詳細は、「[タスクボタン](#)」を参照してください。

Server Administrator ログ

Server Administrator では次のログを提供しています。

- 1 [ハードウェアログ](#)
- 1 [警告ログ](#)
- 1 [POST ログ](#)
- 1 [コマンドログ](#)

ハードウェアログ

ハードウェアコンポーネントに問題があると考えられる場合、ハードウェアログを使用します。Dell™ PowerEdge™ x8xx および x9xx システムでは、ログファイルの容量が 100% に達するとハードウェアログ状態インジケータが赤の X (❌) に変わります。システムによって 2 つのハードウェアログが使用できます。組み込みシステム管理 (ESM) ログとシステムイベントログ (SEL) です。ESM ログと SEL はそれぞれ、システム管理ソフトウェアにハードウェア 状態 メッセージを送ることができる一組の組み込み命令です。ログに一覧表示された各コンポーネントには、名前の横にステータスインジケータアイコンがあります。緑のチェックマーク (✔) は、コンポーネントが健康 (正常) であることを示します。感嘆符が入った黄色の三角形 (⚠) は、コンポーネントは危険 (重要ではない) 状態で、速やかな対応が必要なことを示します。赤い X マーク (❌) は、コンポーネントが危険 (故障) 状態にあり、早急に対応が必要なことを示します。ブランクスペース () は、コンポーネントの正常性が不明であることを示します。

ハードウェアログにアクセスするには、**システム** をクリックし、**ログ** タブをクリックしてから、**ハードウェア** をクリックします。


ESM および SEL ログ には次のような情報が含まれます。

- 1 イベントの重大度
- 1 イベントがキャプチャされた日時
- 1 イベントの説明

ハードウェアログの維持

ログが 80% の容量に達すると、ログ名の隣のステータスインジケータアイコンが緑のチェックマーク(✔)から、感嘆符の入った黄色い三角形(⚠)に変化します。容量が 80 % に達したら、ハードウェアログを必ずクリアしてください。ログの容量が 100 % に達してしまうと、最新のイベントはログから破棄されます。

警告ログ


 **メモ:** 警告ログで無効な XML データ(たとえば選択されたデータ用に生成された XML データの形式が正しくない場合)が表示された場合、**ログのクリア**をクリックするとログ情報が再度表示されます。

警告ログを使用すると、さまざまなシステムイベントをモニタできます。Server Administrator では、センサーやその他のモニタパラメータの状態変化に応じてイベントが生成されます。警告ログに記録される各状態変更イベントは、特定のイベントソースカテゴリのイベント ID と呼ばれる固有の ID と、そのイベントについて説明したイベントメッセージから構成されています。イベント ID とメッセージは、個々のイベントの重大度と原因を説明し、イベントの場所やモニタコンポーネントの以前の状態などの関連情報を提供します。

警告ログにアクセスするには、**システム**をクリックし、**ログ**タブをクリックしてから、**警告**をクリックします。

警告ログには次のような情報が含まれます。


- 1 イベントの重大度
- 1 イベント ID
- 1 イベントがキャプチャされた日時
- 1 イベントのカテゴリ
- 1 イベントの説明

 **メモ:** ログ履歴は、今後のトラブルシューティングや診断目的で必要になることがあります。したがって、ログファイルを保存することをお勧めします。

警告メッセージの詳細については、『Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。

POST ログ

POST ログを使用すると、起動中にシステムが実行する POST のイベントを表示して分析できます。システムの電源を入れると、オペレーティングシステムがロードされる前に、POST は RAM、ハードドライブ、キーボードなど、さまざまなシステムコンポーネントをテストします。


 **メモ:** POST ログはすべてのシステムに対応していません。

POST ログにアクセスするには、**システム**をクリックし、**ログ**タブをクリックしてから、**POST**をクリックします。

POST ログには次のような情報が含まれます。

- 1 POST コード
- 1 コードの説明

コマンドログ


 **メモ:** コマンドログで無効な XML データが表示された場合(たとえば選択項目に生成された XML データの形式が正しくない)、**ログのクリア**をクリックするとログ情報が再表示されます。

Server Administrator ユーザーが発行したすべてのコマンドをモニタするには、コマンドログを使用します。コマンドログは、ログイン、ログアウト、システム管理ソフトウェアの初期化、システム管理ソフトウェアが始動したシャットダウンなどを追跡し、最後にログがクリアされた日時を記録します。

コマンドログにアクセスするには、**システム**をクリックし、**ログ**タブをクリックしてから、**コマンド**をクリックします。

コマンドログには次のような情報が含まれます。

- 1 コマンドが起動された日時
- 1 Server Administrator ホームページまたは CLI に現在ログインしているユーザー
- 1 コマンドと関連値の説明

 **メモ:** ログ履歴は、今後のトラブルシューティングや診断目的で必要になることがあります。したがって、ログファイルを保存することをお勧めします。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ベースボード管理コントローラ(BMC)の操作

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [基本の BMC 情報の表示](#)
- [BMC ユーザーの設定](#)
- [BMC プラットフォームのイベントフィルター警告の設定](#)
- [シリアルオーバー LAN\(SOL\)接続を使用した BMC の設定](#)
- [シリアルポート接続を使用した BMC の設定](#)
- [LAN 接続を使用した BMC の設定](#)

概要

Dell™ PowerEdge™ システムベースボード管理コントローラ(BMC)は、システムボード上のさまざまなセンサーと通信することによって重要なイベントをモニタし、一定のパラメータがプリセットしきい値を超えると警告とログイベントを送信します。BMC は業界標準のインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース(IPMI)仕様に対応しており、システムをリモートで設定、モニタ、回復できるようにします。

Server Administrator では、イベントログ、電源制御、センサー状況情報へのリモートの帯域内アクセスが可能で、BMC を設定する機能も提供します。BMC は、**メインシステムシャーシ**グループのサブコンポーネントである **リモートアクセス** オブジェクトをクリックすることにより、Server Administrator グラフィカルユーザーインタフェースから管理することができます。次の BMC 関連タスクを実行できます。

- 1 基本の BMC 情報の表示
- 1 BMC ユーザーの設定
- 1 BMC プラットフォームのイベントフィルター警告の設定
- 1 シリアルオーバー LAN 接続での BMC の設定
- 1 シリアルポート接続での BMC の設定
- 1 仮想 LAN 接続での BMC の設定

ただし、Dell PowerEdge x8xx および x9xx システムでは、BMC と RAC が結合し、Remote Access(**システム**→**メインシステムシャーシ**→**リモートアクセス**)として知られる 1 つのオブジェクトになっています。システムでリモートアクセス機能を提供しているハードウェアに基づいて、BMC または RAC の情報を表示できます。


BMC と DRAC のレポートおよび設定は、リモートアクセスの CLI コマンドを使って管理することもできます。例えば、

```
omconfig chassis remoteaccess を
```

```
omreport chassis bmc (次のリリースで廃止予定)の代わりに使用できます。
```

```
omreport chassis rac(次のリリースで廃止予定)
```


さらに Server Administrator Instrumentation Service を使用して、プラットフォームのイベントフィルター(PEF)パラメータと警告の宛先を管理できます。

 **メモ:** BMC データは、Dell PowerEdge x8xx および x9xx システムのみで表示できます。その他のシステムでは BMC のインストールとアンインストールのみしか実行できません。Dell PowerEdge x6xx および x7xx システム上で BMC または ESM を使って使用できるセンサーデータは限定されます。

BMC についての詳細は、『Dell OpenManage ベースボード管理コントローラユーティリティユーザーズガイド』を参照してください。

基本の BMC 情報の表示

BMC に関する基本的な情報を表示したり、BMC 設定をデフォルト値にリセットすることもできます。

 **メモ:** BMC 設定をリセットするには、「システム管理者」特権でログインする必要があります。

1. **システム** オブジェクトをクリックします。
2. **メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックします。
3. **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。

リモートアクセス ページには、システムの BMC に関する次の基本情報が表示されます。

- 1 BMC 名
- 1 IPMI バージョン
- 1 システムガイド


- 1 アクティブ可能なセッション数
- 1 現在アクティブなセッション数
- 1 IPMI オーバー LAN を有効にする
- 1 SOL 有効
- 1 IP アドレスソース
- 1 IP アドレス
- 1 IP サブネット
- 1 IP ゲートウェイ
- 1 MAC アドレス

BMC ユーザーの設定

BMC ユーザーは **リモートアクセス** ページを使って設定できます。このページは次のパスを参照してアクセスできます。

1. **システム** オブジェクトをクリックします。
2. **メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックします。
3. **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
4. **ユーザー** タブをクリックします。


リモートアクセスユーザー ウィンドウには、BMC ユーザーとして設定できるユーザーについての情報が表示されます。

 **メモ:** BMC ユーザーは、Server Administrator またはオペレーティングシステムから割り当てられたり作成されたユーザーとは無関係に作成されます。

5. **ユーザー ID** をクリックすると、新規または既存の BMC ユーザーを設定できます。

リモートアクセスユーザー設定 ウィンドウでは、特定の BMC ユーザーを設定できます。

6. 次の一般情報を指定します。
 - 1 **ユーザーを有効にする** を選択すると、ユーザーが有効になります。
 - 1 **ユーザー名** フィールドにユーザーの名前を入力します。
 - 1 **パスワードの変更** チェックボックスを選択します。
 - 1 **新しいパスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。
 - 1 **パスワードの確認** フィールドに新しいパスワードを再入力します。
7. 次のユーザー特権を指定します。
 - 1 最大 LAN ユーザー特権レベル制限を選択します。
 - 1 許可する最大シリアルポートユーザー特権を選択します。
 - 1 Dell PowerEdge x9xx システムでは、[シリアルオーバー LAN を有効にする] を選択してシリアルオーバー LAN を有効化します。
8. **変更の適用** をクリックして変更を保存します。
9. **リモートアクセスユーザーウィンドウに戻る** をクリックすると、**リモートアクセスユーザー** ウィンドウに戻ります。

 **メモ:** RAC がインストールされている場合、6 つの追加ユーザーエントリが設定可能です。これによりユーザー合計数は 16 になります。BMC および RAC ユーザーに対しても同じユーザー名およびパスワードの規定が適用されます。DRAC 5 がインストールされると、すべての 16 ユーザーエントリは RAC に割り当てられます。

BMC プラットフォームのイベントフィルター警告の設定


Server Administrator Instrumentation Service を使用して、プラットフォームのイベントフィルタ(PEF)パラメータや警告の宛先など最も適切な BMC 機能を設定できます。

1. **システム** オブジェクトをクリックします。
2. **警告管理** タブをクリックします。
3. **プラットフォームイベント** をクリックします。

プラットフォームイベント ウィンドウでは、特定のプラットフォームイベントに個別の処置をとることができます。シャットダウン処置を行うイベントを選択して、選択し処置の警告を生成することができます。また、選択した IP アドレスの宛先に警告を送信することもできます。

次のプラットフォームイベントを設定できます。

- 1 ファンブロープエラー
- 1 電圧ブロープエラー
- 1 離散的電圧ブロープエラー
- 1 温度ブロープ警告
- 1 温度ブロープエラー
- 1 シャーシインテリジェクションが検出されました
- 1 冗長性低下
- 1 冗長性喪失
- 1 プロセッサがありません
- 1 プロセッサ警告
- 1 プロセッサエラー
- 1 PS/VRM/DCtoDC 警告
- 1 PS/VRM/DCtoDC エラー
- 1 ハードウェアログエラー
- 1 自動システム回復
- 1 バッテリーブロープ警告
- 1 バッテリーブロープエラー
- 1 電源装置がありません


 **メモ:** **プラットフォームのイベントフィルター警告を有効にする** 設定では、プラットフォームのイベントフィルタ警告の生成を有効または無効にできます。個々のプラットフォームイベント警告設定とは関係なく設定できます。

4. シャットダウン処置を実行するか選択した処置の警告を生成するプラットフォームイベントを選択し、**プラットフォームイベントの設定** をクリックします。


プラットフォームイベントの設定 ウィンドウでは、システムがプラットフォームイベントに反応してシャットダウンした場合の処置を指定できます。

5. 次の処置の 1 つを選択します。

- 1 なし
オペレーティングシステムがハングまたはクラッシュしたときにも処置を行いません。
- 1 システムを再起動する
オペレーティングシステムをシャットダウンし、システムを起動して、BIOS のチェックを実行した後、オペレーティングシステムを再ロードします。
- 1 システムの電源を入れなおす
システムの電源を切り、一時停止後に電源を入れてシステムを再起動します。パワーサイクルは、ハードドライブなどのシステムコンポーネントを再初期化したいときなどに便利です。
- 1 システムの電源を切る
システムの電源を切ります。

 **注意:** プラットフォームイベントのシャットダウン処置を なし 以外に選択した場合、システムは指定のイベントが発生すると強制的にシャットダウンされます。このシャットダウンはファームウェアから始動され、オペレーティングシステムやその他実行中のアプリケーションを最初にシャットダウンせずに実行されます。

6. 送信する警告の **警告の生成** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** 警告を生成するには、**警告の生成** と **プラットフォームイベント警告を有効にする** 設定の両方を選択する必要があります。

7. **変更の適用** をクリックします。

8. **プラットフォームイベントページに戻る** をクリックすると、**プラットフォームのイベントフィルタ** ウィンドウに戻ります。


プラットフォームイベント警告送信先の設定

プラットフォームのイベントフィルタ ウィンドウでは、プラットフォームイベントの警告を送信する宛先を選択することもできます。表示されている宛先の数によっては、各宛先アドレスの IP アドレスを個別に設定することもできます。設定した各宛先 IP アドレスにプラットフォームイベント警告が送信されます。

1. **プラットフォームのイベントフィルター** ウィンドウで、**宛先の設定** をクリックします。

宛先の設定 ウィンドウに宛先の数が表示されます。

2. 設定する宛先の番号をクリックします。

 **メモ:** 特定のシステムで設定できる宛先の数はシステムによって異なります。

3. **送信先を有効にする** チェックボックスを選択します。
4. **宛先番号** をクリックして、その宛先の個々の IP アドレスを入力します。この IP アドレスは、プラットフォームイベント警告が送信される IP アドレスです。
5. **コミュニティ文字列** フィールドに、管理ステーションと管理システムの間で送信されるメッセージの認証にシステムパスワードとして使う値を入力します。コミュニティ文字列(別名コミュニティ名)が管理ステーションと管理システム間の各バケットに送信されます。
6. **変更の適用** をクリックします。
7. **プラットフォームイベントページに戻る** をクリックすると、**プラットフォームのイベントフィルタ** ウィンドウに戻ります。

シリアルオーバー LAN (SOL) 接続を使用した BMC の設定

シリアルオーバー LAN 接続を介して通信用に BMC を設定できます。

1. **システム** オブジェクトをクリックします。
2. **メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックします。
3. **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
4. **設定** タブをクリックします。
5. **シリアルオーバー LAN** をクリックします。
シリアルオーバー LAN 設定 ウィンドウが表示されます。
6. 次の詳細を設定します。
 - 1 シリアルオーバー LAN を有効にする
 - 1 ボーレート
 - 1 必要とされる最小特権
7. **変更の適用** をクリックします。
8. **詳細設定** をクリックすると、BMC をさらに細かく設定できます。
9. **シリアルオーバー LAN 詳細設定ウィンドウ** では、次の情報の設定が可能です。
 - 1 文字累積間隔
 - 1 文字送信しきい値
10. **変更の適用** をクリックします。
11. **シリアルオーバー LAN 設定に戻る** をクリックすると、**シリアルオーバー LAN 設定** ウィンドウに戻ります。

シリアルポート接続を使用した BMC の設定

シリアルポート接続を介して通信用に BMC を設定できます。

1. **システム** オブジェクトをクリックします。
2. **メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックします。
3. **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
4. **設定** タブをクリックします。

5. **シリアルポート** をクリックします。
6. **シリアルポート設定** ウィンドウでは、次の詳細を指定します。
 - 1 接続モード設定
 - 1 ボーレート
 - 1 フロー制御
 - 1 チャネル特権レベルの制限

7. **変更の適用** をクリックします。

8. **ターミナルモード設定** をクリックします。

ターミナルモード設定 ウィンドウでは、シリアルポートのターミナルモード設定を指定できます。

ターミナルモードは、Intelligent Platform Interface Management (IPMI) のメッセージをシリアルポートから ASCII 文字で出力するために使用します。ターミナルモードは限定数のテキストコマンドにも対応して、テキストベースのレガシー環境をサポートしています。この環境は、単純なターミナルやターミナルエミュレータを使用できるように設計されています。

9. 既存のターミナルとの互換性を強化するには、次のカスタマイズを指定します。

- 1 ライン編集
- 1 削除制御
- 1 エコー制御
- 1 ハンドシェイク制御
- 1 新しいラインシーケンス
- 1 新しいラインシーケンスの入力

10. **変更の適用** をクリックします。


11. **シリアルポート設定ウィンドウに戻る** をクリックすると、**シリアルポート設定** ウィンドウに戻ります。

LAN 接続を使用した BMC の設定

LAN 接続を介して通信用に BMC を設定できます。

1. **システム** オブジェクトをクリックします。
2. **メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックします。
3. **リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
4. **設定** タブをクリックします。
5. **LAN** をクリックします。

LAN 設定ページが表示されます。

 **メモ:** マザーボード上の LAN がネットワークアダプタのアドインカードとチーム構成されている場合、BMC 管理トラフィックは正しく機能しません。

6. 次の NIC 設定詳細を指定します。

- 1 NIC を有効にする(このオプションは DRAC がインストールされている Dell PowerEdge x9xx システムで使用可能です。NIC のチーム構成にこのオプションを選択します。Dell PowerEdge x9xx システムでは、追加冗長性用に NIC をチーム構成できます。)
- 1 NIC の選択
- 1 MAC アドレス
- 1 IPMI オーバー LAN を有効にする
- 1 IP アドレスソース
- 1 IP アドレス
- 1 サブネットマスク
- 1 ゲートウェイアドレス
- 1 チャネル特権レベルの制限

- 1 暗号化キー(このオプションは Dell PowerEdge x9xx システムで使用可能です。)
 7. 次のオプション VLAN 設定詳細を指定します。
 - 1 VLAN ID を有効にする
 - 1 VLAN ID
 - 1 優先順位
 8. **変更の適用** をクリックします。
-

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Remote Access Service

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [ハードウェア必要条件](#)
- [ソフトウェア必要条件](#)
- [DRAC ユーザーの追加と設定](#)
- [既存の DRAC ユーザーの設定](#)
- [DRAC ネットワークプロパティの設定](#)
- [DRAC 警告プロパティの設定](#)
- [DRAC III ダイアルイン PPP ユーザーとモデムの設定](#)
- [DRAC リモート機能プロパティの設定](#)
- [DRAC セキュリティの設定](#)
- [Dell Remote Access Controller へのアクセスと使用](#)

概要

Server Administrator Remote Access Service は、Dell™ Remote Access Card (DRAC) III、DRAC III/XT、Embedded Remote Access (ERA) コントローラ、または ERA オプション (ERA/O) カードを搭載した SNMP および CIM 装備のシステムに完全リモートシステム管理ソリューションを提供します。これらのハードウェアとソフトウェアをまとめて Dell Remote Access Controller (DRAC) と呼んでいます。また、DRAC 4 および DRAC 5 の Remote Access Service により、Dell OpenManage Server Administrator からの基本的な管理タスクの実行が可能です。インストールされている DRAC カードによって、Server Administrator グラフィカルユーザーインターフェイスから DRAC 4 または DRAC 5 へ接続できます。

DRAC 4 および DRAC 5 はシステム管理ハードウェアとソフトウェアのソリューションで、リモート管理、システムクラッシュの回復、Dell PowerEdge™ システムの電源制御などの機能を提供します。

システムのベースボード管理コントローラ (BMC) との通信によって、電圧、温度、およびファン速度に関連した警告やエラーを電子メールアラートとして送信されるように DRAC 4 および DRAC 5 を設定できます。DRAC 4 および DRAC 5 は、システムクラッシュの原因の診断を助けるために、イベントデータのログと最近のクラッシュ画面 (Microsoft® Windows® オペレーティングシステムを実行するシステムのみ) を記録します。

DRAC 4 ハードウェアはシステムカード (DRAC 4/I) またはショート PCI カード (DRAC 4/P) を使用します。どちらを使用するかはシステムによって異なります。DRAC 4/I と DRAC 4/P はハードウェアの違いを除いては同一です。

DRAC 5 ハードウェアは、内蔵のシステムカードです。

DRAC 4 および DRAC 5 は、それぞれ独自のマイクロプロセッサとメモリを搭載し、インストールされているシステムによって作動します。DRAC 4 および DRAC 5 は、システムにプレインストールされている場合と、キットとして別途提供される場合があります。

- 📌 **メモ:** この項に記載される情報は以前の DRAC 生成に関する内容です。DRAC 4 の使用方法についての詳細については『Dell Remote Access Controller 4 ユーザーズガイド』を、DRAC 5 の使用方法についての詳細については『Dell Remote Access Controller 5 ユーザーズガイド』を参照してください。

Remote Access Service は、動作不能システムへのリモートアクセスを提供するため、迅速なシステム起動と実行を実現できます。Remote Access Service は、システムがダウンしたときに警告を通知するので、システムをリモートで再起動できます。また、Remote Access Service はシステムクラッシュの原因をログに記録し、最近のクラッシュ画面を保存します。

Remote Access Service へは Server Administrator ホームページからログインできるほか、対応ブラウザを使ってコントローラの IP アドレスに直接アクセスすることもできます。

コマンドラインから Remote Access Service を実行する方法については、『Server Administrator コマンドラインインターフェイスユーザーズガイド』と『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』を参照してください。

Remote Access Service を使用する場合、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについて詳しい説明が表示されます。Remote Access Service のヘルプは、ユーザーの特権レベルと、Server Administrator が管理システムで検出する特定のハードウェアとソフトウェアのグループに基づいて、アクセス可能なすべてのウィンドウで使用できます。

- 📌 **注意:** DRAC 5 カードがファームウェアのアップデートをリセット中または実行中の場合、リモートまたはローカルで Server Administrator を使ってカードのクワイアまたは設定を行わないでください。リセット中、DRAC 5 カードは少しの間オフラインになります。リセット中 DRAC 5 カードにアクセスするとグラフィカルユーザーインターフェイスまたは CLI に表示されるデータに不具合が生じることがあります。

- 📌 **メモ:** Remote Access Service はモジュラシステムでは使用できません。モジュラシステム上の DRAC に直接接続します。詳細については、『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

- 📌 **メモ:** DRAC III、DRAC III/XT、ERA、または ERA/O コントローラのインストールと設定方法、および DRAC を使用した動作不能システムへのリモートアクセス方法についての完全情報は、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』を参照してください。ネットワークを介してリモートからモジュラシステムとその共有リソースの管理しモニターするための ERA/MC コントローラの設定と使い方についての完全情報は、『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

ハードウェア必要条件


Remote Access Service を使用するには、管理システムに DRAC がインストールされている必要があります。

DRAC の特定のハードウェア要件については、『システム管理 CD』の Remote Access Controller 用 Readme ファイルと、マニュアル CD の『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』または『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』のリストを参照してください。


- 📌 **メモ:** DRAC ソフトウェアは、管理システムが DRAC のインストール要件をすべて満たしている場合に、『Dell Installation and Server Management CD』からシステム管理ソフトウェアをインストールするときに、**簡易セットアップ** と **カスタムセットアップ** のインストールオプションの一部としてインストールされます。ソフトウェアとハードウェアの要件については、該当する DRAC マニュアルを参照してください。

ソフトウェア必要条件


管理システムに DRAC ソフトウェアがインストールされている必要があります。ソフトウェアとハードウェア完全要件については、『Dell Remote Access Controller Installation and Setup ガイド』または『Dell Embedded Remote Access/MC Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** DRAC ソフトウェアは、管理システムが DRAC のインストール要件をすべて満たしている場合に、『Dell Installation and Server Management CD』からシステム管理ソフトウェアをインストールするときに、**簡易セットアップ** と **カスタムセットアップ** のインストールオプションの一部としてインストールされます。ソフトウェアとハードウェアの要件については、該当する DRAC マニュアルを参照してください。

DRAC ユーザーの追加と設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

DRAC では最大 16 人までのユーザー情報を保存できます。Remote Access Service は、ユーザーに、リモート接続確立前にユーザー名とパスワードを求めることによって、セキュリティを提供します。Remote Access Service では、システム クラッシュ、電源喪失、または定義されたその他のイベント発生をユーザーに通知するページング サービスも提供できます。ページングサービスは DRAC III カードでのみ使用できます。

 **メモ:** 一部の設定機能は、DRAC III、DRAC III/XT、ERA および ERA/O を持つシステムでのみ使用できますが、DRAC 4 を持つシステムでは使用できません。DRAC 4 を設定する場合は、**RAC プロパティ** ウィンドウから **リモート接続インタフェースの起動** オプションを使用します。詳細については、『Dell Remote Access Controller 4 ユーザーズガイド』を参照してください。

DRAC ユーザーを作成するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。

2. **ユーザー** タブをクリックします。

リモートアクセスユーザー ウィンドウが表示されます。

3. **追加** をクリックします。

リモートアクセスユーザーの追加 ウィンドウが表示されます。

4. **ユーザー名** フィールドにユーザー名を入力します。

5. 新しい**パスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。

6. **パスワードの確認** フィールドに新しいパスワードを再入力します。

7. 数値ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。

- 数値ページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
- 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させる数値メッセージを **数値メッセージ** フィールドに入力します。

8. 電子メールページングを設定します。

- 電子メールページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**電子メールアドレス** フィールドに電子メールアドレスを入力します。
- 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させるメッセージを **メッセージ** フィールドに入力します。

9. 英数字ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。

- 英数字ページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
- ページャーのサービスプロバイダで使用される英数字プロトコルを、7EO または 8N1 から選択します。
- ページャーのポーレートを 300 または 1200 から選択します。
- 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させるメッセージを **カスタムメッセージ** フィールドに入力します。
- ページャー ID** フィールドにページャーの PIN を入力してから、必要に応じて **ページャーパスワード** フィールドにページャーのパスワードを入力します。
- ウィンドウ下部の **変更の適用** をクリックします。

10. **重大度設定** で、トラップと、DRAC からトラップがページングアクションをトリガする重大度を指定します。

トラップを使用すると、システムの ESM ハードウェアからの警告条件やオペレーティングシステムのクラッシュや電源の故障などのその他の条件に応答するように DRAC を設定できます。

チェックボックスの最初(左端)の列は、**情報** の重大度レベル、2 番目の列は **警告** の重大度レベル、および 3 番目の列は **危険** の重大度レベルに対応しています。最後の 7 つのイベントは **情報** の重大度レベルだけを報告できます。

11. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして、警告、ページング、およびユーザー設定を Server Administrator データリポジトリに保管します。

ユーザー タブに戻ります。作成および設定したユーザーが **ユーザー名** リストに表示されます。

既存の DRAC ユーザーの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

DRAC ユーザーを設定するには、次の手順を実行します。


1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **ユーザー** タブをクリックします。
リモートアクセスユーザー ウィンドウが表示されます。
3. 設定するユーザーのユーザー名をクリックします。
4. パスワードの変更
 - a. **パスワードの変更** チェックボックスをクリックして、**パスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。
 - b. **パスワードの確認** フィールドに新しいパスワードを再入力します。
5. 数値ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。
 - a. **数値ページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
 - b. 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させる数値メッセージを **数値メッセージ** フィールドに入力します。
6. 電子メールページングを設定します。
 - a. **電子メールページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**電子メールアドレス** フィールドに電子メールアドレスを入力します。
 - b. 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させるメッセージを **メッセージ** フィールドに入力します。
7. 英数字ページングを設定します (DRAC III ユーザーのみ)。
 - a. **英数字ページングを有効にする** チェックボックスをクリックして、**ページャー番号** フィールドにページャー番号を入力します。
 - b. ページャーのサービスプロバイダで使用される英数字プロトコルを、7E0 または 8N1 から選択します。
 - c. ページャーのポーレートを 300 または 1200 から選択します。
 - d. 特定のイベントを受け取ったときに DRAC に送信させるメッセージを **カスタムメッセージ** フィールドに入力します。
 - e. **ページャー ID** フィールドにページャーの PIN を入力してから、必要に応じて **ページャーパスワード** フィールドにページャーのパスワードを入力します。
 - f. ウィンドウ下部の **変更の適用** をクリックします。
8. **重大度設定** で、トラップと、DRAC からトラップがページングアクションをトリガする重大度を指定します。

トラップを使用すると、システムの ESM ハードウェアからの警告条件やオペレーティングシステムのクラッシュや電源の故障などのその他の条件に応答するように DRAC を設定できます。


チェックボックスの最初(左端)の列は、**情報** の重大度レベル、2 番目の列は **警告** の重大度レベル、および 3 番目の列は **危険** の重大度レベルに対応しています。最後の 7 つのイベントは **情報** の重大度レベルだけを報告できます。


9. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして、警告、ページング、およびユーザー設定を Server Administrator データリポジトリに保管します。
ユーザー タブに戻ります。

DRAC ネットワークプロパティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

DRACI には統合 10BASE-T/100BASE-T Ethernet NIC があり、TCP/IP をサポートしています。NIC には、192.168.20.1 のデフォルト アドレスと 192.168.20.1 のデフォルト ゲートウェイがあります。

 **メモ:** DRAC が同一ネットワーク上の別の NIC と同じ IP アドレスに設定されていると、IP アドレスの競合が発生します。DRAC は、IP アドレスが DRAC で変更されるまで、ネットワークコマンドへの応答を中止します。DRAC は、その他の NIC の IP アドレスを変更して IP アドレスの競合が解決されても、リセットする必要があります。

 **メモ:** DRAC の IP アドレスを変更すると、DRAC がリセットされます。SNMP が DRAC が初期化される前に DRAC をポーリングすると、初期化されるまで正しい温度が伝送されないため、温度警告がログ記録されます。

DRAC のネットワークプロパティを設定するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
ネットワークプロパティの設定 ウィンドウが表示されます。

3. **NIC を有効にする** チェックボックスをクリックします(このオプションはデフォルト)。
4. DHCP システムで NIC 情報を割り当てるには、DHCP を使用する(NIC IP アドレス用) チェックボックスをクリックします。NIC 情報を割り当てない場合、このチェックボックスをクリア(選択解除)して DRAC の NIC 情報を **静的 IP アドレス**、**静的サブネットマスク**、**静的ゲートウェイアドレス** の各フィールドに入力します。
5. ダイヤルインネットワークングを有効にします(DRAC III ユーザーのみ)。
 - a. **ダイヤルインを有効にする** チェックボックスをクリックします(このオプションはデフォルトです)。
 - b. DHCP システムでダイヤルイン情報を割り当てるには、DHCP の使用(**ダイヤルイン IP アドレス**) チェックボックスをクリックします。割り当てない場合、このチェックボックスをクリア(選択解除)して、**ベース IP アドレス** フィールドに DRAC III モデムのベース IP アドレスを入力します。
 - c. ダイヤルイン接続に必要な **ダイヤルイン認証** 設定を指定します。
 - o **任意** — 接続で任意の種類の暗号化を使用できます(暗号化なしも含む)。
 - o **暗号化** — 接続で何らかの暗号化を使用するように要求します。
 - o **CHAP** — 接続で CHAP を使用するように要求します。
6. SMTP サーバーのアドレス制御を有効にするには、SMTP を有効にする チェックボックスをクリックして、SMTP(**電子メール アドレス**)フィールドに SMTP サーバーアドレスを入力します。
7. **変更の適用** をクリックしてから OK をクリックして変更を保存します。

DRAC 警告プロパティの設定

システムの ESM からの警告条件や、オペレーティングシステムのクラッシュや電源の故障などのその他の条件に応答するように DRAC を設定できます。

DRAC には次の種類の警告処置があります。

- 1 英数字ページング(DRAC III のみ)(このタイプの警告処置の設定方法については、「[DRAC ユーザーの追加と設定](#)」を参照してください。)
- 1 数値ページング(DRAC III のみ)(このタイプの警告処置の設定方法については、「[DRAC ユーザーの追加と設定](#)」を参照してください。)
- 1 電子メール(このタイプの警告処置の設定方法については、「[DRAC ユーザーの追加と設定](#)」を参照してください。)
- 1 SNMP トラップ(このタイプの警告処置の設定方法については、後続の項を参照してください。)

SNMP 警告プロパティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

Remote Access Service の警告プロパティを設定するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
3. **SNMP** をクリックします。
4. **追加** または **送信先 IP アドレス** をクリックして、既存の SNMP 警告プロパティを編集します。
5. チェックボックスがチェックされていない場合は、**SNMP トラップを有効にする** チェックボックスをクリックします。
6. 保存先の管理ステーションが所属する SNMP コミュニティ名を **コミュニティ** フィールドに入力します。
7. イベント発生時に DRAC が SNMP トラップを送信する Management Station の送信先 IP アドレスを **IP アドレス** フィールドに入力します。
8. **重大度設定** のチェックボックスを使用して、イベントが DRAC から警告処置をトリガするイベントと重大度レベルを指定します。

チェックボックスの最初(左端)の列は、**情報** の重大度レベル、2 番目の列は **警告** の重大度レベル、および 3 番目の列は **危険** の重大度レベルに対応しています。最後の 7 つのイベントは **情報** の重大度レベルだけを報告できます。
9. **変更の適用** をクリックしてから OK をクリックして変更を保存します。


DRAC III ダイヤルイン PPP ユーザーとモデムの設定

ダイヤルイン PPP ユーザーとモデム機能は、現在 DRAC III でのみ使用できます。

DRAC III ダイアルイン(PPP)ユーザーの追加と設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

この項では、ダイアルイン(PPP)ユーザーの追加と設定方法について説明します。ダイアルインユーザーが認証されたら、ユーザーは Remote Access Controller のログイン画面で DRAC ユーザー認証を入力して DRAC III にアクセスする必要があります。

 **メモ:** Server Administrator 管理下システム PPP クライアントは 192.168.234.235 ネットワークを使用して、インストールされている DRAC III と対話します。このネットワーク IP アドレスが別のシステムまたはアプリケーションですでに使用されている可能性があります。このような状況が発生すると、PPP 接続に失敗します。このアドレスがすでに使用されている場合は、管理システム PPP クライアントの IP アドレスを別の数字に変更する必要があります。管理システム PPP サーバー IP アドレスを別のネットワークに設定して競合を避けるには、racadm ユーティリティを使用する必要があります。racadm ユーティリティの使い方の詳細については、『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』を参照してください。

ダイアルインユーザーを追加および設定するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
3. **ダイアルインユーザー** をクリックします。
4. **追加** をクリックします。
5. **ユーザー名** フィールドにユーザー名を入力します。
6. **パスワード** フィールドに新しいパスワードを入力します。
7. **コールバック番号** フィールドにコールバック番号を入力します。


この番号は、**コールバックタイプ** が **プリセット** に設定されている場合、Remote Access Service がダイヤルする番号になります。

8. **コールバックタイプ** ドロップダウンメニューから設定を選択します。
 1. **なし** — ダイヤルすると、Remote Access Service は接続を切断してコールバックしません。接続はアクティブなままです。
 1. **プリセット** — ダイヤルすると、Remote Access Service は接続を解除して **コールバック番号** フィールドで指定された番号をダイヤルします。この設定はコールバック番号コントロールをアクティブにします。
 1. **ユーザー指定** — ダイヤルすると、Remote Access Service がコールバック番号を尋ねます。その後、接続を解除して、ユーザーが指定した番号にダイヤルします。
9. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC III デマンドダイヤルアウトエントリの追加と設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

ダイアルイン PPP の設定を **プリセット** にして DRAC III を呼び出す場合、デマンドダイヤルアウトエントリによって Remote Access Service は切断され、プリセット番号で管理ステーションを呼び戻します。コールバック時は、DRAC ユーザー認証を使用して Remote Access Service にアクセスする必要があります。

 **メモ:** DRAC Managed System Software は PPP 接続を使って、インストールされている DRAC と対話します。この PPP 接続の IP アドレスは 192.168.234.235 です。このネットワーク IP アドレスが別のシステムまたはアプリケーションですでに使用されている可能性があります。このような状況が発生すると、PPP 接続に失敗します。このアドレスがすでに使用されている場合は、管理システム PPP クライアントの IP アドレスを別の数字に変更する必要があります。管理システム PPP サーバー IP アドレスを別のネットワークに設定して競合を避けるには、racadm ユーティリティを使用する必要があります。racadm ユーティリティの使い方の詳細については、『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』を参照してください。

デマンドダイヤルアウトエントリを追加するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
3. **デマンドダイヤルアウト** を選択します。
4. **追加** をクリックします。
5. このユーザーがダイヤルしたときに、Remote Access Service がコールバックする管理ステーションの IP アドレスを入力します。
6. システムのモデムで使用する電話番号を、**電話番号** フィールドに入力します。

7. デマンドダイヤルアウトユーザーのユーザー名を **ユーザー名** フィールドに入力します。
8. デマンドダイヤルアウトユーザーのパスワードを **パスワード** フィールドに入力します。
9. **認証** ドロップダウンメニューから設定を選択します。
 1. **任意** — 接続で任意の種類の変換を使用できます(暗号化なしも含む)。
 1. **暗号化** — 接続で何らかの変換を使用するように要求します。
 1. **CHAP** — 接続で CHAP を使用するように要求します。
10. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC III モデム設定の設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

DRAC III にはオプションの PCMCIA モデムが同梱されており、使用前にモデムを設定する必要があります。

DRAC III モデムを設定するには、次の手順を実行します。

1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。
3. **モデム** をクリックします。
4. **ダイヤルモード** で、**パルス** または **トーン** を選択します。
5. **国番号** ドロップダウンメニューから、DRAC III がある国を選択します。
6. **初期化文字列** で、テキストフィールドに DRAC III モデムに必要な初期化文字列を入力します。
7. ドロップダウン メニューから **ボーレート** 設定を選択します(デフォルトは **38400**)
8. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC リモート機能プロパティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

管理システムのローカル起動イメージが破損している場合、DRAC は TFTP (Trivial File Transfer Protocol) サーバーからダウンロードしたディスク起動イメージを使って起動することができます。この機能はリモートフロッピー起動と呼ばれます。DRAC は、TFTP サーバにあるファームウェアイメージを使用して、ファームウェアをアップデートすることもできます。この機能はリモートファームウェアアップデートと呼ばれ、このプロセスはシステム BIOS のフラッシュに似ています。

DRAC のリモートフロッピー起動機能とリモートファームウェアアップデート機能を設定するには、次の手順を実行します。


1. Server Administrator ホームページで、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから、**リモートアクセス** オブジェクトをクリックします。
2. **設定** タブをクリックします。


ネットワークプロパティの設定 ウィンドウが表示されます。
3. **リモート機能** をクリックします。

リモートプロパティ ウィンドウが表示されます。
4. **リモートフロッピーブート** チェックボックスを選択して、リモートブートパラメータを設定します。
5. DRAC のリモート起動パラメータを設定します。
 - a. **リモートフロッピー起動を有効にする** チェックボックスをクリックします。
 - b. TFTP サーバーの IP アドレスを **リモートフロッピー TFTP アドレス** フィールドに入力します。
 - c. 起動イメージのファイル名を **リモートフロッピー TFTP パス** フィールドに入力します。これは TFTP サーバーのルートディレクトリの相対パスでなければなりません。


6. DRAC のファームウェアアップデートパラメータを設定します。
 - a. **リモートファームウェアアップデートを有効にする** チェックボックスをクリックします。
 - b. TFTP サーバーの IP アドレスを **リモートファームウェア TFTP アドレス** フィールドに入力します。
 - c. ファームウェアイメージのファイル名を **リモートファームウェアアップデートパス** フィールドに入力します。これは TFTP サーバーのルートディレクトリの相対パスでなければなりません。
7. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

DRAC セキュリティの設定

 **メモ:** Server Administrator で Remote Access Service を使用するには、管理者権限が必要です。

 **メモ:** DRAC セキュリティ機能の詳細については、『Dell リモートアクセスコントローラインストールおよびセットアップガイド』を参照してください。

Server Administrator ホームページから DRAC セキュリティを設定するには、**システム→メインシステムシャーシ→リモートアクセス** をクリックしてから、**セキュリティ** タブをクリックします。**セキュリティ** タブでは、CSR 証明書管理を実行し、RAC ユーザーログイン認証オプションを設定できます。

 **メモ:** 一部の DRAC 証明書管理操作では、FTP プロトコルを使用して DRAC ファームウェアと通信します。ファイアウォールソフトウェアがシステムにインストールされている場合は、これらの操作に失敗することがあります。

証明書管理

証明書管理 ウィンドウを使用すると、証明書署名要求 (CSR) の生成、サーバー証明書または認証局 (CA) 証明書の DRAC ファームウェアへのアップロード、既存のサーバー証明書または CA 証明書の表示などができます。**証明書管理** ウィンドウには、次のオプションがあります。


- 1 [CSR の生成](#)
- 1 [証明書のアップロード](#)
- 1 [証明書の表示](#)

CSR は、セキュアサーバー証明書の CA へのデジタル要求です。セキュアサーバー証明書は、リモートシステムの身元を確認して、リモートシステムとやり取りする情報を他の人が閲覧または変更できないようにします。DRAC のセキュリティを確保するため、CSR を生成して CSR を CA に提出し、CA から返された証明書をアップロードすることをお勧めします。

認証局は、信頼性の高いスクリーニング、身分証明、その他の重要なセキュリティ条件を満たし、IT 業界で認められた事業者です。CA の例には Thwate や VeriSign があります。CSR を受け取ると、CA は CSR に含まれる情報を調べて検証します。申込者が CA のセキュリティ規格を満たしている場合、CA はネットワークとインターネットのトランザクションで申込者の身分を固有に識別する証明書を発行します。

CA が CSR を承認して証明書を送信したら、証明書を DRAC ファームウェアにアップロードする必要があります。DRAC ファームウェアに保存されている CSR 情報が、証明書に含まれている情報と一致する必要があります。

CSR の生成

 **注意:** 新しい CSR は、ファームウェアにある以前の CSR を上書きします。ファームウェアの CSR が CA から返された証明書と一致する必要があります。

1. **証明書管理** ウィンドウで **新しい CSR の生成** オプションを選択して、**次へ** をクリックします。

証明書署名要求 (CSR) の生成 ウィンドウが表示されます。


2. リストされている各アトリビュートの値を入力するかドロップダウンメニューから選択して、**生成** をクリックします。

CSR が正常に生成されたことを知らせるメッセージが表示され、保存先のパスが表示されます。

3. これで CSR を CA に送信する準備ができました。

証明書のアップロード

サーバー証明書または CA 証明書を DRAC ファームウェアにアップロードするには、証明書が DRAC のホストサーバーに存在する必要があります。CSR の種類、正確なファイル名、サーバー上の証明書の絶対ファイルパスを指定します。次に、**アップロード** をクリックします。

 **メモ:** ホストサーバーの証明書の場所へのパスを誤って入力しても、警告メッセージは表示されません。


1. **証明書管理** ウィンドウで **証明書のアップロード** オプションを選択して、**次へ** をクリックします。

証明書のアップロード ウィンドウが表示されます。

2. 証明書の種類をドロップダウンメニューから選択します。

サーバー証明書と CA 証明書があります。

3. アップロードする証明書の正確なパスとファイル名を入力します。

 **メモ:** 完全修飾パスまたはファイル名にスペースが含まれる場合は、その文字列を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、ファイルが c:\security files\certificates\sslcert.cer にあれば、「security」と「files」の間にスペースがあるため、完全修飾パス名とファイル名を二重引用符で囲む必要があります。例:
"c:\security files\certificates\sslcert.cer"

4. **アップロード** をクリックします。

証明書が正常に DRAC ファームウェアにアップロードされたことを伝えるメッセージが表示されます。

5. DRAC を再起動して新しい証明書を有効にします。

 **メモ:** 証明書をアップロードした後、新しい証明書を使用するには DRAC をリセットする必要があります。

証明書の表示

サーバー証明書の表示 と CA 証明書の表示 の両ウィンドウには、次の情報が含まれています。表 8-1 を参照してください。

表 8-1. 証明書情報

アトリビュート	値
種類	証明書の種類。サーバー証明書か CA 証明書。
シリアル	証明書のシリアル番号
キーサイズ	暗号化キーサイズ
有効期間の開始	証明書の発行日
有効期間の終了	証明書の失効日
タイトル	タイトルによって入力された証明書のアトリビュート
発行者	発行者によって返された証明書のアトリビュート

リモート接続認証オプションの設定

リモート接続認証オプション ウィンドウを使用して、DRAC ユーザーログイン認証オプションを設定します。DRAC を設定し、Remote Access Service (RAC ユーザー) から作成されたユーザーによるログインだけを許可するか、または Remote Access Service とローカルオペレーティングシステムから作成されたユーザーにログインを許可するかを設定します。

1. **システム→メインシステムシャーシ→リモートアクセス** をクリックしてから、**セキュリティ** タブをクリックします。

証明書管理 ウィンドウが表示されます。

2. **認証オプション** をクリックします。

リモート接続認証オプション ウィンドウ が表示されます。設定オプションは 2 つあり、前にチェックボックスが付いています。

RAC 認証 チェックボックスはデフォルトで選択されており、選択解除できません。この設定を使って、DRAC (DRAC ユーザー) で作成されたユーザーは DRAC にログインできます。

ローカルオペレーティングシステム認証 チェックボックスをオンにすると、ローカルオペレーティングシステムで作成されたユーザーも DRAC にログインできます。

 **メモ: ローカルオペレーティングシステムの認証** チェックボックスはデフォルトではグレー表示になっており、DRAC ファームウェアバージョン RAC firmware version 3.20 以降をオン / オフにできません。DRAC ファームウェアバージョン 3.20 以降については Active Directory の認証を使用してください。Active Directory の認証設定については、『Dell リモートアクセスコントローラ (DRAC III、DRAC III/XT、ERA、ERA/O) による Microsoft Active Directory の使用ユーザーズガイド』を参照してください。

3. **変更の適用** をクリックしてから **OK** をクリックして変更を保存します。

Dell Remote Access Controller へのアクセスと使用

Server Administrator ホームページから Remote Access Service DRAC **ログイン** ウィンドウにリンクするには、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックしてから **Remote Access Controller** オブジェクトをクリックし、**リモート接続** タブをクリックして、**リモート接続** をクリックします。DRAC **ログイン** ウィンドウが表示されます。

DRAC に接続したら、システムやセッション情報へのアクセス、DRAC 設定の管理、管理システムでのリモートアクセス機能の実行など、システムのモニタと管理を行うことができます。DRAC セキュリティ機能の詳細については、『Dell Remote Access Controller インストールおよびセットアップガイド』を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップと管理

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [セキュリティ管理](#)
- [ユーザー特権の割り当て](#)
- [対応する Windows オペレーティングシステムでゲストアカウントと匿名アカウントを無効にする](#)
- [SNMP Agent の設定](#)
- [X.509 証明書管理の必要条件](#)
- [Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムを実行中のシステムのファイアウォール設定](#)

セキュリティ管理

Server Administrator は、ウェブベースのインタフェースとコマンドラインインタフェースの両方に対し、ロールベースのアクセス制御 (RBAC)、認証、および暗号化を使ってセキュリティを提供します。

ロールベースのアクセス制御

RBAC では、特定の役割の人物によって実行できる操作を決定してセキュリティを管理します。各ユーザーには 1 つまたは複数の役割が割り当てられ、各役割にはその役割のユーザーに許可される 1 つまたは複数のユーザー特権が割り当てられます。RBAC では、セキュリティ管理は組織構造と密接に対応しています。

ユーザー特権

Server Administrator は割り当てられたユーザーのグループ特権に応じて、異なるアクセス権を与えます。ユーザーには、ユーザー、パワーユーザー、システム管理者の 3 つのレベルがあります。

ユーザーはほとんどの情報を表示できます。

パワーユーザーは警告しきい値の設定、診断テストの実行、警告またはエラーイベントが発生したときの警告処置を設定できます。

システム管理者はシャットダウン処理の設定と実行、システムでオペレーティングシステムが無応答の場合の自動回復処理の設定、ハードウェア、イベント、およびコマンドログのクリアなどを実行できます。また、システム管理者は電子メールを送信するシステムも設定可能です。

Server Administrator は、ユーザー特権でログインしたユーザーには読み取り専用アクセス、パワーユーザー特権でログインしたユーザーには読み書きアクセス、システム管理者権限でログインしたユーザーには読み取り、書き込み、および管理アクセスを与えます。[表 3-1](#) を参照してください。

表 3-1 ユーザー特権

ユーザー特権	アクセスタイプ		
	システム管理者	書き込み	読み取り
ユーザー			X
パワーユーザー		X	X
システム管理者	X	X	X

読み取りアクセスを使用すると、Server Administrator によって報告されたデータを参照できます。読み取りアクセスでは管理システムの値を変更したり設定することはできません。

書き込みアクセスでは、管理システムの値を変更または設定できます。

システム管理者によるアクセスでは管理システムもシャットダウンできます。

Server Administrator サービスにアクセスするための特権レベル

[表 3-2](#) は、Server Administrator サービスにアクセスして管理できるユーザーレベルをまとめたものです。

表 3-2 Server Administrator ユーザー特権レベル

サービス	必要なユーザー特権レベル	
	表示	管理
計装	U, P, A	P, A

リモートアクセス	U, P, A	A
診断	P, A	P, A
ストレージ管理	U, P, A	A

表 3-3 では、表 3-2 で使用したユーザー特権レベルの略語を定義します。

表 3-3 Server Administrator ユーザー特権レベルの凡例

U	ユーザー
P	パワーユーザー
A	管理者
NA	該当なし

認証

Server Administrator 認証スキームは、正しいアクセスタ입が正しいユーザー特権に割り当てられていることを確認します。さらに、コマンドラインインタフェース(CLI)を起動したとき、現在のプロセスが実行しているコンテキストを Server Administrator 認証スキームが検証します。この認証スキームは、アクセス元が Server Administrator ホームページか CLI かを問わず、すべての Server Administrator 機能が正しく認証されていることを確認します。

Microsoft Windows 認証

対応する Microsoft® Windows® オペレーティングシステムでは、Server Administrator 認証に Integrated Windows Authentication(旧名称:NTLM)が使われます。この認証システムによって、Server Administrator のセキュリティをネットワークの全体的なセキュリティスキームに組み込むことができます。

Red Hat® Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server 認証

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムでは、Server Administrator 認証は PAM(Pluggable Authentication Modules)ライブラリに基づいています。この文書化された関数ライブラリを使うと、管理者は個々のアプリケーションのユーザー認証方法を決定できます。

暗号化

管理システムの身元を確認して保護するため、Server Administrator には SSL(Secure Socket Layer) 技術を使用したセキュア HTTPS 接続を使ってアクセスします。対応の Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムでは、ユーザーが Server Administrator ホームページにアクセスしたときにソケット接続を介して転送されるユーザー資格情報やその他の機密データを JSSE(Java Secure Socket Extension)を使用して保護します。

ユーザー特権の割り当て

重要なシステムコンポーネントのセキュリティを確保するには、Server Administrator をインストールする前に正しくユーザー特権を割り当てする必要があります。


以下の手順は、対応している各オペレーティングシステムに Server Administrator のユーザーを作成してユーザー特権を割り当てる方法を説明しています。

- 1 [対応の Windows オペレーティングシステムでの Server Administrator ユーザーの作成](#)
- 1 [対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムでの Server Administrator ユーザーの作成](#)


➡ **注意:** 重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。また、パスワードを割り当てられていないユーザーは、オペレーティングシステムの制約を受けるため、Windows Server™ 2003 を実行しているシステムで Server Administrator にログインすることはできません。

➡ **注意:** 重要なシステムコンポーネントへのアクセスを保護するには、対応している Microsoft Windows オペレーティングシステムのゲストアカウントを無効にする必要があります。詳細については、「[対応の Windows オペレーティングシステムでゲストアカウントと匿名アカウントを無効にする](#)」を参照してください。

対応する Windows オペレーティングシステムでの Server Administrator ユーザーの作成


 **メモ:** これらの手順を実行するには、管理者権限でログインする必要があります。

対応する Windows Server 2003 オペレーティングシステムでのユーザーの作成とユーザー特権の割り当て

 **メモ:** ユーザー作成とユーザーグループ特権の割り当てに関する質問や詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**管理** をポイントします。
2. コンソールツリーで **ローカルユーザーとグループ** を展開して、**ユーザー** をクリックします。


3. **処置** をクリックしてから **新しいユーザー** をクリックします。
4. ダイアログボックスで適切な情報を入力し、チェックボックスを選択または選択解除して **作成** をクリックします。

 **注意:**重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。また、パスワードを割り当てられていないユーザーは、オペレーティングシステムの制約を受けるため、Windows Server 2003 を実行しているシステムで Server Administrator にログインすることはできません。


5. コンソールツリーの **ローカルユーザーとグループ** で、**グループ** をクリックします。
6. 新しいユーザーを追加するグループを、**ユーザー**、**パワーユーザー**、または **管理者** から選択します。
7. **動作** をクリックしてから **プロパティ** をクリックします。
8. **追加** をクリックします。
9. 追加しているユーザー名を入力し、**名前の確認** をクリックして確認します。
10. **OK** をクリックします。

新しいユーザーは、Server Administrator に割り当てられたグループにユーザー特権でログインできるようになります。

対応する Windows 2000 オペレーティングシステムでのユーザーの作成とユーザー特権の割り当て

 **メモ:** ユーザー作成とユーザーグループ特権の割り当てに関する質問や詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

1. **マイコンピュータ** を右クリックして **管理** をポイントします。
2. コンソールツリーで **ローカルユーザーとグループ** を展開して、**ユーザー** をクリックします。
3. **処置** をクリックしてから **新しいユーザー** をクリックします。
4. ダイアログボックスで適切な情報を入力し、チェックボックスを選択または選択解除して **作成** をクリックします。

 **注意:**重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。また、パスワードを割り当てられていないユーザーは、オペレーティングシステムの制約を受けるため、Windows Server 2003 を実行しているシステムで Server Administrator にログインすることはできません。

5. コンソールツリーの **ローカルユーザーとグループ** で、**グループ** をクリックします。
6. 新しいユーザーを追加するグループを、**ユーザー**、**パワーユーザー**、または **管理者** から選択します。
7. **動作** をクリックしてから **プロパティ** をクリックします。
8. **追加** をクリックします。
9. 追加するユーザーの名前をクリックして、**追加** をクリックします。
10. **名前の確認** をクリックして、追加するユーザー名を確認します。
11. **OK** をクリックします。

新しいユーザーは、Server Administrator に割り当てられたグループにユーザー特権でログインできるようになります。


ドメインへのユーザーの追加

 **メモ:** ユーザー作成とユーザーグループ特権の割り当てに関する詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

 **メモ:** 以下の手順を実行するには、Active Directory がシステムにインストールされている必要があります。


1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロール パネル**→**管理ツール**→Active Directory **ユーザーとコンピュータ** をポイントします。
2. コンソールツリーで、**ユーザー** または新しいユーザーを追加するコンテナを右クリックして、**新規作成**→**ユーザー** をポイントします。

3. ダイアログボックスに適切なユーザー名を入力して、**次へ** をクリックします。

 **注意:**重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。また、パスワードを割り当てられていないユーザーは、オペレーティングシステムの制約を受けるため、Windows Server 2003 を実行しているシステムで Server Administrator にログインすることはできません。


4. **次へ** をクリックして、**完了** をクリックします。
5. 今作成したユーザーを表すアイコンをダブルクリックします。
6. **所属するグループ** タブをクリックします。
7. **追加** をクリックします。
8. 適切なグループを選択して、**追加** をクリックします。
9. **OK** をクリックしてから、再度 **OK** をクリックします。

新しいユーザーは、Server Administrator に割り当てられたグループとドメインにユーザー特権でログインできるようになります。

 **注意:**Active Directory では、別のドメインからユニバーサルグループを追加する場合、ユニバーサルスコープで関連オブジェクトを作成する必要があります。Dell Schema Extender Utility によって作成されたデフォルトの関連オブジェクトは、ドメインローカルグループであり、他のドメインからのユニバーサルグループとは連動しません。


対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムでの Server Administrator ユーザーの作成

管理者権限は、root でログインしているユーザーに割り当てられます。ユーザー特権とパワーユーザー特権を持つユーザーを作成するには、以下の手順に従います。

 **メモ:**これらの手順を実行するには、root でログインする必要があります。

 **メモ:**これらの手順を実行するには、システムに useradd ユーティリティがインストールされている必要があります。

ユーザーの作成

 **メモ:**ユーザー作成とユーザーグループ特権の割り当てに関する詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

ユーザー特権を持つユーザーの作成

1. コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
useradd -d <ホームディレクトリ> -g <グループ> <ユーザー名>
```

<グループ> は root ではありません。

 **メモ:**<グループ> が存在しない場合は、groupadd コマンドを使ってグループを作成してください。

2. passwd <ユーザー名> を入力し、<Enter> を押します。
3. プロンプトで、新しいユーザーのパスワードを入力します。


 **注意:**重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。

新しいユーザーはユーザーというグループ特権を使って Server Administrator にログインできます。

パワーユーザー特権を持つユーザーの作成

1. コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
useradd -d <ホームディレクトリ> -g root <ユーザー名>
```

 **メモ:**ルートをプライマリグループとして設定する必要があります。


2. passwd <ユーザー名> を入力し、<Enter> を押します。

3. プロンプトで、新しいユーザーのパスワードを入力します。

 **注意:**重要なシステムコンポーネントのアクセスを保護するには、Server Administrator にアクセスできる各ユーザーアカウントにパスワードを割り当てる必要があります。

新しいユーザーはパワーユーザーというグループ特権を使って Server Administrator にログインできます。

対応する Windows オペレーティングシステムでゲストアカウントと匿名アカウントを無効にする

 **メモ:**この手順を実行するには、管理者権限でログインする必要があります。


1. システムで Windows Server 2003 を実行している場合は、**スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして **管理** をポイントします。システムで Windows 2000 を実行している場合は、**マイコンピュータ** を右クリックし **管理** をポイントします。
2. コンソールツリーで **ローカルユーザーとグループ** を展開して、**ユーザー** をクリックします。
3. **ゲスト** または **IUSR_システム名ユーザーアカウント** をクリックします。
4. **処置** をクリックして、**プロパティ** をポイントします。
5. **アカウントは無効** を選択して、**OK** をクリックします。

X が付いた赤い丸印がユーザー名の上に表示されます。このアカウントが無効になります。

SNMP Agent の設定

Server Administrator は、対応するすべてのオペレーティングシステムで管理ネットワーク管理プロトコル(SNMP)システム管理規格をサポートしています。SNMP サポートは、オペレーティングシステム、またオペレーティングシステムのインストール方法によってインストールされている場合とされていない場合があります。ほとんどの場合、SNMP はオペレーティングシステムのインストールの過程でインストールされています。SNMP などのインストールされている対応システム管理プロトコル規格は、Server Administrator をインストールする前に必要です。詳細については、「[インストール要件](#)」を参照してください。

SNMP エージェントを設定すると、コミュニティ名を変更したり、Set 操作を有効にしたり、管理ステーションにトラップを送ることができます。Dell OpenManage™ IT Assistant や Array Manager などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。


 **メモ:**IT Assistant で Server Administrator を実行中のシステムから管理情報を取得するには、IT Assistant で使用するコミュニティ名が Server Administrator を実行中のシステムのコミュニティ名と一致する必要があります。IT Assistant で Server Administrator を実行しているシステムの情報を変更したり処置を実行するには、IT Assistant で使用するコミュニティ名が Server Administrator を実行中のシステムで Set 操作を許可するコミュニティ名と一致する必要があります。IT Assistant で Server Administrator を実行中のシステムからトラップ(非同期イベント通知)を受け取るには、Server Administrator を実行中のシステムが IT Assistant を実行中のシステムにトラップを送信できるように設定する必要があります。

以下の手順は、対応している各オペレーティングシステムで SNMP エージェントを設定する方法を説明しています。

- 1 [対応 Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)
- 1 [対応 Red Hat Linux オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)
- 1 [対応 Red Hat Linux オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定](#)

Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は、Windows SNMP エージェントによって提供される SNMP サービスを使用します。SNMP エージェントを設定すると、コミュニティ名を変更したり、Set 操作を有効にしたり、管理ステーションにトラップを送ることができます。IT Assistant などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。

 **メモ:**SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

リモートホストによる SNMP アクセスを有効にする

Windows Server 2003 はデフォルトではリモートホストからの SNMP パケットを受け入れません。Windows Server 2003 を実行しているシステムでリモートホストから SNMP 管理アプリケーションを使ってシステムを管理したい場合は、リモートホストから SNMP パケットを受け入れるように SNMP サービスを設定する必要があります。

Windows Server 2003 オペレーティングシステムを実行しているシステムでリモートホストから SNMP パケットを受け取れるようにするには、次の手順を実行してください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**管理** をポイントします。

コンピュータの管理 ウィンドウが表示されます。

2. 必要であればウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。

3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. リストを下にスクロールして **SNMP サービス** を見つけ、**SNMP サービス** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
5. **セキュリティ** タブをクリックします。
6. **任意のホストから SNMP パケットを受け入れる** を選択するか、リモートホストを **これらのホストの SNMP パケットを受け入れる** リストに追加します。

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP コミュニティ名の設定によって、SNMP を使ってシステムを管理するシステムが決まります。管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得するには、管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名が、Server Administrator システムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

1. システムで Windows Server 2003 を実行している場合は、**スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして **管理** をポイントします。システムで Windows 2000 を実行している場合は、**マイコンピュータ** を右クリックし **管理** をポイントします。
コンピュータの管理 ウィンドウが表示されます。
2. 必要であればウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。
3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. リストを下にスクロールして **SNMP サービス** を見つけ、**SNMP サービス** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
5. **セキュリティ** タブをクリックして、コミュニティ名を追加または編集します。
 - a. コミュニティ名を追加するには、**受け付けるコミュニティ名** リストの **追加** をクリックします。
SNMP サービス構成 ウィンドウが表示されます。
 - b. システムを管理できるコミュニティ名(デフォルトは public)を **コミュニティ名** テキストボックスに入力して、**追加** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
 - c. コミュニティ名を変更するには、**受け付けるコミュニティ名** リストのコミュニティ名を選択して、**編集** をクリックします。
SNMP サービス構成 ウィンドウが表示されます。
 - d. **コミュニティ名** テキストボックスで、システムを管理できるシステムのコミュニティ名を変更し、**OK** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
6. **OK** をクリックして変更を保存します。

SNMP Set 操作の有効化

IT Assistant を使って Server Administrator アトリビュートを変更するには、Server Administrator で SNMP Set 操作が有効になっている必要があります。

1. システムで Windows Server 2003 を実行している場合は、**スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして **管理** をポイントします。システムで Windows 2000 を実行している場合は、**マイコンピュータ** を右クリックし **管理** をポイントします。
コンピュータの管理 ウィンドウが表示されます。
2. 必要であればウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。
3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. **SNMP サービス** が見つかるまでサービスのリストをスクロールし、**SNMP サービス** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。
5. **セキュリティ** タブをクリックして、コミュニティのアクセス権を変更します。
6. **受け付けるコミュニティ名** リストでコミュニティ名を選択して、**編集** をクリックします。

SNMP サービス構成 ウィンドウが表示されます。

7. コミュニティの権利を **読み取り書き込み** または **読み取り作成** に設定して、OK をクリックします。

SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。

8. OK をクリックして変更を保存します。

SNMP トラップを管理ステーションに送信するシステム設定

Server Administrator は、センサーやその他のモニタパラメータの状態変化に応じて SNMP トラップを生成します。SNMP トラップが Management Station に送信されるためには、Server Administrator のトラップ送信先を 1 つまたは複数設定する必要があります。

1. システムで Windows Server 2003 を実行している場合は、**スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして **管理** をポイントします。システムで Windows 2000 を実行している場合は、**マイコンピュータ** を右クリックし **管理** をポイントします。

コンピュータの管理 ウィンドウが表示されます。

2. 必要であればウィンドウの **コンピュータの管理** アイコンを展開します。
3. **サービスとアプリケーション** アイコンを展開して、**サービス** をクリックします。
4. **SNMP サービス** が見つかるまでサービスのリストをスクロールし、**SNMP サービス** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。

SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。

5. **トラップ タブ** をクリックしてトラップのコミュニティを追加するか、トラップコミュニティのトラップ送信先を追加します。
 - a. トラップのコミュニティを追加するには、**コミュニティ名** ボックスにコミュニティ名を入力し、**コミュニティ名** ボックスの横にある **リストに追加** をクリックします。
 - b. トラップコミュニティのトラップ送信先を追加するには、**コミュニティ名** ドロップダウンボックスからコミュニティ名を選択して、**トラップ送信先** ボックスの中の **追加** をクリックします。
 - c. **SNMP サービス構成** ウィンドウが表示されます。


トラップ送信先を入力して、**追加** をクリックします。

SNMP サービスプロパティ ウィンドウが表示されます。

6. OK をクリックして変更を保存します。

対応 Red Hat Linux オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は ucd-snmp または net-snmp SNMP エージェントによって提供された SNMP サービスを使用します。SNMP エージェントを設定すると、コミュニティ名を変更したり、Set 操作を有効にしたり、管理ステーションにトラップを送ることができます。IT Assistant などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。

 **メモ:** SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

SNMP エージェントのアクセス制御の設定

Server Administrator によって実装されている管理情報ベース(MIB)ブランチは、1.3.6.1.4.1.674 の OID で識別されます。Server Administrator を実行しているシステムを管理するには、管理アプリケーションがこの MIB ツリーのブランチへのアクセス権を確保している必要があります。

Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムの場合、デフォルトの SNMP エージェント設定では、MIB ツリーの MIB-II「システム」ブランチ(1.3.6.1.2.1.1 の OID で識別)にのみ「パブリック」コミュニティへの読み取り専用アクセスが与えられます。この設定では、管理アプリケーションを使用して、Server Administrator や MIB-II 「システム」ブランチ以外の他の Systems Management 情報を取得したり変更することはできません。

Server Administrator SNMP エージェントのインストール処置

インストール中に Server Administrator がデフォルトの SNMP 設定を検知すると、SNMP エージェント設定を変更して、「パブリック」コミュニティの MIB ツリー全体に読み取り専用アクセスを与えようとしています。Server Administrator は、`/etc/snmp/snmpd.conf` SNMP エージェント設定ファイルを 2 つの方法で変更します。

まず、次の行がない場合は、それを追加して MIB ツリー全体の表示を作成します。

```
view all included .1
```


次に、デフォルトの「アクセス」行を変更して、「パブリック」コミュニティの MIB ツリー全体に読み取り専用アクセス権を与えます。Server Administrator は次の行を探します。

```
access notConfigGroup "" any noauth exact systemview none none
```

Server Administrator で上の行が見つくと、次のように変更されます。

```
access notConfigGroup "" any noauth exact all none none
```

デフォルト SNMP エージェント設定をこのように変更すると、「パブリック」コミュニティの MIB ツリー全体に読み取り専用アクセス権が与えられます。

 **メモ:** Server Administrator が確実に SNMP エージェント設定を変更し、System Management データに正しくアクセスできるようにするには、Server Administrator のインストール後にその他の SNMP エージェント設定を変更することをお勧めします。

Server Administrator SNMP は、SNMP Multiplexing(SMUX)プロトコルを使った SNMP エージェントと通信を行います。Server Administrator SNMP は SNMP エージェントに接続するとき、SNMP エージェントを SMUX ピアとして識別するオブジェクト識別子を SNMP エージェントに送信します。オブジェクト識別子は SNMP エージェントとともに設定される必要があるため、Server Administrator はインストール中、SNMP エージェント設定ファイルに `/etc/snmp/snmpd.conf` が存在しない場合、これを追加します。

```
smuxpeer .1.3.6.1.4.1.674.10892.1
```

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP コミュニティ名の設定によって、SNMP を使ってシステムを管理するシステムが決まります。管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得するには、管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名が、Server Administrator システムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

Server Administrator を実行中のシステムから管理情報を取得するのに使う SNMP コミュニティ名を変更し、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmp/snmpd.conf` を編集するには、次の手順を実行します。

1. 次の行を探します。

```
com2sec publicsec default public
```

または

```
com2sec notConfigUser default public
```

2. `public` の部分を SNMP コミュニティに置き換えてこの行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
com2sec publicsec default コミュニティ名
```

または

```
com2sec notConfigUser default コミュニティ名
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
service snmpd restart
```

SNMP Set 操作の有効化

IT Assistant を使って Server Administrator アトリビュートを変更するには、Server Administrator を実行しているシステムで SNMP Set 操作が有効になっている必要があります。

Server Administrator を実行中のシステムで SNMP Set 操作を有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集して、次の手順を実行します。

1. 次の行を探します。

```
access publicgroup "" any noauth exact all none none
```

または

```
access notConfigGroup "" any noauth exact all none none
```

2. 最初の `none` を `all` に置き換えて行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
access publicgroup "" any noauth exact all all none
```

または

```
access notConfigGroup "" any noauth exact all all none
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
service snmpd restart
```

SNMP トラップを管理ステーションに送信するシステム設定

Server Administrator は、センサーやその他のモニタパラメータの状態変化に応じて SNMP トラップを生成します。SNMP トラップが管理ステーションに送信されるためには、Server

Administrator のトラップ送信先を 1 つまたは複数設定する必要があります。

Server Administrator を実行しているシステムで管理ステーションにトラップを送信するように設定するには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集して次の手順を実行します。

1. 次の行をファイルに追加します。

```
trapsink IP アドレス コミュニティ名
```


「IP アドレス」は管理ステーションの IP アドレスを、「コミュニティ名」は、SNMP コミュニティ名を表します。

2. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
service snmpd restart
```

対応 Red Hat Linux オペレーティングシステム環境のシステムでの SNMP エージェントの設定

Server Administrator は `ucd-snmp` または `net-snmp` エージェントによって提供された SNMP サービスを使用します。リモートホストから SNMP アクセスを有効にするための SNMP エージェントの設定、コミュニティ名の変更、セット操作の有効化、および管理ステーションへのトラップの送信が可能です。IT Assistant などの管理アプリケーションと正しく相互作用するように SNMP エージェントを設定するには、次項で説明する手順に従ってください。

 **メモ:** SNMP 設定の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。


Server Administrator SNMP インストール処置

Server Administrator SNMP は、SNMP Multiplexing(SMUX)プロトコルを使った SNMP エージェントと通信を行います。Server Administrator SNMP は SNMP エージェントに接続するとき、SNMP エージェントを SMUX ピアとして識別するオブジェクト識別子を SNMP エージェントに送信します。このオブジェクト識別子は SNMP エージェントとともに設定される必要があるため、Server Administrator はインストール中、SNMP エージェント設定ファイルに `/etc/snmp/snmpd.conf` が存在しない場合、これを追加します。

```
smuxpeer .1.3.6.1.4.1.674.10892.1
```

リモートホストからの SNMP アクセスを有効にする

SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムのデフォルトの SNMP エージェント設定は、「パブリック」コミュニティに対してローカルホストからのみによる MIB ツリー全体へ読み取り専用のアクセスを与えます。Server Administrator システムを正しく検知し、管理するために、この設定では他のホストで実行される IT Assistant などの SNMP 管理アプリケーションが許可されていません。インストール中、Server Administrator がこの設定を検知すると、メッセージをオペレーティングシステムのログファイル `/var/log/messages` にログし、ローカルホストへの SNMP アクセスの制約を指示します。リモートホストから SNMP 管理アプリケーションを使ってシステムを管理する場合は、リモートホストからの SNMP アクセスを有効にするために、SNMP エージェントを設定する必要があります。

 **メモ:** セキュリティ上の理由から、SNMP のアクセスを可能な限り特定のリモートホストに制限することをお勧めします。


Server Administrator を実行しているシステムへの特定のリモートホストからの SNMP アクセスを有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集して次の手順を実行します。

1. 次の行を探します。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. 127.0.0.1 をリモートホストの IP アドレスに書き換えてこの行を編集またはコピーします。編集後の行は次のようになります。

```
rocommunity public IP_address
```

 **メモ:** 各リモートホストに対し `rocommunity` 指令を追加することにより複数の特定リモートホストからの SNMP アクセスを有効にできます。

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

Server Administrator を実行しているシステムへのすべてのリモートホストからの SNMP アクセスを有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmp/snmpd.conf` を編集して次の手順を実行します。

1. 次の行を探します。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. 127.0.0.1 を削除してこの行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
rocommunity public
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

SNMP コミュニティ名の変更

SNMP コミュニティ名の設定によって、SNMP を使ってシステムを管理できる管理ステーションが決まります。管理アプリケーションが Server Administrator から管理情報を取得するには、管理アプリケーションで使用される SNMP コミュニティ名が、Server Administrator システムで設定されている SNMP コミュニティ名と一致する必要があります。

Server Administrator を実行中のシステムから管理情報を取得するのに使うデフォルトの SNMP コミュニティ名を変更し、SNMP エージェント設定ファイル `/etc/snmpd.conf` を編集するには、次の手順を実行します。

1. 次の行を探します。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. `public` の部分を SNMP コミュニティに置き換えてこの行を編集します。編集後の行は次のようになります。


```
rocommunity community_name 127.0.0.1
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

SNMP Set 操作の有効化

IT Assistant を使って Server Administrator アトリビュートを変更するには、Server Administrator を実行しているシステムで SNMP Set 操作が有効になっている必要があります。IT Assistant からシステムのリモートシャットダウンを有効にするには、SNMP Set 操作が有効化されている必要があります。

 **メモ:** 管理機能を変更するためにシステムを再起動する場合、SNMP Set 操作は不要です。

Server Administrator を実行中のシステムで SNMP Set 操作を有効にするには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmpd.conf` を編集して、次の手順を実行します。

1. 次の行を探します。

```
rocommunity public 127.0.0.1
```

2. `rocommunity` を `rwcommunity` に置き換えてこの行を編集します。編集後の行は次のようになります。

```
rwcommunity public 127.0.0.1
```

3. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

SNMP トラップを管理ステーションに送信するシステム設定

Server Administrator は、センサーやその他のモニタパラメータの状態変化に応じて SNMP トラップを生成します。SNMP トラップが管理ステーションに送信されるためには、Server Administrator のトラップ送信先を 1 つまたは複数設定する必要があります。

Server Administrator を実行しているシステムで管理ステーションにトラップを送信するように設定するには、SNMP エージェント設定ファイル、`/etc/snmpd.conf` を編集して次の手順を実行します。

1. 次の行をファイルに追加します。

```
trapsink IP アドレス コミュニティ名
```

「IP アドレス」は管理ステーションの IP アドレスを、「コミュニティ名」は、SNMP コミュニティ名を表します。

2. SNMP 設定の変更を有効にするには、次のように入力して SNMP エージェントを再起動します。

```
/etc/init.d/snmpd restart
```

X.509 証明書管理の必要条件

リモートシステムの身元を確認して、リモートシステムとやり取り情報を他の人が閲覧または変更できないようにするには、Web 証明書が必要です。

この項では、対応している各オペレーティングシステムで、新規 X.509 証明書の生成、既存の X.509 証明書の再利用、証明機関 (CA) からのルート証明書や証明書チェーンのインポートなどを確実

に行うための管理必要条件について説明します。

X.509 証明書管理は、対応オペレーティングシステムに対して Server Administrator ホームページから提供されています。


Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムを実行中のシステムのファイアウォール設定

Red Hat Enterprise Linux をインストールしているときにファイアウォールセキュリティを有効にすると、デフォルトではすべての外部ネットワークインタフェースが閉じます。IT Assistant などの SNMP 管理アプリケーションを有効にして Server Administrator からの情報を検出して取得するには、少なくとも 1 つの外部ネットワークインタフェースの SNMP ポートが開いている必要があります。Server Administrator によって外部ネットワークインタフェースの SNMP ポートがファイアウォールで開かれていないことが検出されたら、Server Administrator は警告メッセージを表示してメッセージをシステムログに記録します。

SNMP ポートを開くには、ファイアウォールを無効にし、ファイアウォールの外部ネットワークインタフェース全体を開くか、ファイアウォールで少なくとも 1 つの外部ネットワークインタフェースの SNMP ポートを開きます。この処理は、Server Administrator が起動する前か後で行うことができます。

前に説明した方法のいずれかを使用して SNMP ポートを開くには、次の手順を実行します。

1. Red Hat Enterprise Linux コマンドプロンプトで `setup` と入力して `<Enter>` を押し、テキストモードセットアップユーティリティを起動します。


 **メモ:** このコマンドは、オペレーティングシステムでデフォルトのインストールを実行した場合にのみ使用できます。

Choose a Tool (ツールの選択) メニューが表示されます。

2. 下矢印を使用して Firewall Configuration (ファイアウォール設定) を選択し、`<Enter>` を押します。

Firewall Configuration (ファイアウォール選択) 画面が表示されます。

3. `<Tab>` を押して Security Level (セキュリティレベル) を選択してからスペースバーを押して希望のセキュリティレベルを選択します。選択したセキュリティレベルにアスタリスクが付きます。

 **メモ:** firewall security の詳細については、`<F1>` を押してください。デフォルトの SNMP ポート番号は **161** です。X Window System グラフィカルユーザーインタフェースを使用している場合は、新しいバージョンの Red Hat Enterprise Linux では `<F1>` を押してもファイアウォールのセキュリティレベルに関する情報が表示されないことがあります。

- a. ファイアウォールを無効にするには、**No firewall** (ファイアウォールなし) か **Disabled** (無効) を選択して手順 7 に進みます。
- b. ネットワークインタフェース全体または SNMP ポートを開くには、**High, Medium** (高、中) または **Enabled** (有効) を選択して [手順 4](#) に進みます。

4. `<Tab>` を押して Customize (カスタマイズ) へ移動し、`<Enter>` を押します。

Firewall Configuration - Customize (ファイアウォールの設定 - カスタマイズ) 画面が表示されます。

5. ネットワークインタフェース全体を開くか、すべてのネットワークインタフェースの SNMP ポートだけを開くかを選択します。

- a. ネットワークインタフェース全体を開くには、`<Tab>` を押して信頼できるデバイスの 1 つに進んでスペースバーを押します。デバイス名の左側のボックスにアスタリスクが付いているなら、インタフェース全体が開くことを示します。
- b. すべてのネットワークインタフェースの SNMP ポートを開くには、`<Tab>` を押して **Other ports** (他のポート) に進んで `snmp:udp` と入力します。

6. `<Tab>` を押して **OK** を選択し、`<Enter>` を押します。

Firewall Configuration (ファイアウォール選択) 画面が表示されます。

7. `<Tab>` を押して **OK** を選択し、`<Enter>` を押します。

Choose a Tool (ツールの選択) メニューが表示されます。

8. `<Tab>` を押して **Quit** (解除) を選択し、`<Enter>` を押します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Storage Management Service(ストレージ管理サービス)

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [ソフトウェアの必要条件](#)
- [ハードウェアの必要条件](#)
- [Storage Management Service\(ストレージ管理サービス\)](#)
- [Array Manager から Storage Management への移行](#)
- [Storage Management コマンドラインインタフェース](#)
- [オンラインヘルプの表示](#)


概要


Dell OpenManage™ Storage Management は Server Administrator に内蔵される RAID および非 RAID Storage Management を提供します。Microsoft® Windows®, Red Hat® Enterprise Linux, および SUSE® LINUX Enterprise Server では、簡易セットアップまたはカスタムセットアップを使って Storage Management Service をインストールします。Storage Management Service は統合グラフィカル表示でストレージ管理情報を提供します。


Storage Management Service :


- 1 対応するすべての RAID および RAID 以外のコントローラとエンクローージャについて、コントローラ BIOS ユーティリティを使用せず、単一のグラフィカルインタフェースまたはコマンドラインインタフェースから、コントローラおよびエンクローージャ機能を実行できます。
- 1 モニタされるシステムに接続しているローカルおよびリモートのストレージのステータスを表示できます。
- 1 SCSI, SATA, ATA, および SAS をサポートしますが、ファイバチャネルはサポートされていません。
- 1 データ冗長性の設定、ホットスワップ割り当て、または障害発生ドライブの再構成によってデータを保護します。
- 1 初心者と上級ユーザー向けのウィザードを使用したグラフィカルインタフェースと、詳しいオンラインヘルプを提供します。
- 1 完全機能を備えたスクリプト可能なコマンドラインインタフェースを提供します。
- 1 詳しいオンラインヘルプを提供します。

コマンドラインからの Storage Management の実行方法については、『Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。

 **メモ:** Storage Management についての完全情報は、「Storage Management オンラインヘルプ」および『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。

 **注意:** Storage Management Service では、データ破壊的なストレージタスクの実行も可能です。Storage Management は、ストレージ環境を熟知した経験のあるストレージ管理者が使用すべきです。


 **メモ:** Storage Management は Microsoft Windows, Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise オペレーティングシステムを実行しているシステムで使用可能です。

 **メモ:** Storage Management Service には、Red Hat Enterprise Linux バージョン 3(アップデート 6)または Red Hat Enterprise Linux バージョン 4 の使用をお勧めします。

Storage Management を使用する場合、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中の特定のウィンドウについての詳細が表示されます。ヘルプは、ユーザーの特権レベルと、Server Administrator が管理システム上に検出するハードウェアとソフトウェアのグループに応じて、アクセス可能なすべてのウィンドウで利用できます。

ソフトウェアの必要条件

Storage Management がインストールされていない管理システムでは、直接接続しているストレージデバイスの SCSI 診断を実行できませんが、RAID コントローラとストレージの診断は実行できません。

 **メモ:** ソフトウェアおよびハードウェア要件全容については、Storage Management の readme(readme_sm.txt) および Server Administrator の readme(readme_sa.txt) を参照してください。これらのファイルは『Systems Management Console CD』で入手可能です。

ハードウェアの必要条件

Storage Management は、対応コントローラがないシステムまたはストレージに取り付けられたコントローラがないシステムにインストールできません。対応コントローラのリスト、Storage Management Service のハードウェア要件に関する詳細は、『Systems Management Console CD』にある、Server Administrator の readme ファイル(readme_sa.txt)、および Storage Management の readme ファイル(readme_sm.txt)を参照してください。

Storage Management Service(ストレージ管理サービス)

Storage Management をインストールすることにより、システムに存在する Array Manager Managed System (サーバーソフトウェア)およびコンソール(クライアントソフトウェア)の古いインストールは交換されます。万一 Array Manager コンソールがシステムにインストールされている場合、Storage Management のインストールにより Array Manager コンソールが交換されることはありません。

Storage Management Service は、システムにローカル接続している RAID および非 RAID のディスクストレージを設定するための高度な機能を提供しています。Storage Management を使用すると、コントローラ BIOS ユーティリティなしに Server Administrator グラフィカルインタフェースを介して、サポートしている RAID および非 RAID の全コントローラと PowerVault™ 2xxS および PowerVault MD1000 エンクロージャのコントローラとエンクロージャの機能を実行できます。

Storage Management Service を使用すると、データの冗長性設定、ホットスワップの割り当て、障害発生ドライブの再構成によってデータを保護できます。仮想ディスクの削除やコントローラ設定構成のリセットなど、データ破壊的なタスクも実行できます。Storage Management Service のユーザーは自分のストレージ環境とストレージ管理について十分に理解している必要があります。

Server Administrator のインタフェース機能に加え、Storage Management Service では初心者も上級ユーザーも使えるウィザード機能と詳しいオンラインヘルプも提供しています。

Storage Management コマンドラインインタフェース(CLI)は、Server Administrator の `omreport` および `omconfig` コマンドに拡張オプションを提供しています。これらのオプションによって、完全機能を備えたスクリプト可能なコマンドラインインタフェースが提供されます。

Storage Management Service は SCSI、SATA、ATA、および SAS をサポートしていますが、ファイバチャネルはサポートされていません。

Storage Management のこのリリースでは、Windows のボリュームおよびディスクの管理はサポートされていません。詳細については、「[Storage Management Service](#)」を参照してください。

Storage Management Service と Array Manager

Dell OpenManage Storage Management は Array Manager の代用となるものです。Storage Management Service は Array Manager に類似するストレージ管理と設定機能を提供しています。ただし、サポートしているオペレーティングシステムやその他の機能に違いがあります。「[Array Manager から Storage Management への移行](#)」の詳細をよく読み、詳細については『Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。

Storage Management ツリーオブジェクト

Storage Management Service は、インストールすると、Server Administrator グラフィカルユーザーインタフェースの **ストレージ** ツリーオブジェクトを選択してアクセスできます。**ストレージ** オブジェクトを展開すると、システムに接続している対応コントローラのツリーオブジェクトが表示されます。コントローラオブジェクトが展開され、コントローラに接続しているストレージが表示されます。

展開された **ストレージ** オブジェクトには次のような下位レベルのオブジェクトが表示されます。これはシステムに接続しているコントローラとストレージによって異なります。

- 1 コントローラ
- 1 バッテリー
- 1 コネクタ
- 1 エンクロージャまたはバックプレーン
- 1 アレイディスク
- 1 EMM(エンクロージャ管理モジュール)
- 1 ファン
- 1 電源装置
- 1 温度
- 1 ファームウェア / ドライババージョン
- 1 仮想ディスク

正常性タブ


各ツリーオブジェクトの **正常性** タブには、選択したオブジェクトのステータス情報が表示されます。

情報 / 設定タブ

情報 / 設定 タブには、選択したツリーオブジェクトのプロパティ情報が表示されます。Storage Management Service を使用すると、**情報 / 設定** タブにはストレージタスクの実行とウィザードの起動に使用するドロップダウンメニューとボタンも表示されます。

Storage Management タスク

Storage Management Service では、ストレージ管理と設定タスクを実行するためのドロップダウンメニューとウィザードが表示されます。この項では、Storage Management Service が提供する共通ストレージタスクとウィザードについて説明します。

 **メモ:** Storage Management のストレージタスクなど、機能の全容については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

仮想ディスクの作成ウィザード

Storage Management Service では、仮想ディスクを作成する際に簡易設定ウィザードと詳細設定ウィザードを提供しています。簡易設定ウィザードは、空き容量とコントローラを考慮して、仮想ディスクの適切な構成内容を算出します。簡易設定ウィザードを使用するときは、仮想ディスクの RAID レベルとサイズを選択します。簡易設定ウィザードは、その RAID レベルとサイズの選択に適合する推奨ディスク構成を選択します。簡易設定ウィザードではユーザーの入力が最小限に抑えられているため、初心者ユーザーに推奨されます。

仮想ディスク作成の詳細設定ウィザードでは、仮想ディスクの読み取り、書き込み、およびキャッシュポリシーを指定できます。また、使用するアレイドスクおよびコントローラコネクタを選択することもできます。詳細設定ウィザードを使用するには、RAID レベルとハードウェアについてよく理解を得ておく必要があります。このウィザードの使用はアドバンスユーザーに推奨されます。

仮想ディスクの作成の簡易設定および詳細設定ウィザードの起動方法

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **仮想ディスクウィザードの作成に進む** をクリックします。
5. 詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

仮想ディスク再構成ウィザード

仮想ディスク再構成ウィザードを利用すると、仮想ディスクの構成を変更できます。このタスクを使用して、アレイドスクの数を増やすことで RAID レベルを変えるか、または仮想ディスク容量を増やすことができます。

仮想ディスク再構成ウィザードの起動方法:

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **使用できるタスク** ドロップダウンメニューから **再構成** を選択します。
5. **実行** をクリックします。
6. 詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

冗長仮想ディスクの整合性の維持

冗長仮想ディスクが作成されている場合は、整合性確認 タスクによって、冗長 (パリティ) 情報の精度が検証されます。このタスクは冗長仮想ディスクにのみ適用されます。整合性確認 タスクは、必要に応じて冗長データを再構成します。

整合性確認タスクの起動方法

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **使用できるタスク** ドロップダウンメニューから **整合性確認** を選択します。
5. **実行** をクリックします。
6. 詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除

グローバルホットスベアは、アレイドスクの一部である使用されていないバックアップディスクです。ホットスベアはスタンバイモードに保たれます。仮想ディスクで使用されるアレイドスクに障害が発生した場合は、システムの割り込みやユーザーの介入なしに、使用できなくなったアレイドスクの代わりに割り当て済みのホットスベアが作動し始めます。ホットスベアは、アクティブになると失敗アレイドスクを使用していたすべての冗長仮想ディスクに対しデータを再構成します。

ディスクを割り当て解除し、必要に応じて別のディスクを選ぶことにより、ホットスベアの割り当てを変更することができます。また、グローバルホットスベアとして 1 つ以上のアレイドスクを割り当てることが可能です。

グローバルホットスベアは手動で割り当ておよび割り当て解除する必要があります。これらは特定の仮想ディスクに対して割り当てられるわけではありません。(仮想ディスクで失敗したアレイドスクを交換する)ホットスベアを仮想ディスクに割り当てると、専用ホットスベアの割り当てと割り当て解除の手順に従います。

専用ホットスベアの割り当て方法

1. 専用ホットスベアとして使用するディスクを **コネクタ**(チャンネルまたはポート)表で選択します。コントローラによっては、1 つ以上のディスクを選択できます。専用ホットスベアとして選択したディスクが **現在専用ホットスベアとして設定されているディスク** 表に表示されます。
2. 準備が完了したら、**変更の適用** をクリックします。

専用ホットスベアの割り当て解除方法

1. **現在専用ホットスベアとして設定されているディスク** 表のディスクをクリックして割り当て解除します。ディスクをクリックすることにより **現在専用ホットスベアとして設定されているディスク** 表からディスクが削除され、コネクタ(チャンネルまたはポート)表に戻ります。
2. 準備が完了したら、**変更の適用** をクリックします。

Storage Management でこのタスクを位置付ける

1. **ストレージ** ツリーオブジェクトを展開して、コントローラオブジェクトを表示します。
2. コントローラオブジェクトを展開します。
3. **仮想ディスク** オブジェクトを選択します。
4. **使用できるタスク** ドロップダウンメニューから **専用ホットスベアの割り当て / 割り当て解除** を選択します。
5. **実行** をクリックします。

詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

障害が発生したアレイディスクの再構成

障害の発生したアレイディスクが冗長仮想ディスクの一部でも、即座に交換すれば、そのアレイディスクのエラーによってデータが損失することはありません。再構成タスクは、Array Disks オブジェクトが選択されているときに使用できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

グローバルタスク

ストレージオブジェクトを選択すると、次のようなグローバルタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

1. **グローバル再スキャン**。グローバル再スキャンによって、すべてのコントローラとそれらに接続しているコンポーネントの設定変更(新規作成または削除されたデバイスなど)が更新されます。
1. **Smart サーマルシャットダウンを有効および無効にする**。デフォルトでは、PV220S および PV221S エンクロージャが 0 度または 50 度の臨界温度に達すると、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンします。ただし、Smart サーマルシャットダウンを有効にするを設定しておく、エンクロージャが臨界温度に達したときに、エンクロージャのみをシャットダウンして、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンしないように指定することもできます。システムをデフォルト設定に復元するときは、Smart サーマルシャットダウンを無効にするタスクを使用します。

コントローラタスク

コントローラ オブジェクトを選択すると、次のようなコントローラタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

1. **コントローラの再スキャン**。コントローラの再スキャンによって、コントローラに接続しているすべてのコンポーネントの設定変更(新規作成または削除されたデバイスなど)が更新されます。
1. **仮想ディスクの作成**。「[仮想ディスクの作成ウィザード](#)」を参照してください。
1. **アラームを有効にする、無効にする、静止する、テストする**。これらのタスクを使用すると、コントローラのアラームを管理できます。たとえば、デバイス障害の発生時にアラーム音を鳴らすように設定したり、アラームが鳴り出したときに静止したりできます。
1. **再構成率の設定**。再構成率は、障害が発生したアレイディスクを再構成するために、システムリソースをどの程度専有するかを示します。このタスクを使用すると、この設定を調整できます。
1. **設定のリセット**。このタスクは、コントローラの情報をすべて消去して、新しい設定を可能にします。この操作を行うと、コントローラ上の仮想ディスクはすべてクリアされます。
1. **ログファイルのエクスポート**。このタスクは、コントローラのログをテキストファイルにエクスポートします。
1. **外部設定のインポート**。このタスクは、別のコントローラから付け替えられたアレイディスクに存在する仮想ディスクをインポートします。
1. **外部設定のクリア**。[外部設定のクリア] タスクを使うと、新たに取り付けられたアレイディスクから仮想ディスク情報をクリアまたは消去します。
1. **バックグラウンドの初期化率の設定**。このタスクは、バックグラウンドの初期化タスク専用のシステムリソースの量を変更します。
1. **整合性チェック率の設定**。このタスクは、整合性チェックタスク専用のシステムリソースの量を変更します。
1. **再構築率の設定**。このタスクは、再構築タスク専用のシステムリソースの量を変更します。
1. **巡回読み取りモードの設定**。この機能は、ディスク障害およびデータロスまたは破損を防ぐためにディスクエラーを識別します。
1. **巡回読み取りの開始および停止**。巡回読み取りモードが手動に設定されている場合、これらのタスクにより、巡回読み取りタスクを開始したり、実行されているタスクを停止することができます。

す。

バッテリータスク

バッテリー オブジェクトを選択すると、次のようなバッテリータスクを実行できます。このタスクはバッテリーの修整が必要なコントローラでのみ使用可能です。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **バッテリーの修整**。このタスクは、コントローラのバッテリーを完全に消耗させてから再充電します。
- 1 **評価サイクルの開始**。バッテリー評価サイクルを開始するには、評価サイクルの開始タスクを使います。
- 1 **バッテリー評価サイクルの遅延**。このタスクを使用すると、評価サイクルの開始時刻を最高 7 日まで遅らせることができます。

コネクタのタスク

コネクタ オブジェクトを選択すると、次のようなコネクタタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **コネクタの再スキャン**。このタスクは、現在接続しているデバイスを確認したり、コネクタに追加された新規デバイスを識別するために、コントローラコネクタを再スキャンします。コネクタの再スキャンは、コントローラの再スキャンと同様に行います。

エンクロージャタスク

エンクロージャ オブジェクトを選択すると、次のようなエンクロージャタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **アラームを有効および無効にする**。このタスクは、エンクロージャアラームを管理するときに使用します。有効にすると、エンクロージャがエラー状態になったときにアラーム音が鳴ります。
- 1 **資産データの設定**。このタスクは、エンクロージャの資産データと資産名を変更するときに使用します。
- 1 **温度プローブ値の設定**。温度プローブは、エンクロージャの温度をモニタします。各温度プローブには警告とエラーのしきい値があります。警告しきい値は、エンクロージャが高温 / 低温の限度に近いしていることを示します。警告しきい値を変更するときは、このタスクを使用します。
- 1 **点滅**。このタスクは、エンクロージャの発行ダイオード(LED)を点滅させるときに使用します。エンクロージャを位置付けるのに有効です。エンクロージャの LED は、異なる色や点滅パターンを表示することがあります。

温度タスク

温度 オブジェクトを選択すると、次の温度プローブタスクを使用できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **温度プローブの設定**。温度プローブは、エンクロージャの温度をモニタします。各温度プローブには警告とエラーのしきい値があります。警告しきい値は、エンクロージャが高温 / 低温の限度に近いしていることを示します。警告しきい値を変更するときは、このタスクを使用します。

アレイディスクタスク

アレイディスク オブジェクトを選択すると、次のようなアレイディスクタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **点滅と点滅解除**。点滅タスクを使用すると、LED(Light Emitting Diodes)の 1 つを点滅させることで、エンクロージャ内のディスクを検索できます。点滅解除タスクは、この点滅タスクをキャンセルします。
- 1 **無効セグメントの削除**。場合によっては、このタスクで現在使用不可のディスク領域を回復することもできます。
- 1 **グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除**。「[グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除](#)」を参照してください。
- 1 **削除の準備**。このタスクは、ディスクをエンクロージャから取り出す前に行います。データの損失を防ぐため、このタスクはディスクを取り外す前に実行することをお勧めします。
- 1 **オンラインとオフライン**。ディスクを取り外すときは、その前にオフラインタスクで無効しておきます。オフラインディスクを有効にするときは、オンラインタスクを使用します。
- 1 **初期化**。コントローラによっては、アレイディスクを仮想ディスクのメンバーとして使用する準備を初期化タスクで行う場合があります。
- 1 **再構成**。「[障害が発生したアレイディスクの再構成](#)」を参照してください。
- 1 **再構成のキャンセル**。再構成のキャンセルタスクを使うと、進行中の再構成をキャンセルすることができます。
- 1 **アレイディスクのクリアとクリアのキャンセル**。アレイディスクのクリアタスクを使うと、アレイディスクに存在するデータを消去することができます。

仮想ディスクタスク

仮想ディスク オブジェクトを選択すると、次のような仮想ディスクタスクを実行できます。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

- 1 **再設定**。「[仮想ディスクの再構成ウィザード](#)」を参照してください。
- 1 **再構成のキャンセル**。再構成のキャンセルタスクを使うと、進行中の再構成をキャンセルすることができます。
- 1 **再設定のキャンセル**。再設定のキャンセルタスクを使うと、進行中の仮想ディスク再設定をキャンセルすることができます。
- 1 **フォーマットと初期化: 低速初期化と高速初期化**。フォーマットと初期化: 低速初期化と高速初期化タスクは、仮想ディスクのファイルを消去してファイルシステムを削除するときに使用します。

- 1 **バックグラウンドの初期化キャンセル。** コントローラによっては、仮想ディスクの作成後に、冗長仮想ディスクのバックグラウンドの初期化が自動的に開始されます。このタスクは、バックグラウンドの初期化をキャンセルするときに使用します。
- 1 **無効セグメントの復元。** このタスクは、破壊された RAID-5 仮想ディスクのデータを回復するときに使用します。
- 1 **削除。** このタスクは、仮想ディスクの全データを破壊するときに使用します。
- 1 **専用ホットスベアの割り当てと割り当て解除。** 「[グローバルホットスベアの割り当てと割り当て解除](#)」を参照してください。
- 1 **整合性確認、整合性チェックのキャンセル、整合性チェックの一時停止、整合性チェックの再開。** 「[冗長仮想ディスクの整合性の維持](#)」を参照してください。
- 1 **点滅と点滅解除。** このタスクは、仮想ディスクの中にあるアレイドスクのランプを点滅または点滅解除するときに使用します。
- 1 **名前の変更。** このタスクは、仮想ディスクの名前を変更するときに使用します。
- 1 **ポリシーの変更。** このタスクは、仮想ディスクの読み取り、書き込み、またはキャッシュポリシーを変更するときに使用します。
- 1 **ミラー分割。** このタスクは、ミラーデータを元の設定のように RAID 1、RAID 1-連結、または RAID 10 仮想ディスクとして分割するときに使用します。
- 1 **ミラー解除。** このタスクは、ミラーデータを分割し、ミラーの一方の半分を空きスペースとして復元するときに使用します。

その他の Storage Management 機能とマニュアル

Storage Management Service についての完全情報は、「Storage Management オンラインヘルプ」および「Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド」を参照してください。オンラインヘルプの起動方法については、「[オンラインヘルプの表示](#)」を参照してください。

Array Manager から Storage Management への移行

既存の Array Manager インストールを Storage Management と交換する場合、次の移行配慮が適用されます。

- 1 **仮想ディスクの保持。** Array Manager から Storage Management へ移行する場合、仮想ディスク名を保存することができます。ただし、保存する場合は、Storage Management をインストールする前に Array Manager をアンインストールしてはいけません。Storage Management をインストールする前に Array Manager をアンインストールすると、Storage Management は Array Manager で作成された仮想ディスクの名前を変更します。Array Manager がアンインストールされているか否かに関わらず、Storage Management は Array Manager で作成された仮想ディスクを識別および管理できます。
- 1 **SNMP トラップ。** SNMP トラップを処理するアーキテクチャおよび管理情報ベース (MIB) は、Array Manager と Storage Management では異なります。Array Manager から SNMP トラップを受信するようカスタマイズされたアプリケーションは、修正を行う必要がある場合があります。
- 1 **イベントの探番。** Storage Management の警告またはイベントの探番体系は、対応する Array Manager イベントに使用される番号とは異なります。詳細については、「Storage Management オンラインヘルプ」を参照してください。

Storage Management コマンドラインインタフェース

コマンドラインからの Storage Management Service の実行方法については、『Server Administrator Command Line Interface ユーザーズガイド』を参照してください。Storage Management をインストール済みの場合、拡張 `omreport` および `omconfig` コマンドラインオプションに関する情報もオンラインヘルプから参照できます。

オンラインヘルプの表示

Server Administrator はコンテキストに対応したオンラインヘルプを提供します。オンラインヘルプにアクセスするには、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックします。ナビゲーションは、ユーザーの特権レベルと、Server Administrator が管理システムで検出するハードウェアとソフトウェアのグループに応じて、アクセス可能なすべてのウィンドウで利用できます。

Storage Management は追加オンラインヘルプを提供します。このヘルプは、**ストレージ** または下位レベルのツリーオブジェクトを選択すると、利用できます。

Storage Management Service のオンラインヘルプ

- 1 仮想ディスク、RAID など、ストレージの概念を形成する情報の提供
- 1 アプリケーションの各ウィンドウにあるグラフィカルユーザーインターフェイス コンポーネントの説明
- 1 グラフィカルユーザーインターフェイスからタスク実行する手順の詳しい説明
- 1 利用可能な CLI コマンドとそのサブコマンドの説明

Storage Management オンラインヘルプは、次の 2 通りの形態で用意されています。

- 1 **状況に応じたヘルプ。** 操作中にオンラインヘルプにアクセスするには、グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックします。
- 1 **目次。** ヘルプ画面には、オンラインヘルプの目次へのリンクがあります。この目次にアクセスするには、まずグローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックします。次に、**Storage Management 目次ページに戻る** リンクをクリックして目次を表示します。このリンクは各ヘルプ画面の上部と下部に表示されます。オンラインヘルプの全記載内容にアクセスするときは、この目次を使用します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド



メモ: メモは、コンピュータの利用と操作に役立つ重要な情報を説明しています。



注意: 注意は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示し、その危険を回避する方法を説明しています。

このマニュアルの情報は予告なしに変更される場合があります。
© 2006 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可なしには、いかなる方法においても、このマニュアルの複写、転写を禁じます。

このマニュアルで使用されている商標: Dell, DELL ログ、PowerEdge, PowerVault、および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Microsoft, Windows, MS-DOS、および Windows NT は Microsoft Corporation の登録商標です。Windows Server は Microsoft Corporation の商標です。Novell および SUSE は Novell Inc. の登録商標です。Intel および Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Intel386 は Intel Corporation の商標です。Red Hat は Red Hat, Inc. の登録商標です。VESA は Video Electronics Standards Association の登録商標です。UNIX は アメリカ合衆国および他国の The Open Group の登録商標です。OS/2 は International Business Machines Corporation の登録商標です。VMware は VMware の登録商標です。ESX Server は VMware Inc. の商標です。

Server Administrator には、Apache Software Foundation(www.apache.org)によって開発されたソフトウェアが含まれています。Server Administrator は OverLIB JavaScript ライブラリを使用しています。このライブラリは www.bosrup.com から入手できます。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すために、その他の商標や社名が使用されていることがあります。これらの商標や会社名は Dell Inc. に所属するものではありません。

2006 年 2 月

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Server Administrator の使い方

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- [Server Administrator セッションの開始](#)
- [ログインとログアウト](#)
- [Server Administrator ホームページ](#)
- [オンラインヘルプの使い方](#)
- [ユーザー設定ホームページの使い方](#)
- [Server Administrator コマンドラインインタフェースの使い方](#)
- [セキュアポートサーバーとセキュリティのセットアップ](#)
- [Server Administrator の制御](#)

Server Administrator セッションの開始

ローカルシステムで Server Administrator セッションを開始するには、デスクトップの **Dell OpenManage™ Server Administrator** アイコンをクリックします。

リモートシステムで Server Administrator セッションを開始するには、Webブラウザを開いて次の 1 つをアドレスフィールドに入力し、<Enter> を押します。

https://ホスト名:1311


「ホスト名」は管理ノードシステムに割り当てられた名前、1311 はデフォルトのポート番号を表します。


または

https://IP アドレス:1311

「IP アドレス」は、管理下システムの IP アドレス、1311 はデフォルトのポート番号を表します。


Dell OpenManage Server Administrator **ログイン** ウィンドウが表示されます。

 **メモ:** ブラウザに有効な応答を受信できるように、アドレスフィールドに https:// (http://ではないことに注意) と入力します。

 **メモ:** Dell OpenManage Server Administrator のデフォルトポート は 1311 です。ポート番号は必要に応じて変更できます。システム設定の設定方法については、「[セキュアポートサーバーとセキュリティのセットアップ](#)」を参照してください。

ログインとログアウト

Server Administrator にログインするには、事前に割り当てられた **ユーザー名** と **パスワード** をシステム管理 **ログイン** ウィンドウの該当するフィールドに入力します。ログインページをバイパスし、デスクトップの **Dell OpenManage Server Administrator** アイコンをクリックして Server Administrator ウェブアプリケーションにアクセスする方法については、「[シングルサインオン](#)」を参照してください。

 **メモ:** Server Administrator にログインするには、事前に割り当てられたユーザー権限が必要です。新しいユーザーのセットアップ方法については、「[セットアップと管理](#)」を参照してください。

定義されたドメインから Server Administrator にアクセスするには、正しい **ドメイン** 名も指定する必要があります。


 **メモ:** **アプリケーション** ドロップダウンメニューは、1 つの Dell OpenManage Server Administrator コンポーネントにしかアクセスできない、システムでは選択不能フィールドとして表示されます。2 つ以上の Dell OpenManage Server Administrator コンポーネントが管理下システムで使用できる場合にのみ、ドロップダウンメニューは機能します。

Microsoft® Active Directory を使用してログインするには、**Active Directory ログイン** チェックボックスを選択します。

Server Administrator セッションを終了するには、「[グローバルナビゲーションバー](#)」の **ログアウト** をクリックします。**ログアウト** ボタンは、各 Server Administrator ホームページの右上隅にあります。

シングルサインオン

Microsoft Windows® システムでシングルサインオンオプションを使用すると、十分な権限を持つログインユーザーはすべてログインページをバイパスし、デスクトップの **Dell OpenManage Server Administrator** アイコンをクリックするだけで Server Administrator Web アプリケーションにアクセスできます。

 **メモ:** 詳細については、support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;Q258063 の Knowledge Base の記事を参照してください。

ローカルマシンアクセスの場合は、マシンに適切な権限(ユーザー、パワーユーザー、または管理者)のあるアカウントを持っていることが必要です。他のユーザーは Microsoft Active Directory と照合して認証されます。

Microsoft Active Directory に対してシングルサインオン認証を使用して Server Administrator を起動するには、次の追加パラメータを渡す必要があります。

```
authType=ntlm&application={ ブラグイン名 }
```

「ブラグイン名」は *omsa*、*ita* などになります。

例:

```
https://localhost:1311/?authType=ntlm&application=omsa
```

ローカルマシンのユーザーアカウントに対してシングルサインオン認証を使用して Server Administrator を起動するには、次のパラメータも渡す必要があります。

```
authType=ntlm&application=[ ブラグイン名 ]&locallogin=true
```

「ブラグイン名」は *omsa*、*ita* などになります。

例:


```
https://localhost:1311/?authType=ntlm&application=omsa&locallogin=true
```

また、Server Administrator は他の製品 (Dell OpenManage IT Assistant など) もログインページを通らずに直接 Server Administrator の Web ページにアクセスできるように機能が拡張されています (現在ログインしており、適切な権限を持っている場合)。

サポートしている Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステム環境のシステム

サポートしている Windows Server 2003 オペレーティングシステムを実行しているリモート管理システムから Server Administrator にログインするには、ブラウザのセキュリティオプションを設定する必要があります。

ブラウザのセキュリティ設定によっては、Server Administrator が使用するクライアント側のスクリプトを実行できない場合があります。クライアント側のスクリプトを使用できるようにするには、リモート管理システムで次の手順を実行します。

 **メモ:** クライアント側のスクリプトを使用できるようにブラウザを設定していない場合、Server Administrator にログインするときに空白の画面が表示される場合があります。この場合は、エラーメッセージが表示され、ブラウザを設定するように指示が出ます。

Internet Explorer

1. ブラウザを開始します。
2. ツール → インターネット オプション → セキュリティ の順にクリックします。
3. 信頼済みサイトの アイコンをクリックします。
4. サイト をクリックします。
5. ブラウザのアドレスバーからリモート管理システムにアクセスするために使用する Web アドレスをコピーし、次の Web サイトをゾーンに追加する フィールドに貼り付けます。
6. レベルのカスタマイズ をクリックします。

Windows 2000 用:

- その他 の下の、ページの自動読み込み のラジオボタンを選択します。
- アクティブ スクリプト の下の 有効 ラジオボタンを選択します。

Windows 2003 用:

- その他 の下の、ページの自動読み込み のラジオボタンを選択します。
- アクティブ スクリプト の下の 有効 ラジオボタンを選択します。
- アクティブ スクリプト の下の Internet Explorer web ブラウザコントローラのスクリプトを許可する ラジオボタンを選択します。

7. OK をクリックし新しい設定を保存します。
8. ブラウザを閉じます。
9. Server Administrator にログインします。

Server Administrator に、ユーザーの資格情報のプロンプトを表示せずにシングルサインオンするには、次の手順を実行してください。


1. ブラウザを開始します。
2. ツール → インターネット オプション → セキュリティ の順にクリックします。
3. 信頼済みサイトの アイコンをクリックします。
4. サイト をクリックします。

5. ブラウザのアドレスバーからリモート管理システムにアクセスするために使用する Web アドレスをコピーし、次の Web サイトをゾーンに追加するフィールドに貼り付けます。
6. レベルのカスタマイズ をクリックします。
7. ユーザー認証で、現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする のラジオボタンを選択してください。
8. OK をクリックし新しい設定を保存します。
9. ブラウザを閉じます。
10. Server Administrator にログインします。

Mozilla

1. ブラウザを開始します。
2. 編集 → プリファランス の順にクリックします。
3. 詳細設定 → スクリプトとプラグイン をクリックします。
4. Navigator チェックボックスで JavaScript を有効にする が選択されていることを確認します。
5. OK をクリックし新しい設定を保存します。
6. ブラウザを閉じます。
7. Server Administrator にログインします。

Server Administrator ホームページ

 **メモ:** Server Administrator を使用中は、Web ブラウザのツールバーボタン(戻る、更新)を使用しないでください。Server Administrator のナビゲーションツールだけを使用してください。

いくつか例外がありますが、Server Administrator には 3 つの主な領域があります。

1. [グローバルナビゲーションバー](#) は一般的なサービスへのリンクを提供します。
1. [システムツリー](#) には、ユーザーのアクセス特権に基づいて、表示可能なすべてのシステムオブジェクトが表示されます。
1. [処置ウィンドウ](#) には、ユーザーのアクセス特権に基づいて、選択したシステムツリーオブジェクトで使用可能な管理処置が表示されます。処置ウィンドウには 3 つの機能領域があります。
 - 処置タブには、ユーザーのアクセス特権に基づいて、選択したオブジェクトで使用可能な一次処置または処置のカテゴリが表示されます。
 - 処置タブは、ユーザーのアクセス特権に基づいて、処置タブで使用可能な二次オプションのサブカテゴリに分かれています。
 - [データ領域](#) には、ユーザーのアクセス特権に基づいて、選択したシステムツリーオブジェクト、処置タブ、およびサブカテゴリの情報が表示されます。

さらに Server Administrator ホームページにログインすると、システムモデル、システムに割り当てられた名前、および現在のユーザーのユーザー名とユーザー特権 がウィンドウの右上隅に表示されます。

[図 5-1](#) は、管理者権限でログインしたユーザーに表示される Server Administrator ホームページのレイアウトを示しています。

図 5-1 Server Administrator ホームページの例



システムツリーのオブジェクトをクリックすると、そのオブジェクトに対応する処置ウィンドウが開きます。主なカテゴリを選択するには処置タブをクリックし、詳細情報や特定の処置にアクセスするには処置タブのサブカテゴリをクリックして、処置ウィンドウを移動します。処置ウィンドウのデータ領域に表示される情報は、システムログから、状態インジケータ、システムブロープゲージまでさまざまです。処置ウィンドウのデータ領域で下線が付いたアイテムには、さらに詳細レベルの機能があります。下線が付いたアイテムをクリックすると、処置ウィンドウに詳細レベルを持つ新しいデータ領域が作成されます。たとえば、**プロパティ** 処置タブの **正常性** サブカテゴリにある **メインシステムシャーシ** をクリックすると、正常性状態をモニタしたメインシステムシャーシオブジェクトに含まれるすべてのコンポーネントの正常性状態が表示されます。

メモ: システムツリー オブジェクト、システム コンポーネント、処置 タブ、データ領域の多くの機能は、ユーザー特権だけでログインしたユーザーは使用できません。設定可能なシステムツリー オブジェクト、システムコンポーネント、処置タブ、データ領域の機能を表示するには、システム管理者かパワユーザー特権が必要です。また、**シャットダウン** タブのシャットダウン機能にアクセスできるのは、管理者権限でログインしたユーザーだけです。

グローバルナビゲーションバー

グローバルナビゲーションバーとそのリンクは、プログラムの場所を問わず、すべてのユーザーレベルでご利用いただけます。

- 1 **プリファランス** をクリックすると、**プリファランス** ホームページが開きます。「[ユーザー設定ホームページの使い方](#)」を参照してください。
- 1 **サポート** をクリックすると、Dell™ サポートの Web サイトに接続します。
- 1 **ヘルプ** をクリックすると、オンラインヘルプのウィンドウが開きます。「[オンラインヘルプの使い方](#)」を参照してください。
- 1 **バージョン情報** をクリックすると、Server Administrator のバージョン情報と著作権情報が表示されます。
- 1 **ログアウト** をクリックすると、現在の Server Administrator プログラムセッションを終了します。

システムツリー

システムツリーは Server Administrator ホームページの左側に表示され、システムの表示可能なコンポーネントをリストにします。システムコンポーネントはコンポーネントの種類によって分類されています。**システム** として知られるメインのオブジェクトを展開したときに表示されるシステムコンポーネントのカテゴリには、**メインシステムシャーシ**、**ソフトウェア**、**ストレージ**などがあります。

ツリーを展開するには、オブジェクトの左側にあるプラス記号 (+) をクリックするか、オブジェクトをダブルクリックします。マイナス記号 (-) が付いているものは、展開されていてそれ以上展開できないエントリを指します。

処置 ウィンドウ

システムツリーのアイテムをクリックすると、コンポーネントまたはオブジェクトについての詳細が処置ウィンドウのデータ領域に表示されます。処置 タブをクリックすると、使用できるすべてのユーザーオプションがサブカテゴリのリストとして表示されます。

システムツリーのオブジェクトをクリックすると、コンポーネントの処置ウィンドウが開き、使用できる処置タブが表示されます。データ領域にはデフォルトでは、選択したオブジェクトの最初の処置 タブから事前選択されたサブカテゴリが表示されます。事前選択されたサブカテゴリは通常、最初のオプションです。たとえば、**メインシステムシャーシ** オブジェクトをクリックすると処置ウィンドウが開き、そのウィンドウのデータ領域には **プロパティ** 処置タブと **正常性** サブカテゴリが表示されます。





データ領域

データ領域はホームページ右側の処置タブの下にあります。データ領域は、システムコンポーネントのタスクを実行したり詳細を表示したりする場所です。ウィンドウに表示される内容は、現在選択されているシステムツリーオブジェクトと処置タブによって異なります。たとえばシステムツリーから BIOS を選択すると、デフォルトでは **プロパティ** タブが選択され、システム BIOS のバージョン情報がデータ領域に表示されます。処置 ウィンドウのデータ領域には、状態インジケータ、タスクボタン、下線アイテム、およびゲージインジケータなど多くの共通機能があります。

システムコンポーネント状態インジケータ

コンポーネント名の横のアイコンはそのコンポーネントの状態を表します(ページの最終更新時点)。


表 5-1 システムコンポーネント状態インジケータ

	緑のチェックマークは、コンポーネントが健全(正常)であることを示します。
	感嘆符が入った黄色の三角形は、コンポーネントが警告(危機ではない)状態にあることを示します。この状況は、プローブまたはその他のモニタツールによって特定の最小値や最大値を満たさないコンポーネントが検出された場合に発生します。警告状態は早めの対処を要します。
	赤い X は、コンポーネントが危機(エラー)状態にあることを示します。この状態は、プローブまたはその他のモニタツールによって特定の最小値や最大値を満たさないコンポーネントが検出された場合に発生します。危機状態は早急な対処を要します。
	ブランクスペースは、コンポーネントの正常性が不明であることを示します。

タスクボタン

Server Administrator から開くウィンドウには少なくとも 4 つのタスクボタン、**印刷**、**エクスポート**、**電子メール**、**更新** があります。一部のウィンドウにはその他のタスクボタンも含まれています。たとえば、ログ ウィンドウには、**名前を付けて保存** ボタンと **ログのクリア** ボタンもあります。各タスクボタンに固有の情報は、Server Administrator ホームページの **ヘルプ** をクリックすると表示中の特定のウィンドウについて詳細が表示されます。

- 1 **印刷** をクリックすると、開いているウィンドウのコピーがデフォルトのプリンタに印刷されます。
- 1 **エクスポート** をクリックすると、開いているウィンドウの各データフィールドの値を一覧にしたテキストファイルが作成されます。エクスポートファイルは指定の場所に保存されます。デリミタでデータフィールド値を区切る方法については、「[ユーザーとサーバーのプリファランスの設定](#)」を参照してください。
- 1 **電子メール** をクリックすると、指定の電子メール受取人に宛てた電子メールメッセージが作成されます。電子メールサーバーとデフォルトの電子メール受信者の設定方法については、「[ユーザーとサーバーのプリファランスの設定](#)」を参照してください。
- 1 **更新** をクリックすると、処置ウィンドウのデータ領域のシステムコンポーネント状態の情報が再ロードされます。
- 1 **名前を付けて保存** をクリックすると、処置ウィンドウの HTML ファイルが .zip ファイルに保存されます。
- 1 **ログのクリア** をクリックすると、処置ウィンドウのデータ領域に表示されたログからすべてのイベントが消去されます。

 **メモ:** エクスポート、電子メール、名前を付けて保存、および ログのクリア ボタンは、パワーユーザー特権または管理者権限でログインしたユーザーにのみ表示されます。

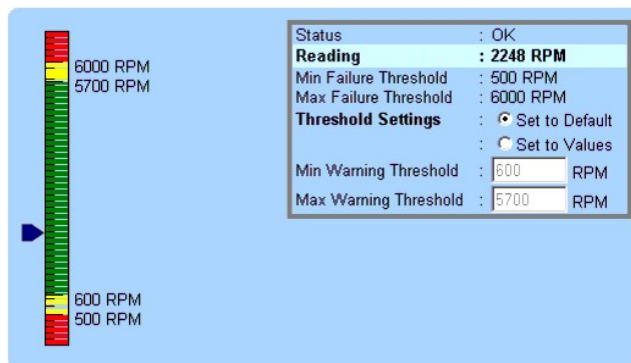
下線付きアイテム

処置ウィンドウのデータ領域の下線付きアイテムをクリックすると、そのアイテムの詳細が表示されます。

ゲージインジケータ

温度プローブ、ファンプローブ、および電圧プローブはそれぞれゲージインジケータで表されます。たとえば、[図 5-2](#) には、システムの CPU ファンプローブからの読み取り値が表示されています。

図 5-2 ゲージインジケータ



オンラインヘルプの使い方

Server Administrator ホームページの各ウィンドウでは、状況に応じたオンラインヘルプを使用できます。グローバルナビゲーションバーの **ヘルプ** をクリックすると、表示中のウィンドウについて詳しい情報が掲載されたヘルプウィンドウが開きます。オンラインヘルプは、Server Administrator サービスの各要素を実行するのに必要な特定の動作について説明するように設計されています。Server Administrator が検出するシステムのソフトウェアとハードウェアのグループとユーザー特権レベルに従って、表示可能なすべてのウィンドウにオンラインヘルプが用意されています。

ユーザー設定ホームページの使い方

プリファランス ホームページのデフォルトウィンドウは、**プリファランス** タブにある **アクセス設定** です。

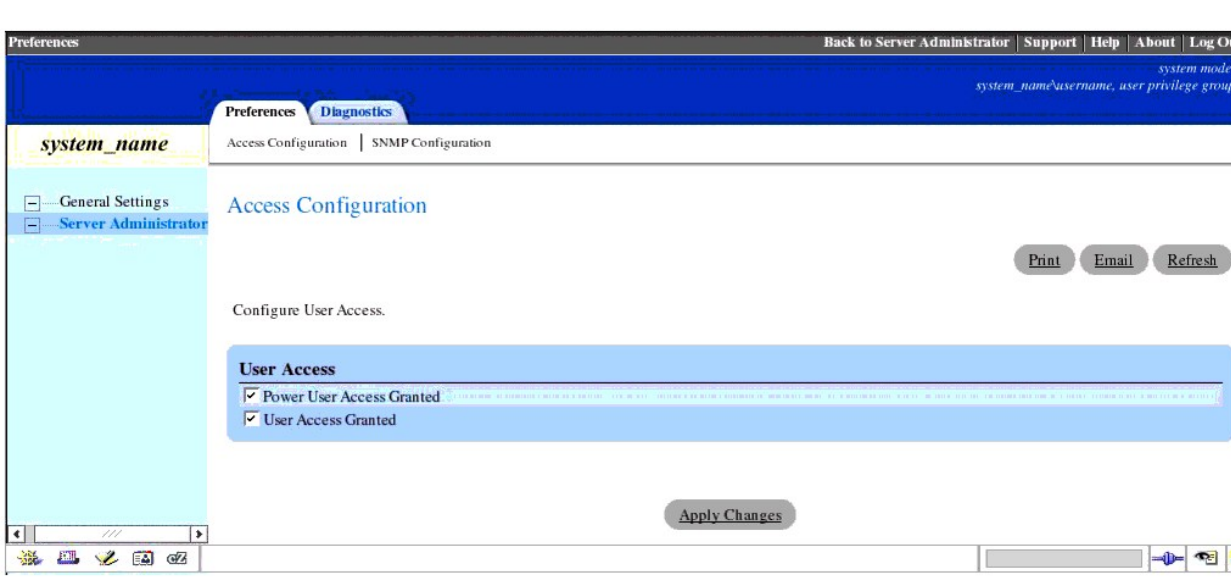
プリファランスホームページから、「ユーザー」と「パワーユーザー」特権を持つユーザーへのアクセスを制限したり、SNMP パスワードを設定したり、ユーザーとセキュリティ保護されたポートシステムのプリファランスを設定できます。

Server Administrator ホームページ同様、プリファランスホームページには 3 つの主な領域があります。

- 1 グローバルナビゲーションバーは一般サービスへのリンクを提供します。
 - **Server Administrator に戻る** をクリックすると、Server Administrator のホームページに戻ります。
- 1 プリファランスホームページの左ウィンドウ枠(システムツリーが Server Administrator ホームページで表示されている)には、Managed System のプリファランスカテゴリが表示されません。
- 1 処置ウィンドウでは、Managed System で使用できる設定とプリファランスを表示します。

図 5-3 では、サンプルプリファランスホームページレイアウトを表示します。

図 5-3 サンプルプリファランスホームページ



Server Administrator コマンドラインインタフェースの使い方

Server Administrator コマンドラインインタフェース(CLI)を使うと、ユーザーはモニタしているシステムのオペレーティングシステムのコマンドプロンプトから必要なシステム管理タスクを実行できます。

CLI は、特定のタスクを念頭に置いたユーザーがシステム情報を迅速に取得するのに役立ちます。たとえば CLI を使用すると、管理者は特定の時間に実行されるバッチプログラムやスクリプトを作成できます。これらのプログラムが実行されると、ファン RPM などの対象コンポーネントについてレポートを入手できます。CLI ではスクリプトを追加すると、システム利用度が高いときにデータを入手して、システム利用度が低いときの測定値と比較できます。コマンド結果はファイルに転送して、あとで分析できます。レポートは、管理者が使用パターンを調整したり、新しいシステムリソース購入を実証したり、問題のあるコンポーネントの正常性に注目する場合に役立ちます。

CLI の機能と使い方の詳細については、『Server Administrator コマンドラインインタフェースユーザーズガイド』を参照してください。


セキュアポートサーバーとセキュリティのセットアップ

この項には以下のトピックがあります。

- 1 [ユーザーとシステムのプリファランスの設定](#)
- 1 [X.509 証明書の管理](#)

ユーザーとシステムのプリファランスの設定

プリファランスホームページから、ユーザーとセキュアポートシステムを設定します。

 **メモ:** ユーザー、またはシステム設定をリセットするには、「システム管理者」特権でログインする必要があります。


次の手順を実行して、ユーザープリファランスを設定します。

1. グローバルナビゲーションバーの **プリファランス** をクリックします。

プリファランスホームページが表示されます。

2. **一般設定** をクリックします。

3. 事前選択された電子メール受取人を追加するには、指定のサービス連絡先の電子メールアドレスを **メール送信先** フィールドに入力して、**変更の適用** をクリックします。

 **メモ:** 任意のウィンドウで **電子メール** をクリックすると、そのウィンドウの添付 HTML ファイルと一緒に電子メールアドレスに送信するメッセージが送信されます。

4. ホームページの外観を変更するには、**スキン** または **スキーム** フィールドで別の値を選択して **変更の適用** をクリックします。

。

次の手順を実行して、セキュアポートシステムの環境を設定します。

1. グローバルナビゲーションバーの **プリファランス** をクリックします。


プリファランスホームページが表示されます。

2. **一般設定** と **Webサーバー** タブをクリックします。


3. **サーバー設定** ウィンドウで、必要に応じてオプションを設定します。

1. **セッションのタイムアウト** 機能を使用すると、Server Administrator がアクティブである時間の制限を設定できます。指定の時間(分)、ユーザー操作がない場合に Server Administrator をタイムアウトにするには、**有効にする** ラジオボタンを選択します。セッションがタイムアウトしたユーザーは、セッションを続行するにはログインし直す必要があります。Server Administrator セッションタイムアウト機能を無効にするには、**無効** ラジオボタンを選択します。


1. **HTTPS ポート** フィールドでは、Server Administrator のセキュアポートを指定します。Server Administrator のデフォルトのセキュアポートは 1311 です。

 **メモ:** ポート番号を、無効な番号または使用中のポート番号に変更すると、その他のアプリケーションまたはブラウザが Managed System の Server Administrator にアクセスできなくなる可能性があります。デフォルトポートの一覧については、『Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。

1. **IP アドレスのバインド先** フィールドで、セッション開始時に Server Administrator がバインドする Managed System の IP アドレスを指定します。システムに該当するすべての IP アドレスをバインドする場合は、**すべて** ラジオボタンを選択します。特定の IP アドレスにバインドする場合は、**特定** ラジオボタンを選択します。

 **メモ:** IP アドレスのバインド先の値を **すべて** 以外の値に変更すると、他のアプリケーションまたはブラウザが Managed System の Server Administrator にアクセスできなくなる可能性があります。

1. **SMTP サーバー名** フィールドと **SMTP サーバーの DNS サフィックス** フィールドでは、所属会社または組織の SMTP とドメイン名サーバー(DNS)のサフィックスを指定します。Server Administrator で電子メールを送信できるようにするには、適切なフィールドに所属会社または組織の SMTP サーバーの IP アドレスと DNS サフィックスを入力する必要があります。

 **メモ:** セキュリティ上の理由から、SMTP サーバーから外部アカウントへの電子メール送信を許可していない会社や組織もあります。

1. **コマンドログサイズ** フィールドでは、コマンドログファイルの最大ファイルサイズを MB 単位で指定します。

1. **サポートリンク** フィールドでは、管理システムのサポートを提供する事業者の URL を指定します。

1. **カスタム区切り文字** フィールドでは、**エクスポート** ボタンを使用して作成されたファイルでデータフィールドを区切る文字を指定します。; 文字はデフォルトの区切り文字です。その他のオプションは !、@、#、\$、%、^、*、~、?、:、|、および、です。

4. **サーバー設定** ウィンドウのオプション設定が完了したら、**変更の適用** をクリックします。

X.509 証明書管理

リモートシステムの身元を確認し、リモートシステムとやり取りする情報を他の人が閲覧したり変更したりできないようにするには、Web 証明書が必要です。システムセキュリティを確保するには、新しい X.509 証明書を生成するか、既存の X.509 証明書を再利用するか、証明機関(CA)からルート証明書または証明書チェーンをインポートすることをお勧めします。


 **メモ:** 証明書管理を実行するには、管理者権限でログインする必要があります。

プリファランスホームページを使って X.509 証明書を管理するには、**一般設定** をクリックし、**Webサーバー** タブをクリックしてから **X.509 証明書** をクリックします。

X.509 証明書ツールを使用すると、新しい X.509 証明書の作成、既存の X.509 証明書の再利用、ルート証明書か CA からの証明書チェーンのインポートなどができます。承認されている CA には、VeriSign、Entrust、および Thawte があります。

Server Administrator の制御

Server Administrator は、Managed System を再起動するたびに自動的に起動します。Server Administrator の手動起動、停止、再起動を行うには、次の手順を使用します。

 **メモ:** Server Administratorを制御するには、管理者権限でログインする必要があります(対応の Red Hat® Enterprise Linux または SUSE® LINUX Enterprise Server オペレーティングシステムでは root でログイン)。

Server Administrator の起動

Microsoft Windows オペレーティングシステム

Server Administrator を開始するには、サポートしている Microsoft Windows オペレーティングシステム環境のシステムで、以下の手順で実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定**→**コントロール パネル**→**管理ツール**→**サービス** の順にポイントします。
サービス ウィンドウが表示されます。
2. **セキュリティ保護されたポートサーバー** アイコンを右クリックします。
3. **スタート** をクリックします。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム

対応の Red Hat Enterprise Linux または SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator を起動するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
dsm_om_connsvc start
```

Server Administrator の停止

Microsoft Windows オペレーティングシステム

Server Administrator を停止するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定**→**コントロール パネル**→**管理ツール**→**サービス** の順にポイントします。
サービス ウィンドウが表示されます。
2. **セキュリティ保護されたポートサーバー** アイコンを右クリックします。
3. **停止** をクリックします。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム

対応の Red Hat Enterprise Linux または SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator を停止するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
dsm_om_connsvc stop
```

Server Administrator の再起動

Microsoft Windows オペレーティングシステム

Server Administrator を再起動するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**設定**→**コントロール パネル**→**管理ツール**→**サービス** の順にポイントします。
サービス ウィンドウが表示されます。

2. **セキュリティ保護されたポートサーバー** アイコンを右クリックします。
3. **再起動** をクリックします。

対応の Red Hat Enterprise Linux および SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム

対応の Red Hat Enterprise Linux または SUSE LINUX Enterprise Server オペレーティングシステム環境のシステムで Server Administrator を再起動するには、コマンドラインから次のコマンドを実行します。

```
dsm_om_consvc restart
```

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

バージョン 5.0 の新機能

Dell OpenManage™ Server Administrator バージョン 5.0 ユーザーズガイド

- 1 SUSE® LINUX Enterprise Server (バージョン 9)、Intel® Extended Memory 64 Technology (Intel EM64T) システム SP3 に対するサポートを追加
 - 1 次の RAID カードに対するサポートを追加: PERC 5/i アダプタ、PERC 5/i Integrated、SAS 5/E アダプタ、SAS 5/i Integrated、SAS 5/IR アダプタ、および SAS 5/IR Integrated
 - 1 次の Dell™ PowerEdge™ システムに対するサポートの追加: 1900、1950、1955、2900、および 2950
 - 1 Dell Remote Access Controller (DRAC) 5 に対するサポートの追加
 - 1 バッテリーセンサーをモデルとしたバッテリーセンサーに対するサポートの追加
 - 1 Filesystem Hierarchy Standard バージョン 2.3 に対するサポートの追加
 - 1 Intelligent Platform Management Interface (IPMI) 2.0 に対するサポートの追加
- IPMI 規格は、メインプロセッサから独立してキープラットフォームのモニタリングおよび管理を行うハードウェアまたはソフトウェアのサブシステムを定義します。仕様は、専用のマイクロコントローラまたはベースボード管理コントローラ (BMC) に基づき、システム管理に対するメッセージベースの通信プロトコルを定義します。
- アップデートには、アドイン管理コントローラ付きの IPMI 準拠 BMC の使用に対するサポートを強化する新たなオプションコマンドが含まれています。Server Administrator では、システムイベントログ (SEL) の API が IPMI 2.0 に準拠しています。
- 1 Intel ブランドに対するサポートを追加
- Intel は、サーバーおよびワークステーションプラットフォーム上のコンポーネント識別を変更しました。コンポーネントはプロセッサの番号、チップセットの番号または名前、ボードの番号または名前になっています。詳細については、Intel のウェブサイトを参照してください。
- 1 前面パネル LCD の設定に対するサポートの追加
- 前面パネル LCD のメッセージをカスタマイズすることができます。ただし、エラーまたは警告中にはシステムアラートが表示されます。デフォルトの LCD メッセージはサーバーモデルの名前です。メッセージは英語で表示され、言語を変更することはできません。
- 1 起動後のコンソールリダイレクトの追加設定
- COM1 および COM2 ポートを使ってコンソールリダイレクトを設定することができます。COM1 および COM2 は、割り込み共有をサポートしない標準シリアル通信ポートです。コンソールリダイレクトを設定するには、**システム → メインシステムシャーシ → BIOS → 設定 → シリアル通信** を選択します。
- 1 警告ログエントリに対するイベントヒントの追加
- イベントヒントの説明を表示するには、**システム → ログ → 警告** を選択します。個々のイベント ID をクリックすると、そのイベント ID の詳細リスト、詳細説明、重要度および原因が表示されます。イベント ID の詳細リスト、詳細説明、重要度および原因については『Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。
- 1 TCP/IP Offload Engine (TOE) が有効かどうかのレポート
- グラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) で TOE が有効かどうかをチェックするには、**システム → メインシステムシャーシ → ネットワーク** を選択します。CLI では、`omreport chassis nics index=n` (n は NIC インデックス) と入力します。
- 1 **日付** などの新しいフィールドを含むフィールドで交換可能なパーツ (FRU) のサポートをアップデート
- GUI では、**システム → メインシステムシャーシ → プロパティ** を選択します。CLI では、`omreport chassis fru` と入力します。
- 1 USB ポートの設定に対するサポートの追加
- GUI では、**システム → メインシステムシャーシ → BIOS** を選択します。CLI では、`omconfig chassis biossetup attribute=uausb setting=<on | backonly | off>` と入力します。
- 1 CPU 仮想化テクノロジー および CPU ハイパースレディングに対するサポートの追加
- GUI では、**システム → メインシステムシャーシ → BIOS → 設定** を選択します。詳細については『Server Administrator オンラインヘルプ』を参照してください。CPU 仮想化テクノロジーに対し、CLI では `omconfig chassis biossetup cpuvt` と入力します。CPU ハイパースレディングに対しては、`omconfig chassis biossetup cpuht` と入力します。詳細については『Dell OpenManage™ インストールとセキュリティユーザーズガイド』を参照してください。
- CPU ハイパースレディングでは、各プロセッサのコアは最高 2 つの論理デバイスプロセッサまでサポートします。このオプションが有効な場合 (デフォルト)、BIOS はすべての論理デバイスプロセッサをレポートします。このオプションが無効な場合、BIOS は 1 つのコアに対し 1 つの論理デバイスプロセッサのみをレポートします。
- 仮想化テクノロジーが有効な場合、仮想化テクノロジーにより提供される追加ハードウェア機能が使用可能になります。
- 1 サービスおよび実行可能ファイルに対し Dell スタンド名仕様を使用
 - 1 『Dell PowerEdge Installation and Server Management CD』のみを使用して Server Administrator 5.0 のアップグレードを実現。
 - 1 GNU Compiler Collection (GCC) コンパイラサポートを 3.x にアップデート。
 - 1 次の Dell PowerEdge システムに対するサポートを削除。x4xx および x5xx
 - 1 Array Manager に対するサポートを削除。
 - 1 Local Response Agent (LRA) に対する **スピーカー呼出音** 処置を削除。

[目次ページに戻る](#)